

時間割コード	KB8251	ナンバリング	KB-GHS-131	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	月4	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	L P S	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2020年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	法律・政治				
担当教員（ローマ字表記）	松井 良和				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

労働法 I

授業の概要/Course Overview

将来、皆さんが就職をして社会に出たとき、働くことに関する様々な問題に直面することがあります。また、アルバイトをしている人は実際、労働法をめぐる問題に遭遇し、疑問を感じることに直面しているかもしれません。

このように労働法は皆さんにとって非常に身近な法律です。しかし、非常に多くの法律が関係することから初めて勉強するときには戸惑うこともあります。

この授業ではまず、労働法の全体像を把握したうえで、労働関係の出発点に当たる労働契約の意味と採用内定の法的問題について学習します。また、憲法の授業で学んだ内容を踏まえ、職場における労働者の基本権保障の意味についても学びます。その上で、労働条件を決定する上で日本では極めて決定的な意味を持つ就業規則について学習します。

授業では、皆さんの周りにある身近な問題を取り上げて、基本的な用語や労働法の基本的な考え方を学習します。これらと同時に、授業の中では新しい判決も取り上げますので、今、企業の現場で何が起こっているのかということも学んでいきます。

これらのことと併せて、ドイツの「労働4.0」に代表されるような、先進諸国で展開されている立法政策についても授業の中で言及し、日本の雇用、立法、社会政策について幅広く学習します。

キーワード/Keyword(s)

労働基準法、労働契約法、憲法、民法、採用内定、試用期間、労働条件、就業規則、賃金、労働時間

到達目標/Learning Objectives

労働法で登場する基礎的な用語の意味や基本的な考え方を学び、今、現実に行っている問題を法的に把握する力を身に付けることができます。

具体的には、労働法の適用範囲を決める労働者及び使用者の概念、会社が作成した就業規則による労働条件決定・変更法理など、労働法の基礎であり最重要問題について考える力を身に付けることができます。

これらの問題を考えることを通じて、最新の判例を検討する際に必要となる応用的思考の前提となる、基本的な法的思考力を養うことができます。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

1. イントロダクション-ガイダンス・労働法の全体像及び学び方について
2. 労働法上の労働者と使用者の概念-労働法の適用範囲
3. 労働契約の意義-労働契約の成立、労働契約上の様々な義務
4. 採用内定・試用期間-労働関係の始期
5. 憲法と労働法①-労働者の人格権、パワハラ、プライバシーの問題
6. 憲法と労働法②-職場における男女の平等
7. 憲法と労働法③-公務員の労働基本権に対する制約
8. 就業規則による労働条件決定と変更、試験

【授業外学修】

各授業の資料は授業前にポータルシステムにアップロードするので、事前に目を通して予習をしてください。

労働法が関係する様々な問題について、ニュースや新聞記事等をチェックしてアンテナを張っておいてください。

各回の授業内容については、「今日のまとめ」としてレジユメの最後に要点をまとめています。授業後に穴埋めをすることで授業内容を復習してください。

授業では基本的に配布するレジユメに沿って内容を説明していきますが、教科書や参考文献に挙げた基本書の該当箇所を読むことで内容の理解を深めてください。

【アクティブ・ラーニング】

毎回の授業でリアクションペーパーを配布します。初回の授業「1.イントロダクション」では、受講者の関心のあるテーマについて記述してもらい提出してもらいます。その内容によって授業内容を調整します。

リアクションペーパーには授業の疑問点やその他、皆さんが目にした労働法の問題について自由に記入してください。授業の冒頭に、リアクションペーパーに書いてもらった内容を振り返ります。

履修上の注意/Notes

授業の中では憲法や民法に関連する用語も登場してくるので、「民法概論」や「日本国憲法概論」などの授業で学んだ内容を復習しておくことが望めます。

また、労働法の領域では常に新しい問題が日々登場しているので、日頃から新聞やニュース等に接しておくことが望ましいです。

情報端末の活用

授業で用いるレジユメや資料はポータルシステムにアップするので、そちらから各自でダウンロードしてください。

成績評価基準/Evaluation criteria

A+ 労働法で登場する基礎的な用語の意味や基本的な考え方を十分に習得し、さらに、自分の意見や見解について根拠を示して説明することが出来ている。

A 労働法で登場する基礎的な用語の意味や基本的な考え方を習得し、さらに、自分の意見や見解を説明することが出来ている。

B 労働法で登場する基礎的な用語の意味や基本的な考え方を概ね習得し、さらに、自分の意見や見解を述べている。

C 労働法で登場する基礎的な用語の意味や基本的な考え方を最低限習得し、自分の意見や見解を述べている。

D 労働法で登場する基礎的な用語の意味や基本的な考え方を習得することができておらず、自分の意見や見解を述べられていない。

成績の評価方法/Grading

リアクションペーパーの内容（15%）、授業中に行う小テスト（25%）と試験（60%）で評価を行います。

毎回の授業の際、レジユメと併せて「練習問題」とリアクションペーパーを配布します。授業後にこれらを回収して出席確認をします。

教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	有斐閣アルマ ベーシック労働法 第7版
著者名	浜村彰
出版社	有斐閣
出版年	
ISBN	9784641221321
教材費	2090

教科書2

書名	労働判例百選
著者名	村中／孝史 編
出版社	有斐閣
出版年	2016
ISBN	9784641115316
教材費	2400

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	労働法
著者名	菅野 和夫 著・文・その他
出版社	弘文堂
出版年	
ISBN	9784335315473
教材費	6500

参考書2

書名	労働法 第2版
著者名	西谷敏
出版社	日本評論社
出版年	
ISBN	9784535519695
教材費	5170

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	○
専門分野の学力	◎
課題解決能力	◎
コミュニケーション力	◎
実践的英語力	△
社会人としての姿勢	◎
地域活性化志向	◎

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

--

地域志向科目

--

使用言語

日本語

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等
--------	--	-------

時間割コード	KB8252	ナンバリング	KB-GHS-131	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	月4	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	L P S	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2020年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	法律・政治				
担当教員（ローマ字表記）	川島 佑介				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

政治と行政の視座

授業の概要/Course Overview

本講義では、高校までの現代社会系科目を復習しつつ、大学教養科目として政治学・行政学の基礎的な視角を論じます。高校までの授業が正解を教えるものであるのに対し、大学で行われるこの授業では、理念や実態について、その歴史や背景、正負の効果などの解説に重点を置きます。

キーワード/Keyword(s)

社会科学、政治、行政、集合行為問題、権力、自由主義、民主主義、官僚制、政策

到達目標/Learning Objectives

第一に、様々な社会現象について、社会科学の視座から理解することができること。第二に、自らの意見を練り上げ、他人に説得的なかたちで論じることができるようになること。第三に、以上を踏まえ、高度教育を修めた人間として、世の中に貢献できる人材になること。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

1. ガイダンス：なぜ教養として社会科学、そして政治学・行政学を学ぶのか
2. 集合行為問題
3. 権力とは何か
4. 自由主義と民主主義の相克
5. 代理人としての政治家・官僚
6. 近代官僚制の仕組み
7. 政策の捉え方
8. 授業のまとめとテスト

【授業外学修】

- (1) 日々のニュースに注意を払い、社会科学的な知識と考察の力を深めてください。
- (2) 授業でレジュメを配布しますので、事項について復習してください。
- (3) 事実関係で不明点がある場合には、インターネットなどを用いて、自分で調べ、調査力も上げてください。ただし、それでも分からない場合には、後述する質問意見用紙で聞いてください。

【アクティブ・ラーニング】

- (1) 第1～7回目には、質問意見用紙の回収を行い、それぞれ第2～8回目の授業冒頭で回答・講評を行いますので、質問や意見がある人は、授業中あるいは授業後に記入・提出してください。

履修上の注意/Notes

他の受講生の迷惑となる私語、香りが強い飲食物の喫食、香水の着用は控えてください。仮に私語が改善されない場合には、座席指定とします。また、本講義では質問意見用紙を通じたアクティブラーニングを実施しますが、減点方式ではないので、率直な内容を書いてください（なお、質問意見がなければ、提出しなくても結構です。第1回目の授業で説明します）。

情報端末の活用

特に必須ではありませんが、調べものをする際には積極的に使って下さい。

成績評価基準/Evaluation criteria

- A+：政治学・行政学の基本的な知識と考え方を十分に修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
A：政治学・行政学の基本的な知識と考え方を修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
B：政治学・行政学の基本的な知識と考え方を概ね修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
C：政治学・行政学の基本的な知識と考え方について最低限の修得をしており、さらにその仕組みについて説明できている。
D：政治学・行政学の基本的な知識と考え方が修得できておらず、さらにその仕組みについての説明ができていない。

成績の評価方法/Grading

テスト(85%)、質問意見用紙(15%)

教科書/Textbook(s)

備考	教科書は用いません。参考書は随時紹介します。
----	------------------------

参考書/Reference Book(s)

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	◎
課題解決能力	◎
コミュニケーション力	○
実践的英語力	△
社会人としての姿勢	○
地域活性化志向	◎

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

地域志向科目

--

使用言語

日本語のみ（ただし、個別の質問意見については英語も可）

実務経験のある教員による授業科目

自治体委員、大学付属研究所研究員、専門学校講師経験のある教員が、その経験を活かして、行政のこんにち的課題と動態のあり方を具体的に指導し、公務員として活躍するための資質を育成する。

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供	受講条件等

時間割コード	KB8253	ナンバリング	KB-GHS-131-COE	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	月4	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	L P S	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2020年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	経済・経営				
担当教員（ローマ字表記）	清山 玲				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

子どもの貧困問題を考える

授業の概要/Course Overview

国家の貧困問題への対応の仕方は、国や時代によって大きく異なります。経済学は貧困問題と長い間格闘してきました。いま、日本の子どもたちに存在する貧困の実態、なぜ先進国である日本に子どもの貧困問題が存在するのか、この問題に対する政策支援の内容とその変遷を講義します。その際、子どもの貧困問題に対して国や自治体に取り組むべき理由や具体的な政策について、経済学的視点から解説します。

キーワード/Keyword(s)

子どもの貧困、相対的貧困、貧困の世代間連鎖、生活保護制度、生活困窮者自立支援制度、ナショナル・ミニマム、ワーキングプア、子ども食堂、学習支援、ウェーブ夫妻、ケインズ、ベヴァリッジ、ピケティ

到達目標/Learning Objectives

1)子どもの貧困問題とその政策的対応に関する基礎的な用語等を説明できる。2)問題解決に向けて国家の政策の内容や必要性や意義を考察し論じることができる。3)問題解決に向けて自分には何ができるかを具体的に考察できる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- 1.シラバスを用いたガイダンス、経済学と貧困問題
- 2.絶対的貧困と相対的貧困から日本の子どもの貧困の実態を考える
- 3.子どもの貧困の実態：所得格差と子どもの教育機会：貧困の世代間連鎖（ミニレポート）
- 4.子どもの貧困問題の原因と子ども支援政策の全体像（ミニレポートの紹介・コメント）
- 5.子どもの貧困問題を解決するための社会的支援：生活保護制度と生活困窮者自立支援制度
- 6.子どもの貧困問題を解決するための社会的支援：奨学金、制服等学校生活必需品、学習支援と大学生のボランティア活動
茨城大学学生団体による活動紹介と情報提供（感想文）
- 7.試験（30分）+感想文に対するコメント+
貧困問題を解決するためにいま社会はどう変わるべきか：国・自治体・企業・学校・地域にできること
子どもの貧困問題を解決するためにいま地域に何があるべきか：学習支援、子ども食堂、居場所、キャリア支援
- 8.財源、家計、マンパワーについて考える

【授業外学修】

- (1) キーワードについて、あらかじめ調べておくことスムーズに理解できます。
- (2) 子どもの貧困で新聞記事やその他インターネット検索をかけて、情報を収集してみてください。

【アクティブ・ラーニング】

- (1) 2-8回目までに、計2回程度、授業の振り返り、感想文、一言カード等、書く機会を設けます。これらに対するコメントやリプライを提出後の授業時間に行います。
- (2) 経済的に厳しい子どもたちへの支援になる奨学金その他の情報を集めその結果を整理したミニレポートを課題としてだします。

(3) 優秀なものを授業時に紹介し、情報を共有するとともにレポートや感想文などの書き方の指導をしながら理解を深めていきます。

履修上の注意/Notes

- 1.30分以上の遅刻は正当な理由がない限り欠席扱いにします。
- 2.オフィス・アワーは月曜日の昼休みです。
- 3.毎回すべての配布資料とノートを必ず持参して下さい。

情報端末の活用

成績評価基準/Evaluation criteria

- A+ : 子どもの貧困問題について十分に基本的な知識を修得し、問題の重要性や課題解決に向けた取り組みについて説明できる。
- A : 子どもの貧困問題について基本的な知識を修得し、問題の重要性や課題解決に向けた取り組みについて説明できる。
- B : 子どもの貧困問題について概ね基本的な知識を修得し、問題の重要性や課題解決に向けた取り組みについても説明できる。
- C : 子どもの貧困問題について最低限の基本的な知識を修得し、問題の重要性や課題解決に向けた取り組みについて説明ができる。
- D : 子どもの貧困問題について基本的な知識を修得できておらず、さらに問題の重要性や課題解決に向けた取り組みについての説明ができていない。

成績の評価方法/Grading

知識に関しては授業中に行う小テスト（60%）、思考や表現力に関しては授業中に課す課題（40%）
詳細については、初回に説明します。

教科書/Textbook(s)

備考	教科書：特に指定せず、プリントを配布します。 参考書：できるだけ阿部彩（2008）『子どもの貧困：日本の不公平を考える』岩波新書（820円+税）や貧困統計ホームページ（URL: https://www.hinkonstat.net/ ）などを参照してください。参考文献リストを初回授業時に配布します。
----	---

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	子どもの貧困—日本の不公平を考える
著者名	阿部 彩
出版社	岩波書店
出版年	2008
ISBN	9784004311577
教材費	860

参考書2

書名	子どもの貧困II—解決策を考える
著者名	阿部 彩
出版社	岩波書店

出版年	2014
ISBN	9784004314677
教材費	860

参考書3

書名	子どもの貧困連鎖
著者名	保坂・池谷
出版社	新潮社
出版年	2015
ISBN	4101387125
教材費	594

参考書4

書名	平成25年度 全国学力・学習状況調査（きめ細かい調査）の結果を活用した 学力に影響を与える要因分析に関する 調査研究
著者名	お茶の水女子大学
出版社	
出版年	
ISBN	
教材費	

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	<input type="radio"/>
専門分野の学力	<input type="radio"/>
課題解決能力	<input type="radio"/>
コミュニケーション力	
実践的英語力	
社会人としての姿勢	<input type="radio"/>
地域活性化志向	<input type="radio"/>

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

日本語のみ

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等
--------	--	-------

時間割コード	KB8254	ナンバリング	KB-GHS-131	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	月4	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	L P S	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2020年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	経済・経営				
担当教員（ローマ字表記）	田中 泉				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

身近な経済学入門I

授業の概要/Course Overview

日々の消費行動の中で出会う様々な価格の現象をトピックとして取り上げ、経済学的な思考方法を説明する。

キーワード/Keyword(s)

価格、需給バランス、消費者、企業、価格戦略、需要の価格弾力性、消費税、流通

到達目標/Learning Objectives

- (1) 市場における価格システムの役割を理解して説明できる。
- (2) 身近な価格の現象を経済学的な視点で理解して説明できる。
- (3) 企業の価格戦略を経済学的な視点で理解して説明できる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

1. シラバスを用いたガイダンス、イントロダクション（需給バランスと価格支配力）
2. 売り手は価格を決定できるのか（需給バランスと価格支配力）
3. 消費税は消費者だけが負担しているのか（需要・供給の増加・減少）
4. 学生割引、シニア割引があるのに、なぜ働き盛り割引がないのか（価格弾力性の概念と差別価格戦略）
5. なぜチラシに付いている割引クーポンは切り取りにくいのか（需要曲線の高さ・限界価値の概念）
6. 2着同時に買うと安いのはなぜか（消費者余剰の概念）
7. セット商品は安いのに、カミソリの替刃は高いのはなぜか（価格戦略）
8. なぜコストコでは会費を取られるのか（二部料金制）、まとめ

【授業外学修】

- (1) 毎回、事前にポータルシステムの「授業資料」欄を通じて配信される資料に目をとしておくこと。
- (2) 上記「授業資料」においてコメント（小テスト）課題、あるいは少レポート課題が記載されているので、事前にある程度準備して授業に臨み、授業終了後、あるいは後期限内に提出すること。

【アクティブ・ラーニング】

第2回以降は、授業終了後、あるいは後期限内に提出されたコメント、小レポートの内容を振り返り、受講生の理解度・到達度を確認して新たな内容に入る。

履修上の注意/Notes

- (1) 毎回ポータルシステムを通じて事前準備課題を含む授業資料を配信する。授業時には資料配布を行わないので注意すること。
- (2) 毎回コメント（小テスト）を授業終了後に提出するか、あるいは小レポートを後日提出する。
- (3) 期末試験は実施しない。

情報端末の活用

講義資料は教務情報ポータルシステムで事前配信するので、毎回の授業時にはPCを持参すること。

成績評価基準/Evaluation criteria

- A+：到達目標の3点について極めて高いレベルで達成されている。
- A：到達目標の3点について高いレベル以上で達成されている。
- B：到達目標の3点についておおむね以上のレベルで達成されている。
- C：到達目標の3点について最低限のレベル以上において達成されている。
- D：到達目標の3点のうち1点以上について全く達成されていない。

成績の評価方法/Grading

毎回の講義の最後に実施するコメント（小テスト）あるいは小レポートで評価（100%）をする。期末試験は実施しない。

教科書/Textbook(s)

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	経営の経済学 = BUSINESS ECONOMICS
著者名	丸山雅祥 著
出版社	有斐閣
出版年	2017
ISBN	9784641164956
教材費	3000

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	<input type="radio"/>
専門分野の学力	<input type="radio"/>
課題解決能力	
コミュニケーション力	
実践的英語力	
社会人としての姿勢	<input type="radio"/>
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

--

地域志向科目

--

使用言語

日本語のみ

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB8255	ナンバリング	KB-GHS-131	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	月4	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	L P S	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2020年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	経済・経営				
担当教員（ローマ字表記）	長田 華子				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

アジア経済入門

授業の概要/Course Overview

2008年のグローバル金融危機以降、アジア諸国による国際社会への影響は政治的にも経済的にも大きくなっている。本講義では、現在のアジア諸国の経済を理解することを目指すとともに、アジアの中の日本という視点から日本における外国人労働者の問題を考えたい。アジア経済を学ぶことは当該国の経済を学ぶことのみならず、我が国日本の経済との関連を考えるうえでも重要である。本講義ではアジアとのつながりを日々の身近な事例から考えることを通じて、その重要性を喚起する。

キーワード/Keyword(s)

アジア、工業化、グローバル化、中国、インド、外国人労働者

到達目標/Learning Objectives

- (1) アジアの経済の現状に関する基礎的な知識を身に付ける。
- (2) 学んだ知識をベースに時事問題にも関心を持つ。
- (3) 諸問題に自分なりに考える力を身に付ける。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

第1回シラバスを用いたガイダンス
 第2回グローバル化するアジア①アジア諸国の工業化
 第3回グローバル化するアジア②アジア通貨危機
 第4回グローバル化するアジア③グローバル金融危機後のアジア経済
 第5回中国経済論
 第6回インド経済論
 第7回アジアの中の日本：日本における外国人（アジア人）労働者
 第8回まとめ

【授業外学習】

- (1) 講義資料の中で、わからない用語があれば、経済学辞典を参照し、調べること。
- (2) 講義資料に明記されている参考文献を読み、理解を深めること。
- (3) 毎日新聞や雑誌等をよみ、アジア諸国をはじめとする世界情勢の現状把握に努めること。

【アクティブ・ラーニング】

第2回～第8回まで毎回授業終了時、ミニツツペーパーによる理解度の確認を行う。

履修上の注意/Notes

- (1) 毎回、講義内容に関する参考文献を紹介する。講義資料とあわせて、学習・復習に努める。
- (2) 毎回、授業終了時にミニッツペーパーによる理解度の確認を行う。

情報端末の活用

講義資料は教務情報ポータルシステムで事前配信する。毎回の授業時にはPCを持参すること。

成績評価基準/Evaluation criteria

- A+ : 到達目標の3点について極めて高いレベルで達成されている。
A : 到達目標の3点について高いレベル以上で達成されている。
B : 到達目標の3点についておおむね以上のレベルで達成されている。
C : 到達目標の3点について最低限のレベル以上において達成されている。
D : 到達目標の3点のうち1点以上について全く達成されていない。

成績の評価方法/Grading

レポート (80%)、授業に対する積極性 (20%・第2回以降のミニッツ・ペーパーによって判断する)

教科書/Textbook(s)

備考	特になし
----	------

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	アジアの政治経済・入門
著者名	片山裕, 大西裕編
出版社	有斐閣
出版年	2010
ISBN	9784641183865
教材費	

参考書2

書名	産業構造の変化と外国人労働者：労働現場の実態と歴史的視点
著者名	津崎克彦 編著
出版社	明石書店
出版年	2018
ISBN	9784750346854
教材費	2800

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
----------	---

専門分野の学力	◎
課題解決能力	○
コミュニケーション力	△
実践的英語力	
社会人としての姿勢	○
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供	受講条件等

時間割コード	KB8256	ナンバリング	KB-GHS-131	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	月4	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	L P S	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2020年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	経済・経営				
担当教員（ローマ字表記）	細田 雅洋				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

マネジメント入門（マネジメントの使命）

授業の概要/Course Overview

P. F. Druckerが論じているマネジメントについて学ぶことを通じて、組織で成果をあげるための方法を理解することを目的とする。経営学の分野で長年議論されているマネジメントについてP. F. Druckerの著書を題材とし、輪読、プレゼンテーション、ディスカッションなどを通じて、マネジメントに関わる考察の共有と個人の理解の深化を図る。この講義では、とりわけマネジメントの使命と方法をテーマに取り上げる。

キーワード/Keyword(s)

マネジメント・イノベーション・マーケティング・生産性・社会的責任・マネジャー・トップマネジメント・組織構造・戦略

到達目標/Learning Objectives

- ・組織のマネジメントの方法を理解できる
- ・組織が直面する課題解決に向けて、自分なりの仮説を立てることができる。
- ・経営学の基礎知識を理解することができる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

第1回：【授業内容】シラバスを用いたガイダンスと導入

シラバスにしたがい、授業の進め方について説明する。

【授業外学修】配付資料・授業内のメモを確認しておくこと。参考図書を購入した場合には、指定の範囲に目を通すこと。

第2回：【授業内容】マネジメントの役割・企業の成果①・グループディスカッションと発表

企業が成果をあげるうえで必要な考えを理解する。

【授業外学修】配付資料・授業内のメモを確認しておくこと。参考図書を購入した場合には、指定の範囲に目を通すこと。

第3回：【授業内容】企業の成果②・グループディスカッションと発表

企業が成果をあげるうえで必要な考えを理解する。

【授業外学修】配付資料・授業内のメモを確認しておくこと。参考図書を購入した場合には、指定の範囲に目を通すこと。

第4回：【授業内容】企業の成果③・グループディスカッションと発表

企業が成果をあげるうえで必要な考えを理解する。

【授業外学修】配付資料・授業内のメモを確認しておくこと。参考図書を購入した場合には、指定の範囲に目を通すこと。

第5回：【授業内容】公的機関の成果・グループディスカッションと発表

公的機関が成果をあげるうえで必要な考えを理解する。

【授業外学修】配付資料・授業内のメモを確認しておくこと。参考図書を購入した場合には、指定の範囲に目を通すこと。

第6回：【授業内容】仕事と成果・グループディスカッションと発表

働く人に生産的に成果をあげさせる方法を理解する。

【授業外学修】配付資料・授業内のメモを確認しておくこと。参考図書を購入した場合には、指定の範囲に目を通すこと。

第7回：【授業内容】社会的責任・グループディスカッションと発表

社会的課題の解決を通じて経済的な成果をあげるという社会的責任のあり方を理解する。

【授業外学修】配付資料・授業内のメモを確認しておくこと。参考図書を購入した場合には、指定の範囲に目を通すこと。

第8回：まとめ・レポート課題に関する説明

履修上の注意/Notes

①ディスカッションには積極的、能動的に参加すること。②そのためには、自分の考えを持つと同時に、自分とは別の考えをきちんと受け止めようとする。③遅刻をするとその回の授業全体が理解しがたくなるので、定時に出席すること。④オフィスアワー：月曜日昼休み（人文社会科学部A棟6階623）メールアドレス masahiro.hosoda.mn@vc.ibaraki.ac.jp

情報端末の活用

成績評価基準/Evaluation criteria

- A+：マネジメントの基本的な知識と考え方を十分に修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
A：マネジメントの基本的な知識と考え方を修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
B：マネジメントの基本的な知識と考え方を概ね修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
C：マネジメントの基本的な知識と考え方について最低限の修得をしており、さらにその仕組みについて説明できている。
D：マネジメントの基本的な知識と考え方が修得できておらず、さらにその仕組みについての説明ができていない。

成績の評価方法/Grading

ディスカッションにおける貢献度（40%）と期末レポート（60%）をもとに総合的に評価する。期末試験は実施しない。

教科書/Textbook(s)

参考書/Reference Book(s)

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	○
専門分野の学力	○
課題解決能力	○
コミュニケーション力	○
実践的英語力	○

社会人としての姿勢	○
地域活性化志向	△

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

--

地域志向科目

--

使用言語

日本語のみ

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供	○	受講条件等	
--------	---	-------	--

時間割コード	KB8257	ナンバリング	KB-GHS-131-COE	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	月4	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	L P S	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2020年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	公共社会				
担当教員（ローマ字表記）	井上 拓也, 古山 均				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

大学生と消費生活

授業の概要/Course Overview

大学生生活とその後の社会生活において、安全で安心した消費生活を送るための基本的な知識について、ゲストスピーカーをお招きしながら概観します。「自立」した消費者になるために、消費者トラブルと関連する法律、ライフプランと保険、食育と栄養を中心に学習していきます。親元を離れて1人暮らしを始めた学生さんはもちろん、すべての学生さんに必要な消費生活のノウハウを伝授し、「消費者力」を養成していきます。

キーワード/Keyword(s)

消費生活、消費者力、消費者トラブルへ、契約、ライフプラン、お金との付き合い方、セーフティネット、地産地消、食育、消費者の権利と義務

到達目標/Learning Objectives

- (1) 消費者トラブルを回避し解決するための契約についての基礎知識を身につける。
- (2) ライフプランを貯蓄や保険の点から設計するための基礎知識を身につける。
- (3) 安全で安心な食生活のための栄養などの基礎知識を身につける。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- 第1回：【授業内容】消費生活と消費者力、ガイダンス
【授業外学修】授業の内容に基づき、自分の消費生活の課題について考えておく。
- 第2回：【授業内容】消費者トラブルと法律（1）消費者トラブルと対処法（消費生活センター相談員）
【授業外学修】授業内容に基づき、自分が関連した消費者トラブルにつき考えておく。
- 第3回：【授業内容】消費者トラブルと法律（2）契約の基本（消費生活センター相談員）
【授業外学修】小レポートをまとめて次回に提出する。
- 第4回：【授業内容】ライフプランと保険（1）ライフプランと三大資金（ファイナンシャルプランナー）
【授業外学修】授業内容に基づき、自分の金銭面でのライフプランを立ててみる。。
- 第5回：【授業内容】ライフプランと保険（2）貯蓄・保険・セーフティネット（ファイナンシャルプランナー）
【授業外学修】小レポートをまとめて次回に提出する。
- 第6回：【授業内容】食育（1）若者の食生活（管理栄養士）
【授業外学修】授業内容に基づき、自分の食生活診断をしてみる。
- 第7回：【授業内容】食育（2）和食と地産地消（農業協同組合・生活協同組合職員）
【授業外学修】小レポートをまとめて次回に提出する。
- 第8回：【授業内容】消費者の権利と義務、まとめ
【授業外学修】最終レポートをまとめて提出する。

【アクティブ・ラーニング】

第2回～第7回では、グループなどによるディスカッションを行う。

履修上の注意/Notes

- (1) 自分の消費生活を改善するという実践的な目標意識をもって講義に臨んでください。トラブル、金銭管理、食事の問題は他人事ではありません。
- (2) ディスカッションでは積極的に発言してください。他者の考えもきちんと受け止めるようにしてください。
- (3) 遅刻すると、その回の授業全体を理解するのが難しくなります。開始時間は守るようにしてください

情報端末の活用

成績評価基準/Evaluation criteria

- A+ : 小レポートと最終レポートをきわめてすぐれた内容で提出し、授業中のディスカッションなどにも積極的に参加している。
- A : 小レポートと最終レポートをすぐれた内容で提出し、授業中のディスカッションなどにも積極的に参加している。
- B : 小レポートと最終レポートをすぐれた内容で提出し、授業中のディスカッションなどにも参加している。
- C : 小レポートと最終レポートを提出し、授業中のディスカッションなどにも参加している。
- D : 小レポートや最終レポートを提出していない。

成績の評価方法/Grading

最終レポート：60点/小レポート：20点/ディスカッションなどへの参加：20点

教科書/Textbook(s)

備考 とくにありません。資料をプリントして配布します。講義期間中はきちんと保管しておいてください。

参考書/Reference Book(s)

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	△
専門分野の学力	
課題解決能力	◎
コミュニケーション力	◎
実践的英語力	
社会人としての姿勢	◎
地域活性化志向	○

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

--

地域志向科目

○

使用言語

日本語のみ

実務経験のある教員による授業科目

法律、保険、食育など、消費生活に関する専門的知識を有する者が、オムニバス形式により、その経験を活かして、「消費者力」を養成する。
--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供	受講条件等

時間割コード	KB8258	ナンバリング	KB-GHS-131-COE	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	月4	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	L P S	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2020年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	公共社会				
担当教員（ローマ字表記）	山田 博幸				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

地域の安全と安心

授業の概要/Course Overview

自然災害に対する地域の防災・減災やグローバルな視点でのエネルギーセキュリティなど、社会が直面する具体的なリスクに関する造詣を深めるとともに、地域の安全と安心の確保に繋がるリスク低減方策を探求する。

具体的には、地域防災に関する調査研究を通して、リスク論により地域社会を捉える意識を深め、自治体などの公的機関や企業におけるリスクマネジメントによる減災などのリスク低減方策について知見を獲得し、今後の大学での研究や職業選択をふまえ、社会との関わりについて、深く考えていくことをねらいとする。

キーワード/Keyword(s)

自然災害、リスクマネジメント、リスクコミュニケーション、エネルギーセキュリティ、都市防災

到達目標/Learning Objectives

- （1）授業で取り上げた、国内・国外の災害事例の理解を通して、地震などの自然災害から地域の安心・安全を確保するためのリスク低減の要諦について、自助・公助・公助の観点で理解を深め、専門科目の学習や社会における自身の役割に関する問題意識の探求に繋がられるようになる。
- （2）これまで育った故郷、現在の居住地域、または、これから生活してみたい国や地域などの自然災害等のリスクを分析し、減災を具体化する方策を調査・研究し、発表資料として取りまとめられるようになる。
- （3）研究発表と質疑応答及びディスカッションにより、リスク分析に基づく減災方策・取り組みの有効性や地域の安全と安心の向上への寄与について、説明できるようになる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

第1回 シラバスを用いたガイダンスと導入
 授業のねらいと概要、進め方とスケジュールの説明、
 東日本大震災など日本や世界で起こった大規模災害事例、地域の防災対策の目標と評価、防災都市計画の歴史と都市計画法制、被害想定とハザード評価
 災害リスクマネジメントとリスクコミュニケーション

第2回 災害と避難
 地震都市災害、複合災害（自然災害と原子力災害）、広域避難計画の課題と群衆避難

第3回 緊急対応と復旧・復興
 情報の収集・処理、緊急対応機関、防災情報システム、都市施設の復旧・復興、被災者生活と支援

第4回 地域防災力
 自助、共助、公助による防災まちづくり、防災教育と訓練、企業防災

第5回 国際的観点での安心・安全
 国際防災協力、ライフライン、エネルギーセキュリティ、安全・安心な社会の概念

第6回 研究発表（その1）

（教員の司会の下、グループごとに発表・質疑応答及びディスカッションを行う）

第7回 研究発表（その2）

（教員の司会の下、グループごとに発表・質疑応答及びディスカッションを行う）

第8回 研究発表（その3）（45分）

（教員の司会の下、グループごとに発表・質疑応答及びディスカッションを行う）

【授業外学修】

（1）第1回から第5回までの授業を通して、研究テーマを設定するために、教科書として指定している「【改訂版】都市防災学」、教科書の引用文献及びインターネット等を使って、課題の同定と研究成果導出に至る上で必要な知識を深めてください。

（2）事前配布（第1回を除く）する授業資料に事前に必ず目を通し、疑問点やより深く知り得たい内容を整理してください。

（3）研究発表の資料作成にあたって、調査・研究対象地域の安全・安心の具体化方策や防災・減災方策等に関する議論及び発表資料の構成や各自の役割について、グループ内で議論し、成果を取りまとめてください。

【アクティブ・ラーニング】

第1回から第5回までの各回の授業終了時にレスポンスシートで授業内容の振り返りを行います。第2回から第6回の冒頭で、レスポンスシートから抽出した疑問点や論点について、解説等を行い、前回までの受講者の理解度及び到達点を確認してから新たな内容に入ります。第6回から第8回までの研究発表については、他グループの発表内容・質疑応答及び自己の発表内容・質疑応答に関する評価を行っていただきます。

履修上の注意/Notes

（1）教科書以外に授業で用いる資料は、配布または、ポータルシステムからダウンロードできるようにします。

（2）研究発表テーマに関連する参考文献を調査し、知識を深めてください。

（3）研究発表は、パワーポイントで行うことを原則とします。

（4）10分以内の遅刻は認めます。10分を超える遅刻3回で欠席1回とカウントします。

（5）調査・研究方法に関する質問は、講義時間中、または講義後に受け付けます。

情報端末の活用

研究発表時には、PCを持参するか、メディアでデータをお持ちください。

成績評価基準/Evaluation criteria

A+：到達目標の3点について、極めて高いレベルで達成している。

A：到達目標の3点について、高いレベルで達成している。

B：到達目標の3点について、おおむね達成している。

C：到達目標の3点について、最低限のレベルで達成している。

D：到達目標の3点のうち、1点以上について、全く達成していない。

成績の評価方法/Grading

授業時に提出するレスポンスシートの内容40%（到達目標（1））及び研究発表60%（到達目標（2）、（3））で成績を評価します。

教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	都市防災学：地震対策の理論と実践
著者名	梶秀樹, 塚越功編著
出版社	学芸出版社
出版年	2012

ISBN	9784761531959
教材費	3520

参考書/Reference Book(s)

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	△
専門分野の学力	
課題解決能力	○
コミュニケーション力	△
実践的英語力	
社会人としての姿勢	△
地域活性化志向	△

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB8259	ナンバリング	KB-GHS-131-COE	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	月4	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	L P S	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2020年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	公共社会				
担当教員（ローマ字表記）	渋谷 敦司				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

現代社会論A

授業の概要/Course Overview

現在われわれが生きている社会を「現代社会」と命名した上で、この現代社会が工業化、都市化、情報化、サービス社会化、国際化、等々と表現される社会的変化を経て、「近代社会」の延長線上に登場してきたプロセスを考察する。この授業では、最初に「常識」について知識社会学的な批判的検討を加えた上で、近代家族の基礎にあるジェンダーの問題を分析し、その後、「核家族化」、「高齢化」、「少子化」について論じる。

キーワード/Keyword(s)

常識 神話 ジェンダー 家族 少子化 高齢化

到達目標/Learning Objectives

われわれ自身が生きている社会の特徴について歴史的な視点で理解し、日々報道されている社会的出来事や事件、社会問題などを批判的に理解できるようになる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- 第1回 【授業内容】 シラバスの説明、社会学の特徴：「常識」を疑うこと 「知識社会学」の問題意識
 第2回 【授業内容】 ジェンダーとは何か：性差に関する「神話」の社会的構築
 第3回 【授業内容】 家族とは何か：「家族」の定義は可能か？
 第4回 【授業内容】 核家族論争と「家族危機」意識
 第5回 【授業内容】 「高齢化社会」と「高齢社会」
 第6回 【授業内容】 「老人」とは誰のことか？：高齢者神話と年齢差別
 第7回 【授業内容】 「少子化」問題とはどのような問題か？：子どもが減る、人口が減ることの何が問題なのか
 第8回 【授業内容】 まとめと総合討論(45分) および期末レポート作成提出(45分)

【授業外学修】 1回目以降の各授業の初めに前回授業で取り上げた社会現象に関するキーワードと関連して、どのような新聞記事やマスコミ報道が見つかったのかを、気になったニュース等として学生から報告してもらい、質疑討論を行います。そのために、授業への参加準備として新聞等に目を通して情報収集を行っておくこと。

【アクティブ・ラーニング】 上記のクラス内報告・討論をアクティブ・ラーニングとして位置づけます。

履修上の注意/Notes

パワーポイントを使った授業なので、話しを聞きながらそれをノートにとる練習をして下さい。30分以上の遅刻は出席とは認めません。

情報端末の活用

--

成績評価基準/Evaluation criteria

- A+ : 現代社会についての社会的な考え方を十分に修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
A : 現代社会についての社会的な考え方を修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
B : 現代社会についての社会的な考え方を概ね修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
C : 現代社会についての社会的な考え方について最低限の修得をしており、さらにその仕組みについて説明できている。
D : 現代社会についての社会的な考え方が修得できておらず、さらにその仕組みについての説明ができていない。

成績の評価方法/Grading

第8回目の授業の後半45分で執筆する期末レポートの成績で評価を行う。

教科書/Textbook(s)

備考	教科書は使用しません。
----	-------------

参考書/Reference Book(s)

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	○
専門分野の学力	
課題解決能力	
コミュニケーション力	
実践的英語力	
社会人としての姿勢	
地域活性化志向	○

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

--

地域志向科目

○

使用言語

日本語のみ

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供	○	受講条件等	
--------	---	-------	--

時間割コード	KB8260	ナンバリング	KB-GHS-131	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	金3	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	T A	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2020年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	公共社会				
担当教員（ローマ字表記）	蓮井 誠一郎				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

平和のための政治A

授業の概要/Course Overview

「日本は平和で良い国だ」という一方で、「平和ボケ日本」という、平和を否定的なニュアンスをこめた形容詞として用いる例もあります。平和とは無条件に良いことではなかったのでしょうか？現在の日本と世界はどれくらい「平和」なのでしょう？授業では「平和とは暴力の不在だ」として、その意味を平和学の視点から世界を俯瞰的に探って課題となる暴力克服の方法を考えて、社会に出た後にも役立つ平和に向き合う姿勢を学んでいきます。

キーワード/Keyword(s)

平和、暴力、環境、戦争、国際政治、サブシステム

到達目標/Learning Objectives

- ①受講生が「平和」という政治的な言葉を多面的に理解し、当然と感じていた物事の中にも暴力が潜むことに気づく。
- ②受講生は現代の国際社会と日本が必ずしも平和とはいえないということを理解し、平和学の視点で状況を評価できるようになる。
- ③受講生が現代の暴力を克服する方策を理解する。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

(1)ガイダンス

授業内容：シラバスを用いたガイダンス及び受講上のルール説明。

授業外学修：シラバスを読んでおくこと。

(2)あなたはどんな時に平和を感じますか？

授業内容：少人数グループに分かれて「バズセッション」というディスカッションのような議論を行う。

授業外学修：テキストの該当ページを読んでおくこと。

(3)構造的暴力って何？(1)

授業内容：構造的暴力の例についてレスポンスシートに記入する。

授業外学修：テキストの該当ページを読んでおくこと。

(4)構造的暴力って何？(2)

授業内容：構造的暴力の解決策についてレスポンスシートに記入する。

授業外学修：レジュメとテキストの該当ページを読んでおくこと。

(5)暴力克服のための方法～5ステップ・アプローチ

授業内容：5ステップ・アプローチを用いて事例を検討する。

授業外学修：配付資料とテキストの該当ページを読んでおくこと。

(6)「サブシステム」という考え方(1)～あなたのサブシステムは何？

授業内容：サブシステムについて、バズセッションの後、レスポンスシートに記入する。

授業外学修：テキストの該当ページを読み、身の回りのサブシステムの例を考えておくこと。

(7)「サブシステム」という考え方(2)～その平和学的な意味

授業内容：サブシステムと平和の関係について学ぶ。

授業外学修：レジュメとテキストの該当ページを読んでおくこと。

(8)授業全体のまとめと長文レスポンス記入

授業内容：授業全体について、その問題意識と方法を用いて社会問題を考え、長文レスポンスを記入する。

授業外学修：テキストの該当ページを読んでおくこと。

履修上の注意/Notes

①一定時間以上の遅刻は欠席扱いとなります。②オフィス・アワーは木曜3限と金曜昼休み。③クラスを無作為に少人数グループに分けてのディスカッションを予定していますし、シートなどへの記入も多いので、積極的な授業参加が求められます。

情報端末の活用

授業の中で特に指示がない限りPCは使用しない。使用する場合には事前に予告する。

成績評価基準/Evaluation criteria

A+：授業で示した平和学の基本的な知識と考え方を十分に修得し、さらにその仕組みについて説明できている。

A：授業で示した平和学の基本的な知識と考え方を修得し、さらにその仕組みについて説明できている。

B：授業で示した平和学の基本的な知識と考え方を概ね修得し、さらにその仕組みについて説明できている。

C：授業で示した平和学の基本的な知識と考え方について最低限の修得をしており、さらにその仕組みについて説明できている。

D：授業で示した平和学の基本的な知識と考え方が修得できておらず、さらにその仕組みについての説明ができていない。

成績の評価方法/Grading

授業期間中に記入するレスポンスシート（30%）と、長文レスポンス（70%）とで評価します。学内外の授業関連イベントの参加レポート（指定用紙に記入）にはボーナス点（最大20%）を与えます。遅刻や欠席などで、レスポンスシートの記入回数が規定回数に満たない場合は単位を出せないので注意してください。

教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	『概論 平和学のいまー地球・自分・未来をつなぐ見取図』
著者名	平井朗編著
出版社	法律文化社
出版年	2020
ISBN	
教材費	2100

備考 教科書は4月に出版予定。

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	ガルトウング平和学の基礎
著者名	ヨハン・ガルトウング 著
出版社	法律文化社
出版年	2019
ISBN	9784589040275
教材費	2800

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	△
課題解決能力	○
コミュニケーション力	△
実践的英語力	△
社会人としての姿勢	○
地域活性化志向	△

アクティブ・ラーニング型科目

--

PBL科目

--

地域志向科目

--

使用言語

日本語

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供	○	受講条件等	教養としての平和学に興味関心があること。
--------	---	-------	----------------------

時間割コード	KB8261	ナンバリング	KB-GHS-111	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	月4	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	L P S	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2020年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	公共社会				
担当教員（ローマ字表記）	梶井 正紀				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

障害者の歴史と人権

授業の概要/Course Overview

西洋諸国や日本では、障害者はどのような生活をしてきたのか、障害者の人権はどのように守られあるいは蹂躪されてきたか、そして今日、どのように保障されようとしているのかを概観し、これからの方向性や課題について考察する。とくに映像も活用しながら、戦争と障害者を巡る問題、ノーマライゼーションの理念・展開、障害者権利条約のポイントなどを素材にして、グループ討議も交えながら志向・判断力を養う。

キーワード/Keyword(s)

障害者、戦争、ノーマライゼーション、優生思想、障害者権利条約

到達目標/Learning Objectives

近代以前と以降、とりわけ20世紀のファシズムと戦争やノーマライゼーションの時代の障害者の境遇について基礎的な理解ができる。ノーマライゼーションや障害者権利条約の基本理念を理解でき、優生思想を批判的に考察することができる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- ガイダンス
障害のある人とその家族が抱える困難の一端を知る
- 近代以前の障害者の生活
昔の障害者の生活について、これまでの歴史の知識を活用しながら予想してみる
- 近現代の障害者と優生思想
優生思想的な文章を考察し、論点を整理しながら批判的に分析することができる。
- 戦争と障害者（日本）
太平洋戦争の時期の障害児教育や福祉関係者の行動について考えてみる
- 戦争と障害者（西洋）
ナチスの時代に起こったことを踏まえ、今何がまた求められているのか検討してみる
- ノーマライゼーションの思想と政策
ノーマルな生活とは何かを、スウェーデンでの取り組みなどを通して個人やグループで考えてみる
- 障害者権利条約と障害者の人権

障害者権利条約の詳細を考察し、今日の障害者の人権のあり方を検討する。

8 障害者の性・まとめ (45分)

障害者の性をどう考えるか、最近の取り組みを通して考える

【授業外学修】

- (1) 講義資料は教務情報ポータルシステムにアップするので、必ず授業前に読んで、分からない用語などは、あらかじめ調べておくこと。
- (2) 各授業回で取り扱う内容について、事前にテキストを読むことは当然だが、第6回～7回については、参考書「障害児教育大辞典」等により語句を調べておくことが望ましい。
- (3) 予習に代わるものとして、それぞれの時代について、すでに自分が持っている知識を整理しておくことよい。
また、復習として、授業で熱かったテーマに対する自分の考えをまとめておくことよい。(事前・事後学修時間4時間)

履修上の注意/Notes

ペア・グループワークには積極的に参加し、多様な考え方をもち、柔軟な志向ができるようにする。15分以上遅刻をしないこと。

情報端末の活用

成績評価基準/Evaluation criteria

- A+ : 障害者の歴史と人権に関する基本的な知識と考え方を十分に修得し、論理的にその仕組みについて説明することができる。
- A : 障害者の歴史と人権に関する基本的な知識と考え方を修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
- B : 障害者の歴史と人権に関する基本的な知識と考え方を概ね修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
- C : 障害者の歴史と人権に関する基本的な知識と考え方について最低限の修得をしており、さらにその仕組みについて説明できている。
- D : 障害者の歴史と人権に関する基本的な知識と考え方が修得できておらず、さらにその仕組みについての説明ができていない。

成績の評価方法/Grading

レポートによる (100%)

教科書/Textbook(s)

参考書/Reference Book(s)

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	○
専門分野の学力	◎
課題解決能力	○
コミュニケーション力	○
実践的英語力	△
社会人としての姿勢	○
地域活性化志向	△

アクティブ・ラーニング型科目

--

PBL科目

--

地域志向科目

--

使用言語

日本語

実務経験のある教員による授業科目

公立学校に教員として通常の学校の特別支援教育コーディネーターを経験したり、人権教育に関する実践発表を行ったりした経験から最新の教育事情を取り上げる。
--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等
--------	--	-------

時間割コード	KB8262	ナンバリング	KB-GHS-131-JEP	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	月4	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	L P S	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2020年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	グローバル・スタディーズ				
担当教員（ローマ字表記）	金 光男				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

アジア学入門

授業の概要/Course Overview

ユーラシア大陸の東部・東南部にわたる「東部アジア地域」について、入門的な概略を説明する。その際「アジア」という呼称の思想的意味、世界史の中での位置づけ、日本と東部アジアとの関係史などを考える。

キーワード/Keyword(s)

アジア、オリエンタリズム、近代、日本、関係史、地域研究、

到達目標/Learning Objectives

近代および現代の東・東南アジア社会と日本との「関係史」について深い関心を持ち、その概略を説明することができるようになること。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- (1) ガイダンスと「現代アジアの直面する諸問題」
【授業外学修】授業内容を復習し、問題点を探して調べ、それについて考えをまとめる。
(⇒次回授業での確認テストに活用すること；以下同様)
- (2) 東南アジアと近代ヨーロッパとの出会い（確認テスト、グループ討論）
【授業外学修】授業内容を復習し、問題点を探して調べ、それについて考えをまとめる。
- (3) オリエンタリズムと19世紀的発想（同上）
【授業外学修】授業内容を復習し、問題点を探して調べ、それについて考えをまとめる。
- (4) 近代日本とアジア（同上）
【授業外学修】授業内容を復習し、問題点を探して調べ、それについて考えをまとめる。
- (5) 歴史と現状認識そして「未来志向」（同上）
【授業外学修】授業内容を復習し、問題点を探して調べ、それについて考えをまとめる。
- (6) 冷戦下のアジアと日本（同上）
【授業外学修】授業内容を復習し、問題点を探して調べ、それについて考えをまとめる。
- (7) 現代日本と東部アジア地域（同上）
【授業外学修】授業内容を復習し、問題点を探して調べ、それについて考えをまとめる。

履修上の注意/Notes

授業の復習および調査などに図書館を活用すること。授業の冒頭で前回授業についての確認テスト(10分程度)を行うので、遅刻は出来るだけしないようにすること。

情報端末の活用

第7回目または8回目でアンケートを実施する予定であるため、PC,スマートフォン等を持参すること。

成績評価基準/Evaluation criteria

- A+ : 近現代の東・東南アジアと日本との関係についての基本的な知識を十分に修得し、その「概略史」について説明できている。
A : 近現代の東・東南アジアと日本との関係についての基本的な知識を修得し、その「概略史」について説明できている。
B : 近現代の東・東南アジアと日本との関係についての基本的な知識を概ね修得し、その「概略史」について概ね説明できている。
C : 近現代の東・東南アジアと日本との関係についての基本的な知識を最低限修得し、その「概略史」についての説明を不十分ながら行っている。
D : 近現代の東・東南アジアと日本との関係についての基本的な知識が修得できておらず、その「概略史」についての説明ができていない。

成績の評価方法/Grading

期末試験70%、授業での「確認テスト」30%。

教科書/Textbook(s)

備考	レジメを配布する。
----	-----------

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	日清・日露戦争をどう見るか
著者名	原 朗
出版社	NHK出版新書
出版年	2014
ISBN	
教材費	

参考書2

書名	世界の歴史：アジアの多島海（13巻）
著者名	永積 昭
出版社	講談社
出版年	1977
ISBN	
教材費	

参考書3

書名	日本の歴史（下）
著者名	井上 清
出版社	岩波新書
出版年	
ISBN	
教材費	

参考書4

書名	もっと知ろう朝鮮
著者名	尹 健次
出版社	岩波ジュニア新書
出版年	
ISBN	
教材費	

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	<input type="radio"/>
専門分野の学力	<input type="radio"/>
課題解決能力	
コミュニケーション力	
実践的英語力	
社会人としての姿勢	<input type="radio"/>
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供	○	受講条件等	
--------	---	-------	--

時間割コード	KB8263	ナンバリング	KB-GHS-131-JEP,COE	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	月4	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	L P S	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2020年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	グローバル・スタディーズ				
担当教員（ローマ字表記）	田村 誠				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

環境と経済のサステナビリティ：気候変動編

授業の概要/Course Overview

気候変動問題をはじめとするサステナビリティの課題には、複雑な相互作用や様々な相互作用が存在する。本講義では環境経済学、サステナビリティ学の基礎的な考え方、具体例を紹介し、サステナビリティの課題に対する各自の意見やバランス感覚を養うことを目指す。

キーワード/Keyword(s)

気候変動、環境政策、環境経済、サステナビリティ、相互作用、人間の安全保障

到達目標/Learning Objectives

- ① サステナビリティ関連課題(気候変動、資源・エネルギー問題、廃棄物問題等)を論じる上で必要となる最低限の知識を身につけること
- ② 関連資料の読み方を理解すること、そのために量的なバランス感覚を養うこと
- ③ 環境、経済、サステナビリティに関する相互作用を認識し、何らかの意見を持つこと

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- ① ガイダンス・サステナビリティとは
- ② 気候変動の現状、
- ③ 気候変動のメカニズム
- ④ 気候変動への各国の対応
- ⑤ 気候変動の対応策(緩和策)1
- ⑥ 気候変動の対応策(緩和策)2
- ⑦ 気候変動の対応策(適応策)3
- ⑧ 総括(30分)および試験(60分)

【授業外学修】

・講義資料は教務情報ポータルシステムに原則事前にアップする(ただし、授業進行上であえて配布しない場合がある)。分からない用語などは、あらかじめ調べておくこと。

【アクティブ・ラーニング】

- ・講義中に皆さんからの意見を求めることがあるので、レジュメ等を見直し、議論へ主体的に参加すること。
- ・ほぼ毎回、コメント用紙の提出もしくは小テストを実施する。

履修上の注意/Notes

関連科目に第4Qの「環境と経済のサステナビリティ2」がある。

情報端末の活用

講義資料はDREAM Campusに配信する。

成績評価基準/Evaluation criteria

- A + : 気候変動とその対応策について基本的な知識と考え方を十分に修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
- A : 気候変動とその対応策について基本的な知識と考え方を修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
- B : 気候変動とその対応策について基本的な知識と考え方を概ね修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
- C : 気候変動とその対応策について基本的な知識と考え方について最低限の修得をしており、さらにその仕組みについて説明できている。
- D : 気候変動とその対応策について基本的な知識と考え方が修得できておらず、さらにその仕組みについての説明ができていない

成績の評価方法/Grading

以下の方法から総合評価する。

- ① 講義時の小テスト・アンケート: 40点
- ② 試験: 60点

教科書/Textbook(s)

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	サステナビリティ学をつくる：持続可能な地球・社会・人間システムを目指して
著者名	三村信男, 伊藤哲司, 田村誠, 佐藤嘉則 編
出版社	新曜社
出版年	2008
ISBN	978-4788511101
教材費	2900

参考書2

書名	持続可能な世界へ：茨城大学発
著者名	茨城大学地球変動適応科学研究機関 編
出版社	茨城新聞社
出版年	2010
ISBN	487273257X
教材費	952

参考書3

書名	ポスト震災社会のサステナビリティ学：地域と大学の新たな協働をめざして
著者名	田村誠, 伊藤哲司, 木村競, 加藤禎久, 坂上伸生 編
出版社	国際文献社

出版年	2014
ISBN	4902590360
教材費	3500

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	
専門分野の学力	○
課題解決能力	△
コミュニケーション力	○
実践的英語力	
社会人としての姿勢	◎
地域活性化志向	○

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供	○	受講条件等	気候変動問題に関心があること
--------	---	-------	----------------

時間割コード	KB8264	ナンバリング	KB-GHS-132-JEP,GEP	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	月4	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	L P S	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2020年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	グローバル・スタディーズ				
担当教員（ローマ字表記）	青木 香代子				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

Diversity and Social Issues in Japan A

授業の概要/Course Overview

This course aims to introduce various issues on diversity and social issues in Japan. It particularly focuses on issues concerning minority groups and nationality system in Japan. Students are encouraged to think critically on those topics. It welcomes both international and Japanese students who are willing to actively participate in discussions about these issues.

キーワード/Keyword(s)

Multicultural society, diversity in Japan, minority groups in Japan, nationality in Japan

到達目標/Learning Objectives

1. To familiarize yourself with various social issues in Japan
2. To critically analyze these issues from different perspectives
3. To present your opinions about these issues
4. To give a presentation on a given topic related to these issues

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

1. Introduction to the Course: Who are "Japanese"?
2. Japan as Multicultural Society 1: Ainu, Burakumin, and Okinawans
3. Japan as Multicultural Society 2: Zainichi Koreans
4. Japan as Multicultural Society 3: "Newcomers"
5. Education for Minority Students in Japan
6. Nationality in Japan
7. People with Multiracial/Multiethnic Background in Japan
8. Presentation, Summery

[Active Learning]

In this class, students are expected to join the group discussion in every class except the last class (week 8).

In this class, students are required to write the reflective journal at the end of each class.

[Out-of-the-class learning]

1. Students are expected to read the assigned materials for each week before class and create a reading log. Take notes of something that you may come up with for group discussions.
2. In addition to the assigned reading materials, read other academic papers, newspapers, and books which are related to the topics taken up in class

履修上の注意/Notes

1. This class will be conducted in English.
2. Students are required to actively participate in every class discussion.
3. Students are required to write a reflection sheet on every class.
4. If one is late for the class three times, it will be counted as being absent once.
5. If one is absent more than two thirds of the classes, s/he cannot pass the course.

情報端末の活用

Students are required to submit reflection paper, final paper and reading log on DreamCampus.

成績評価基準/Evaluation criteria

A+: Outstanding performance indicating an excellent understanding of the concepts and principles for diversity and social issues in Japan.

A: Fairly good performance indicating a good understanding of the concepts and principles of diversity and social issues in Japan.

B: Performance indicates that concepts and principles of diversity and social issues in Japan are understood and steady improvement is being made.

C: Performance is the minimum required to achieve improvement. Demonstrates some understanding of the concepts and principles of diversity and social issues in Japan.

D: Performance is below the standards and failing. Performance indicates that concepts and principles of diversity and social issues in Japan are not understood.

成績の評価方法/Grading

Class Participation, Reflection, and Reading Log 20%

Reflection Paper 20%

Presentation 20%

Final paper 40%

There will be no final exam in Week 8.

教科書/Textbook(s)

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	An introduction to Japanese society
著者名	Yoshio Sugimoto
出版社	Cambridge University Press
出版年	2014
ISBN	978-1107626676
教材費	4500

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	
課題解決能力	◎
コミュニケーション力	◎
実践的英語力	○
社会人としての姿勢	
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB8265	ナンバリング	KB-GHS-131	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	月4	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	L P S	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2020年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	法律・政治				
担当教員（ローマ字表記）	松井 良和				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

労働法Ⅱ

授業の概要/Course Overview

この授業では、皆さんが将来、会社に勤め始めてから直面する様々な法的な問題について学習していきます。

大学を卒業し会社に就職してから、結婚や育児、家族の介護などのライフイベントに遭遇することがあると思います。こうしたライフイベントに遭遇したとき、退職をするのか、退職をせずに休みを取るのか、それとも正社員ではなく他の働き方にするのか、様々な選択肢から自分に合った選択をすることになります。こうした選択をする際、何が自分にとってベストなのかを考える上でも、労働法の知識は必須になります。

授業では退職に至るまでに生じる、年休や育児休業、休職制度、会社の人事や配転、出向などの法的問題について学んでいきます。これらの内容を理解することで、将来のライフプランやキャリアプランを設計することができるようにします。

これらのことと併せて、ドイツの「労働4.0」に代表されるような、先進諸国で展開されている立法政策についても授業の中で言及し、日本の雇用、立法、社会政策について幅広く学習します。特に、有期契約労働、パートタイム労働、労働者派遣は海外諸国においても重要な立法課題の1つであり、同一（価値）労働同一賃金の問題にあるように政策的にも重要課題の1つになっていますので、海外との比較の観点からも日本の雇用政策の特徴を学びます。

キーワード/Keyword(s)

労働基準法、労働契約法、労働災害、ワーク・ライフ・バランス、人事、解雇、同一労働同一賃金、有期契約、パート、派遣

到達目標/Learning Objectives

労働法で登場する基礎的な用語の意味や基本的な考え方を学び、今、現実に行っている問題を法的に把握する力を身に付けることができます。こうした力を身に付けることによって、自分のライフプランやキャリアプランを設計できるようになります。

具体的には、年次有給休暇や会社の休職制度、昇格や降格、配転や出向、懲戒処分、解雇などの問題について考える力を身に付けることができます。

これらの問題を考えることを通じて、最新の判例を検討する際に必要となる応用的思考の前提となる、基本的な法的思考力を養うことができます。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

1. イントロダクション-労働関係の始期と展開、終了について
2. 労働災害-労災保険の概要、使用者の安全配慮義務
3. 様々な休暇・休業制度-年次有給休暇、産前・産後休業、育児休業、休職制度
4. 昇格・降格の法的問題、配転・出向
5. 懲戒処分
6. 労働関係の終了-定年制、退職勧奨、解雇など
7. 有期労働契約・パートタイム労働
8. 労働者派遣、非正規労働をめぐる立法政策、試験

【授業外学修】

各授業の資料は授業前にポータルシステムにアップロードするので、事前に目を通して予習をしてください。

労働法が関係する様々な問題について、ニュースや新聞記事等をチェックしてアンテナを張っておいてください。

各回の授業内容については、「今日のまとめ」としてレジユメの最後に要点をまとめています。授業後に穴埋めをすることで授業内容を復習してください。

授業では基本的に配布するレジユメに沿って内容を説明していきますが、教科書や参考文献に挙げた基本書の該当箇所を読むことで内容の理解を深めてください。

【アクティブ・ラーニング】

毎回の授業でリアクションペーパーを配布します。リアクションペーパーには授業の疑問点やその他、皆さんが目にした労働法の問題について自由に記入してください。授業の冒頭に、リアクションペーパーに書いてもらった内容を振り返ります。

履修上の注意/Notes

授業の中では憲法や民法に関連する用語も登場してくるので、「民法概論」や「日本国憲法概論」などの授業で学んだ内容を復習しておくことが望まれます。

また、労働法の領域では常に新しい問題が日々登場しているので、日頃から新聞やニュース等に接しておくことが望ましいです。

情報端末の活用

授業で用いるレジユメや資料はポータルシステムにアップするので、そちらから各自でダウンロードしてください。

成績評価基準/Evaluation criteria

A+ 労働法で登場する基礎的な用語の意味や基本的な考え方を十分に習得し、さらに、自分の意見や見解について根拠を示して説明することが出来ている。

A 労働法で登場する基礎的な用語の意味や基本的な考え方を習得し、さらに、自分の意見や見解を説明することが出来ている。

B 労働法で登場する基礎的な用語の意味や基本的な考え方を概ね習得し、さらに、自分の意見や見解を述べている。

C 労働法で登場する基礎的な用語の意味や基本的な考え方を最低限習得し、自分の意見や見解を述べている。

D 労働法で登場する基礎的な用語の意味や基本的な考え方を習得することができず、自分の意見や見解を述べられていない。

成績の評価方法/Grading

リアクションペーパーの内容（15%）、授業中に行う小テスト（25%）と試験（60%）で評価を行います。

毎回の授業の際、レジユメと併せて「練習問題」とリアクションペーパーを配布します。授業後にこれらを回収して出席確認をします。

教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	有斐閣713A 労働法 第7版
著者名	浜村彰
出版社	有斐閣
出版年	
ISBN	9784641221321
教材費	2090

教科書2

書名	労働判例百選
----	--------

著者名	村中／孝史 編
出版社	有斐閣
出版年	2016
ISBN	9784641115316
教材費	2400

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	労働法
著者名	菅野 和夫 著・文・その他
出版社	弘文堂
出版年	
ISBN	9784335315473
教材費	6500

参考書2

書名	労働法 第2版
著者名	西谷敏
出版社	日本評論社
出版年	
ISBN	9784535519695
教材費	5170

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	○
専門分野の学力	◎
課題解決能力	◎
コミュニケーション力	◎
実践的英語力	△
社会人としての姿勢	◎
地域活性化志向	◎

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

--

使用言語

日本語

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB8266	ナンバリング	KB-GHS-131	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	月4	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	L P S	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2020年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	法律・政治				
担当教員（ローマ字表記）	川島 佑介				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

政治と行政の仕組み

授業の概要/Course Overview

本講義では、高校までの現代社会系科目を復習しつつ、大学教養科目として政治と行政の仕組みについて論じます。本講義では、自由民主主義の類型を学ぶために、日本を参考にしつつ、ある意味で両極に存在するイギリスとアメリカの仕組みを説明します。

キーワード/Keyword(s)

社会科学、政治、行政、国際比較、イギリス、アメリカ

到達目標/Learning Objectives

第一に、現在の政治・行政の仕組みが形成されてきた歴史的沿革を知ることにより、現在の政治・行政の理解を深めること。第二に、既存の制度へのオルタナティブを考察しうるようになること。第三に、自由民主主義の利点と欠点について評価しうるようになること。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- 1.自由民主主義の多様性（福祉国家類型、二つの自由主義、ポリアーキー）
- 2.権力の集中としてのイギリス①（立憲君主制、不文憲法）
- 3.権力の集中としてのイギリス②（議会主権、本会議主義、政党システム）
- 4.時事トピック：2016年からのイギリスEU離脱問題をどう理解するか
- 5.権力の分立としてのアメリカ（大統領制、三権分立、委員会主義、強い州）
- 6.時事トピック：2016年のドナルド・トランプ大統領誕生をどう理解するか（仮）
- 7.日本の国の「カタチ」（後発先進国としての利点と呪縛）
- 8.授業のまとめとテスト

【授業外学修】

- (1)日々のニュースに注意を払い、社会的科学的知識と考察の力を深めてください。
- (2)授業でレジュメを配布しますので、事項について復習してください。
- (3)事実関係が不明点がある場合には、インターネットなどを用いて、自分で調べ、調査力も上げてください。ただし、それでも分からない場合には、後述する質問意見用紙で聞いてください。

【アクティブ・ラーニング】

- (1)第1～7回目には、質問意見用紙の回収を行い、それぞれ第2～8回目の授業冒頭で回答・講評を行いますので、質問や意見がある人は、授業中あるいは授業後に記入・提出してください。

履修上の注意/Notes

他の受講生の迷惑となる私語、香りが強い飲食物の喫食、香水の着用は控えてください。仮に私語が改善されない場合には、座席指定とします。また、本講義では質問意見用紙を通じたアクティブラーニングを実施しますが、減点方式ではないので、率直な内容を書いてください（なお、質問意見がなければ、提出しなくても結構です。第1回目の授業で説明します）。

情報端末の活用

特に必須ではありませんが、調べものをする際には積極的に使って下さい。

成績評価基準/Evaluation criteria

- A + : 政治学・行政学の基本的な知識と考え方を十分に修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
A : 政治学・行政学の基本的な知識と考え方を修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
B : 政治学・行政学の基本的な知識と考え方を概ね修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
C : 政治学・行政学の基本的な知識と考え方について最低限の修得をしており、さらにその仕組みについて説明できている。
D : 政治学・行政学の基本的な知識と考え方が修得できておらず、さらにその仕組みについての説明ができていない。

成績の評価方法/Grading

テスト(85%)、質問意見用紙(15%)

教科書/Textbook(s)

備考	教科書は用いません。参考書は随時紹介します。
----	------------------------

参考書/Reference Book(s)

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	◎
課題解決能力	◎
コミュニケーション力	△
実践的英語力	○
社会人としての姿勢	○
地域活性化志向	○

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

--

地域志向科目

--

使用言語

日本語のみ（ただし、個別の質問意見については英語も可）

実務経験のある教員による授業科目

自治体委員、大学付属研究所研究員、専門学校講師経験のある教員が、その経験を活かして、行政のこんにち的課題と動態のあり方を具体的に指導し、公務員として活躍するための資質を育成する。

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供	受講条件等	
--------	-------	--

時間割コード	KB8267	ナンバリング	KB-GHS-131-COE	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	月4	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	L P S	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2020年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	経済・経営				
担当教員（ローマ字表記）	清山 玲				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

女性のキャリアとワーク・ライフ・バランス

授業の概要/Course Overview

女性のキャリアについて、とくに労働市場、企業の人事労務管理、公的な政策制度の観点から講義する。将来、自分、配偶者、あるいは職場の同僚や部下がキャリアを継続し活躍できるために、ワーク・ライフ・バランスと女性活躍を推進する人事労務管理やライフ・キャリアデザインの意義と方法について授業します。卒業後に、幸せに社会で活躍するために必要な職業観とスキルの涵養を目的としています。

キーワード/Keyword(s)

ジェンダー、人事労務管理、コース別雇用管理、人事考課、ライフデザイン、キャリアデザイン、ダイバーシティ・マネジメント、ワーク・ライフ・バランス、女性活躍推進法

到達目標/Learning Objectives

女性のキャリアについて、とくに労働市場、企業の人事労務管理、公的な政策制度の観点から説明できる。将来、自分、配偶者、あるいは職場の同僚や部下がキャリアを継続し活躍するためのライフ・キャリアデザインの意義と方法について理解し考察できる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

第1回：ガイダンス 雇用・家計・福祉国家と女性

将来の働き方、生き方に関するアンケート実施

第2回：変貌する企業の雇用戦略と女性－働き方格差と女性労働

アンケート結果に関するコメント

第3回：勤労者の家計から考える女性のキャリア

感想文

第4回：成長戦略で全員参加型社会へ－ダイバーシティ・マネジメントで変わる職場

感想文へのコメント

第5回：女性が活躍できる職場と探し方

第6回：ライフデザイン・キャリアデザイン-働き方の選択、生き方の選択と学生時代の課題

質疑応答 感想文

第7回：わたしのキャリアとワーク・ライフ・バランス

第8回：試験（40分）、働きがいのある会社・職場の選び方：茨大生の就職活動紹介

【授業外学修】

- (1) キーワードについて、あらかじめ調べておくことスムーズに理解できます。
- (2) 新聞記事検索や内閣府・厚生労働省など政府サイトその他で、本テーマについてインターネット検索をかけ、情報を収集してみてください。

【アクティブ・ラーニング】

- (1) 2-8回目までに、計2回程度、授業の振り返り、感想文、一言カード等、書く機会を設けます。これらに対する

コメントやリプライを提出後の授業時間に行います。

- (2) 受講生が作成したミニレポートやアンケート結果などを紹介しながら、ライフおよびキャリアデザインをするうえでのポイントや留意点について、コメントします。
として致します。
- (3) 優秀なものを授業時に紹介し、情報を共有するとともにレポートや感想文などの書き方の指導をしながら理解を深めていきます。

履修上の注意/Notes

- 1) 資料等、随時配布します。欠席した場合にも、自分でコピーするなどして必ず入手し、毎回全資料を持参してください。2) オフィスアワー：火曜日の昼休み（講義時にアポイントをとるとスムーズです）3) アンケートや感想・意見等を求めます。（積極的に楽しく参加してください）

情報端末の活用

成績評価基準/Evaluation criteria

- A+：女性のキャリアとワーク・ライフ・バランス問題について、十分に基本的な知識を修得し、問題の重要性や課題解決に向けた取り組みについて説明できる。
- A：女性のキャリアとワーク・ライフ・バランス問題について、基本的な知識を修得し、問題の重要性や課題解決に向けた取り組みについて説明できる。
- B：女性のキャリアとワーク・ライフ・バランス問題について、概ね基本的な知識を修得し、問題の重要性や課題解決に向けた取り組みについて説明できる。
- C：女性のキャリアとワーク・ライフ・バランス問題について、最低限の基本的な知識を修得し、問題の重要性や課題解決に向けた取り組みについて説明できる。
- D：女性のキャリアとワーク・ライフ・バランス問題について、基本的な知識を修得できておらず、問題の重要性や課題解決に向けた取り組みについて説明できていない。

成績の評価方法/Grading

小テスト：60点 ミニレポート（各20点×2回）

教科書/Textbook(s)

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	なぜ女性は仕事を辞めるのか 5155人の軌跡から読み解くライブラリー
著者名	岩田 大沢他
出版社	青弓社
出版年	2015
ISBN	9784787233905
教材費	1728

参考書2

書名	女性はなぜ活躍できないのか
著者名	大沢 真知子
出版社	東洋経済新報社
出版年	2015
ISBN	9784492223536
教材費	2160

参考書3

書名	仕事と家族
著者名	筒井 淳也
出版社	中公新書
出版年	2015
ISBN	4121023226
教材費	842

参考書4

書名	男女共同参画白書 令和元年版
著者名	
出版社	
出版年	2019
ISBN	
教材費	

参考書5

書名	論文「スーパーマーケット業界における働き方改革」
著者名	清山玲
出版社	
出版年	2019
ISBN	
教材費	

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	○
専門分野の学力	◎
課題解決能力	◎
コミュニケーション力	
実践的英語力	
社会人としての姿勢	◎
地域活性化志向	○

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

--

地域志向科目

○

使用言語

日本語のみ

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供	○	受講条件等	
--------	---	-------	--

時間割コード	KB8268	ナンバリング	KB-GHS-131	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	月4	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	L P S	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2020年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	経済・経営				
担当教員（ローマ字表記）	田中 泉				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

身近な経済学入門II

授業の概要/Course Overview

日々の生活の中で感じる消費者の非合理的行動をトピックとして取り上げ、経済学的な思考方法を説明する。

キーワード/Keyword(s)

機会費用、サunkコスト、合理性と非合理性、限定合理性、消費者心理、行動経済学

到達目標/Learning Objectives

合理的経済人の仮定の意味を説明できる。
 経済学の費用の概念を理解し、それを日常生活に応用できる。
 人間の非合理的な感情や行動を経済学的な視点で理解し、説明できる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

1. シラバスを用いたガイダンス、合理的経済人の仮定の説明
2. 一日中寝ていれば費用かかからないのか（機会費用）
3. 食べ放題だとなぜ、食べ過ぎてしまうのか（サunkコスト、心理的勘定）
4. 最終レースの大穴狙いの心理的要因は何か（プロスペクト理論）
5. なぜ日米は北欧諸国に比べ臓器移植の同意者の割合が低いのか（フレーミング効果）
6. 2年目のジnxスとは（ヒューリスティクス）
7. 情けは人の為ならず or 合理的な愚か者？（互酬性）
8. 合理的経済人と限定合理性、まとめ

【授業外学修】

- (1) 毎回、事前にポータルシステムの「授業資料」欄を通じて配信される資料に目をとしておくこと。
- (2) 上記「授業資料」においてコメント（小テスト）課題、あるいは少レポート課題が記載されているので、事前にある程度準備して授業に臨み、授業終了後、あるいは後期限内に提出すること。

【アクティブ・ラーニング】

第2回以降は、授業終了後、あるいは後期限内に提出されたコメント、小レポートの内容を振り返り、受講生の理解度・到達度を確認して新たな内容に入る。

履修上の注意/Notes

- (1) 毎回ポータルシステムを通じて事前準備課題を含む授業資料を配布する。授業時には資料配布を行わないので注していること。
- (2) 毎回コメント（小テスト）を授業終了後に提出するか、あるいは小レポートを後日提出する。
- (3) 期末試験は実施しない。

情報端末の活用

講義資料はポータルシステムで事前配信するので、毎回の授業時にはPCを持参すること。

成績評価基準/Evaluation criteria

- A+：到達目標の3点について極めて高いレベルで達成されている。
A：到達目標の3点について高いレベル以上で達成されている。
B：到達目標の3点についておおむね以上のレベルで達成されている。
C：到達目標の3点について最低限のレベル以上において達成されている。
D：到達目標の3点のうち1点以上について全く達成されていない。

成績の評価方法/Grading

毎回の講義の最後に実施するコメント（小テスト）あるいは小レポートで評価（100%）をする。期末試験は実施しない。

教科書/Textbook(s)

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	競争政策論 第2版 独占禁止法事例とともに学ぶ産業組織論
著者名	小田切宏之
出版社	日本評論社
出版年	2017
ISBN	9784535558823
教材費	2400

参考書2

書名	行動経済学入門
著者名	筒井義郎 [ほか] 著
出版社	東洋経済新報社
出版年	2017
ISBN	9784492314975
教材費	

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	<input type="radio"/>
専門分野の学力	<input type="radio"/>

課題解決能力	
コミュニケーション力	
実践的英語力	
社会人としての姿勢	○
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB8269	ナンバリング	KB-GHS-131	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	月4	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	L P S	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2020年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	経済・経営				
担当教員（ローマ字表記）	細田 雅洋				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

マネジメント入門（マネジメントの方法）

授業の概要/Course Overview

P. F. Druckerが論じているマネジメントについて学ぶことを通じて、組織で成果をあげるための方法を理解することを目的とする。経営学の分野で長年議論されているマネジメントについてP. F. Druckerの著書を題材とし、輪読、プレゼンテーション、ディスカッションなどを通じて、マネジメントに関わる考察の共有と個人の理解の深化を図る。この講義では、とりわけマネジメントの方法をテーマに取り上げる。

キーワード/Keyword(s)

マネジメント・イノベーション・マーケティング・生産性・社会的責任・マネジャー・トップマネジメント・組織構造・戦略

到達目標/Learning Objectives

- ・組織のマネジメントの方法を理解できる
- ・組織が直面する課題解決に向けて、自分なりの仮説を立てることができる。
- ・経営学の基礎知識を理解することができる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

第1回：【授業内容】シラバスを用いたガイダンスと導入

シラバスにしたがい、授業の進め方について説明する。

【授業外学修】配付資料・授業内のメモを確認しておくこと。参考図書を購入した場合には、指定の範囲に目を通すこと。

第2回：【授業内容】マネジャー①：グループディスカッションと発表

マネジメントの中核を担うマネジャーの役割を理解する。

【授業外学修】配付資料・授業内のメモを確認しておくこと。参考図書を購入した場合には、指定の範囲に目を通すこと。

第3回：【授業内容】マネジャー②：グループディスカッションと発表

マネジメントの中核を担うマネジャーの役割を理解する。

【授業外学修】配付資料・授業内のメモを確認しておくこと。参考図書を購入した場合には、指定の範囲に目を通すこと。

第4回：【授業内容】マネジメントの技能①：グループディスカッションと発表

マネジャーに必要とされる技能を理解する。

【授業外学修】配付資料・授業内のメモを確認しておくこと。参考図書を購入した場合には、指定の範囲に目を通すこと。

第4回：【授業内容】マネジメントの技能②：グループディスカッションと発表

マネジャーに必要とされる技能を理解する。

【授業外学修】配付資料・授業内のメモを確認しておくこと。参考図書を購入した場合には、指定の範囲に目を通すこと。

第5回：【授業内容】マネジメントの技能③：グループディスカッションと発表

マネジャーに必要とされる技能を理解する。

【授業外学修】配付資料・授業内のメモを確認しておくこと。参考図書を購入した場合には、指定の範囲に目を通すこと。

第6回：【授業内容】マネジメントの技能④：グループディスカッションと発表

マネジャーに必要とされる技能を理解する。

【授業外学修】配付資料・授業内のメモを確認しておくこと。参考図書を購入した場合には、指定の範囲に目を通すこと。

第7回：【授業内容】マネジメントの技能⑤：グループディスカッションと発表

マネジャーに必要とされる技能を理解する。

【授業外学修】配付資料・授業内のメモを確認しておくこと。参考図書を購入した場合には、指定の範囲に目を通すこと。

第8回：【授業内容】期末レポート課題に関する説明・まとめ

履修上の注意/Notes

①ディスカッションには積極的、能動的に参加すること。②そのためには、自分の考えを持つと同時に、自分とは別の考えをきちんと受け止めようとする。③遅刻をするとその回の授業全体が理解しがたくなるので、定時に出席すること。④オフィスアワー：月曜日昼休み（人文社会科学部A棟6階623）メールアドレス masahiro.hosoda.mn@vc.ibaraki.ac.jp

情報端末の活用

成績評価基準/Evaluation criteria

A+：マネジャーの役割・マネジャーに必要とされる技能に関わる基本的な知識と考え方を十分に修得し、さらにその仕組みについて説明できている。

A：マネジャーの役割・マネジャーに必要とされる技能に関わる基本的な知識と考え方を修得し、さらにその仕組みについて説明できている。

B：マネジャーの役割・マネジャーに必要とされる技能に関わる基本的な知識と考え方を概ね修得し、さらにその仕組みについて説明できている。

C：マネジャーの役割・マネジャーに必要とされる技能に関わる基本的な知識と考え方について最低限の修得をしており、さらにその仕組みについて説明できている。

D：マネジャーの役割・マネジャーに必要とされる技能に関わる基本的な知識と考え方が修得できておらず、さらにその仕組みについての説明ができていない。

成績の評価方法/Grading

ディスカッションにおける貢献度（40%）と期末レポート（60%）をもとに総合的に評価する。期末試験は実施しない。

教科書/Textbook(s)

参考書/Reference Book(s)

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	○
専門分野の学力	○
課題解決能力	○
コミュニケーション力	○
実践的英語力	○
社会人としての姿勢	○
地域活性化志向	△

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供	○	受講条件等	
--------	---	-------	--

時間割コード	KB8270	ナンバリング	KB-GHS-131-COE	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	月4	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	L P S	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2020年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	公共社会				
担当教員（ローマ字表記）	何 晨				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

都市観光と地方創生

授業の概要/Course Overview

本講義では、地域創生における都市観光の可能性と課題を、観光学の視点から考察する。具体的には、中国とヨーロッパにおける観光開発の事例を検討したうえで、日本の課題を整理する。

キーワード/Keyword(s)

都市観光, 地方創生, ヨーロッパ, 中国, 日本

到達目標/Learning Objectives

都市観光を正しく理解する。また、都市観光が地域創生にいかに関与しうるかを具体的に検討・考察する力をつける。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

1. シラバスを用いたガイダンス、および観光学の概要紹介
2. 観光の定義と都市観光の重要性
3. アジアの都市観光①：北京市の概要と什刹海の水辺観光
4. アジアの都市観光②：北京市什刹海の胡同観光
5. ヨーロッパの都市観光①：パリ市の概要とパリの街並み観光
6. ヨーロッパの都市観光②：エディンバラ市の歴史と観光による都市の活性化
7. 日本における地方都市の停滞と都市観光を活用した地方創生の可能性
8. 総括・期末試験（各45分）

【アクティブ・ラーニング】

授業後に事業内容に関する小テストを実施する。次の授業の際に、前回の小テストの解答内容から、理解不十分の箇所等について説明を加える。授業では、履修者に発言を求めることがある。

【授業外学修】

- (1) 参考資料を事前に読み込み、観光学の基本的な知識を身に付けておくこと。
- (2) 第3～7回の授業では、北京やパリ、エディンバラを事例に、観光の実例を紹介する。当該地域の地理に関する基礎的事項を、予習しておくこと。
- (3) 第7回の授業までに、茨城県の現状（人口の少子高齢化、基幹産業の停滞）について基礎的事項を予習しておくこと。

履修上の注意/Notes

毎回の授業後に小テストを実施する。そのほかに、試験を実施する。単位を取得するためには、試験の受験が義務である。また、授業中は積極的に発言して議論に加わることを求める。20分までの遅刻は小テストの減点で対応する。20分以上の遅刻は認めない。

情報端末の活用

--

成績評価基準/Evaluation criteria

A+：都市観光の基本的な知識と考え方を十分に修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
A：都市観光の基本的な知識と考え方を修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
B：都市観光の基本的な知識と考え方をおおむね修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
C：都市観光の基本的な知識と考え方について最低限の修得をしており、さらにその仕組みについて説明できている。
D：都市観光の基本的な知識と考え方が修得できておらず、さらにその仕組みについての説明ができていない。

成績の評価方法/Grading

期末試験（40%）と小テスト（60%）で評価する。そのほかに、授業中の発言内容に応じて加点する。

教科書/Textbook(s)

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	アーバンツーリズム：都市観光論
著者名	淡野明彦著
出版社	古今書院
出版年	2004
ISBN	477221576X
教材費	3080

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	<input type="radio"/>
専門分野の学力	<input type="radio"/>
課題解決能力	<input type="radio"/>
コミュニケーション力	
実践的英語力	
社会人としての姿勢	
地域活性化志向	<input type="radio"/>

アクティブ・ラーニング型科目

<input type="radio"/>

PBL科目

--

地域志向科目

○

使用言語

日本語

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等
--------	--	-------

時間割コード	KB8271	ナンバリング	KB-GHS-131-COE	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	月4	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	L P S	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2020年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	公共社会				
担当教員（ローマ字表記）	渋谷 敦司				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

現代社会論B

授業の概要/Course Overview

現在われわれが生きている社会を「現代社会」と命名した上で、この現代社会が工業化、都市化、情報化、サービス社会化、国際化、等々と表現される社会的変化を経て、「近代社会」の延長線上に登場してきたプロセスを考察する。この授業では、地域（都市と農村）、労働、科学・技術等の変化に焦点を当て、震災と原発事故をふまえた「リスク社会」としての現代社会についても考察する。

キーワード/Keyword(s)

都市化 コミュニティ 社会的孤立 サービス化 科学・技術 リスク社会

到達目標/Learning Objectives

われわれ自身が生きている社会の特徴について歴史的な視点で理解し、日々報道されている社会的出来事や事件、社会問題などを批判的に理解できるようになる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

1. 「都市」とは何か：都市化と都市型社会
2. 「ご近所の底力」とコミュニティ衰退論について考える
3. 地域の「活性化」とは何か：茨城県の「魅力度」と「観光振興」について考える
4. 震災・原発事故とコミュニティ：社会的絆・連帯と個人の自由な選択
5. 労働の世界の変容：サービス労働と感情マネジメント
6. 労働の「マクドナルド化」とワーキングプア
7. リスク社会とは何か：科学・技術の発展の歴史と震災・原発事故について考える
8. 総合討論（45分）と期末レポートの執筆提出（45分）

【授業外学習】

この授業では現代社会で発生している日常的な出来事や社会現象を素材にこれらの社会的出来事や社会問題などを「批判的」に理解することを目的としているので、各回のテーマと関連した新聞記事やマスコミ報道などに日ごろから関心を持って接することを予習として心がけて下さい。その上で、各回授業のキーワードとなる社会学的概念、例えば「都市」や「都市化」、「コミュニティ」や「サービス」、「科学」、「技術」、「リスク」というような用語が高校までの社会科等の授業や教科書でどのように使われ、説明されてきたのか、マスコミ報道などでどのような言葉として流通しているのかを、「批判的」に振り返る作業を復習として実践してみてください。

【アクティブ・ラーニング】

1回目以降の各授業の初めに前回授業で取り上げた社会現象に関するキーワードと関連して、どのような新聞記事やマスコミ報道が見つかったのかを、気になったニュース等として学生から報告してもらい、質疑討論を行います。

履修上の注意/Notes

パワーポイントを使った授業なので、話しを聞きながらそれをノートにとる練習をして下さい。30分以上の遅刻は出席とは認めません。OHは金曜日の昼休み

情報端末の活用

--

成績評価基準/Evaluation criteria

- A+ : 現代社会についての社会学的な考え方を十分に修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
A : 現代社会についての社会学的な考え方を修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
B : 現代社会についての社会学的な考え方を概ね修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
C : 現代社会についての社会学的な考え方について最低限の修得をしており、さらにその仕組みについて説明できている。
D : 現代社会についての社会学的な考え方が修得できておらず、さらにその仕組みについての説明ができていない。

成績の評価方法/Grading

第8回目の授業後半部分で執筆提出する期末レポートで成績評価する。

教科書/Textbook(s)

備考	教科書は使用しません。参考図書は講義の中で適宜示します。
----	------------------------------

参考書/Reference Book(s)

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	○
専門分野の学力	○
課題解決能力	
コミュニケーション力	
実践的英語力	
社会人としての姿勢	
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

--

地域志向科目

○

使用言語

日本語のみ

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供	○	受講条件等	
--------	---	-------	--

時間割コード	KB8272	ナンバリング	KB-GHS-131	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	金3	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	T A	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2020年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	公共社会				
担当教員（ローマ字表記）	蓮井 誠一郎				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

平和のための政治B

授業の概要/Course Overview

「開発を推進すれば皆が豊かで平和になる。」今でも多くの人びとが信じる考え方です。「豊かで平和な国日本」というキャッチコピーもありました。開発による豊かさは本当に平和をもたらすのでしょうか？世界の開発を平和学の立場から俯瞰的に考えて、その課題となる暴力的側面を明らかにします。そのうえで、どうやってそれを克服あるいは解決できるか、世界の人びとがどう考えているのかを含めて、社会に出た後にも役立つものの見方を学びます。

キーワード/Keyword(s)

平和、暴力、開発、環境、世界システム、国際政治、NGO

到達目標/Learning Objectives

- ①受講生が「平和」という政治的な言葉を学問的に理解する。
- ②受講生が世界の政治経済に組み込まれた暴力の構造を理解する。
- ③受講生が現代の開発の暴力的側面を理解し、平和学の視点で状況を評価できるようになる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

(1)ガイダンスと分析ツールの提供

授業内容：シラバスを用いたガイダンス及び受講上のルール説明。分析のための構造的暴力論の講義。

授業外学修：シラバスを読んでおくこと。

(2)開発の政治学(1)～開発という言葉の意味するもの

授業内容：開発という現象を説明し、なぜ途上国が豊かになれないか、バズセッションを行う。

授業外学修：テキストの該当ページを読んでおくこと。

(3)開発の政治学(2)～皆が豊かになれるって本当ですか？

授業内容：開発パラダイムの問題について考え、レスポンスシートに記入する。

授業外学修：レジュメとテキストの該当ページを読んでおくこと。

(4)世界システム論(1)～世界は巨大なシステムだ！

授業内容：世界システム（資本主義世界経済）における人びとの考えと行動について、バズセッションを通じてロールプレイを行う。

授業外学修：テキストの該当ページを読んでおくこと。

(5)世界システム論(2)～なぜ貧困はなくなる？

授業内容：世界システムの暴力について、レスポンスシートに記入する。

授業外学修：レジュメとテキストの該当ページを読んでおくこと。

(6)私なんかの世界を変えることはできますか？(1)

授業内容：世界の市民社会についてNGOの観点から考え、レスポンスシートに記入する。

授業外学修：テキストの該当ページを読んでおくこと。

(7)私なんかの世界を変えることはできますか？(2)

授業内容：日本の市民社会についてNGOの観点から考え、レスポンスシートに記入する。

授業外学修：テキストの該当ページを読んでおくこと。

(8)授業全体のまとめと長文レスポンス記入

授業内容：構造的暴力から現代世界の開発とそれを世界に組み込んだ世界システムについてまとめる。

授業外学修：テキストの全体を再度読んでおくこと。

履修上の注意/Notes

①一定時間以上の遅刻は欠席扱いとなります。②オフィス・アワーは木曜3限と金曜昼休み。③クラスを無作為に少人数グループに分けてのディスカッションを予定していますし、シートなどへの記入も多いので、積極的な授業参加が求められます。④平和のための政治Aを受講していることを推奨。

情報端末の活用

授業の中で特に指示がない限りPCは使用しない。使用する場合には事前に予告する。

成績評価基準/Evaluation criteria

- A+：授業で示した平和学の基本的な知識と考え方を十分に修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
A：授業で示した平和学の基本的な知識と考え方を修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
B：授業で示した平和学の基本的な知識と考え方を概ね修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
C：授業で示した平和学の基本的な知識と考え方について最低限の修得をしており、さらにその仕組みについて説明できている。
D：授業で示した平和学の基本的な知識と考え方が修得できておらず、さらにその仕組みについての説明ができていない。

成績の評価方法/Grading

授業期間中に記入するレスポンスシート（30%）と、長文レスポンス（70%）とで評価します。学内外の授業関連イベントの参加レポート（指定用紙に記入）にはボーナス点（最大20%）を与えます。遅刻や欠席などで、レスポンスシートの記入回数が規定回数に満たない場合は単位を出せないの注意してください。

教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	概論 平和学のいま—地球・自分・未来をつなぐ見取図
著者名	平井朗編著
出版社	法律文化社
出版年	2020
ISBN	
教材費	2100

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	ガルトゥング平和学の基礎 = Foundations of Johan Galtung's Theory of Peace
著者名	ヨハン・ガルトゥング 著
出版社	法律文化社
出版年	2019
ISBN	9784589040275
教材費	2800

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	△
課題解決能力	○
コミュニケーション力	△
実践的英語力	△
社会人としての姿勢	○
地域活性化志向	△

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

--

地域志向科目

--

使用言語

日本語

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供	○	受講条件等	平和のための政治Aを受講済みであることが望ましい。
--------	---	-------	---------------------------

時間割コード	KB8273	ナンバリング	KB-GHS-131-JEP	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	月4	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	L P S	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2020年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	グローバル・スタディーズ				
担当教員（ローマ字表記）	金 光男				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

東アジア概説

授業の概要/Course Overview

近現代の東アジアに関して概説する。ここで取り上げる東アジアとは日本、韓国、朝鮮である。もちろん中国、台湾、そして米国など周辺国地域も必要な限りで取り上げる。だが授業の中心は、日本と韓国・朝鮮との近現代の関わりに絞り、その政治、経済、相互間の認識、論争点などをめぐって議論していく。その際「事実」に基づく議論、相互の多元的視点からの議論を展開する。すなわち日本側から見た関係のみならず、同時に相手側から見た関係も考えていく。

キーワード/Keyword(s)

東アジア、近代史、現代的問題、日朝関係、日韓関係、政治、経済

到達目標/Learning Objectives

受講生が、近現代の東アジアと日本との「関係」について概説的な知識を習得し、その全体像を説明することができるようになることである。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- (1) シラバスを用いたガイダンスと授業全体の説明
- (2) 日朝近代史：1860年代～1910年（グループ討論と個別レポート）
【授業外学修】参考書①pp.123-231を熟読してくること。
- (3) 日朝近代史：1910年～1945年（同上）
【授業外学修】参考書②pp.96-134を熟読してくること。
- (4) 冷戦下の朝鮮半島（同上）
【授業外学修】参考書③pp.58-69を熟読してくること。
- (5) 戦後の日朝関係（同上）
【授業外学修】参考書③pp.114-144を熟読してくること。
- (6) 戦後の日韓関係（同上）
【授業外学修】参考書③pp.145-154を熟読してくること。
- (7) 21世紀の朝鮮半島と日本（同上）
【授業外学修】参考書④pp.180-230を熟読してくること。
- (8) まとめの議論(45分)と期末試験(45分)

履修上の注意/Notes

遅刻は20分まで認められる。参考書②は絶版なので図書館を利用して下さい。

情報端末の活用

第7回目または8回目でアンケートの実施予定であるため、PC、スマートフォン等を持参すること。

成績評価基準/Evaluation criteria

- A + : 近現代東アジアと日本との関係の基本的な知識を十分に習得し、その全体像を説明することが出来ている。
A : 近現代東アジアと日本との関係の基本的な知識を習得し、その全体像を説明することが出来ている。
B : 近現代東アジアと日本との関係の基本的な知識を概ね習得し、その全体像を説明することが出来ている。
C : 近現代東アジアと日本との関係の基本的な知識を最低限習得し、その全体像を概ね説明出来ている。
D : 近現代東アジアと日本との関係の基本的な知識を修得しておらず、その全体像について説明ができていない。

成績の評価方法/Grading

期末試験70%、授業中での「小レポート」30%

教科書/Textbook(s)

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	韓国併合
著者名	海野福寿
出版社	岩波新書
出版年	1995
ISBN	
教材費	

参考書2

書名	もっと知ろう朝鮮
著者名	尹 健次
出版社	岩波ジュニア新書
出版年	
ISBN	
教材費	

参考書3

書名	日朝関係の克服
著者名	姜 尚中
出版社	集英社新書
出版年	
ISBN	
教材費	

参考書4

書名	韓国現代史
著者名	文 京洙
出版社	岩波新書
出版年	2005
ISBN	
教材費	

参考書5

書名	図説 朝鮮と日本の歴史 近代編
著者名	久保井規夫
出版社	明石書店
出版年	
ISBN	
教材費	

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	◎
課題解決能力	
コミュニケーション力	
実践的英語力	
社会人としての姿勢	◎
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

--

地域志向科目

--

使用言語

日本語のみ

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供	○	受講条件等	
--------	---	-------	--

時間割コード	KB8274	ナンバリング	KB-GHS-132-JEP,GEP	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	月4	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	L P S	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2020年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	グローバル・スタディーズ				
担当教員（ローマ字表記）	青木 香代子				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

Diversity and Social Issues in Japan B

授業の概要/Course Overview

This course aims to introduce various issues on diversity and social issues in Japan. It particularly focuses on issues concerning education system, women and gender, poverty, to "Japaneseness." It will provide an opportunity to consider in depth these issues. It welcomes both international and Japanese students who are willing to actively participate in discussions about these issues.

キーワード/Keyword(s)

Multicultural society, diversity in Japan, education system in Japan, social issues in Japan, Japaneseness, women and gender in Japan, oppression, privilege

到達目標/Learning Objectives

1. To familiarize yourself with various social issues in Japan
2. To critically analyze these issues from different perspectives
3. To present your opinions about these issues
4. To give a presentation on a given topic related to these issues

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

1. Introduction to the Course: Identity, Race and Ethnicity in Japan
2. Concepts of Privilege, Oppression, and Japaneseness
3. Foreign Workers and Immigration Policies in Japan
4. Women and Gender in Japan
5. Poverty in Japan
6. Education in Japan/Cultural Sharing
7. Social Issues in the Globalized World
8. Presentation, Summery

[Active Learning]

In this class, students are expected to join the group discussion in every class except the last class (week 8).

In this class, students are required to write the reflective journal at the end of each class.

[Out-of-the-class learning]

1. Students are expected to read the assigned materials for each week before class and create a reading log. Take notes of something that you may come up with for group discussions.

2. In addition to the assigned reading materials, read other academic papers, newspapers, and books which are related to the topics taken up in class

履修上の注意/Notes

1. This class will be conducted in English.
2. Students are required to actively participate in every class discussion.
3. Students are required to write a reflection sheet on every class.
4. If one is late for the class three times, it will be counted as being absent once.
5. If one is absent more than two thirds of the classes, s/he cannot pass the course.

情報端末の活用

Students are required to submit mid-term paper, final paper and reading log on DreamCampus.

成績評価基準/Evaluation criteria

A+: Outstanding performance indicating an excellent understanding of the concepts and principles for diversity and social issues in Japan.

A: Fairly good performance indicating a good understanding of the concepts and principles of diversity and social issues in Japan.

B: Performance indicates that concepts and principles of diversity and social issues in Japan are understood and steady improvement is being made.

C: Performance is the minimum required to achieve improvement. Demonstrates some understanding of the concepts and principles of diversity and social issues in Japan.

D: Performance is below the standards and failing. Performance indicates that concepts and principles of diversity and social issues in Japan are not understood.

成績の評価方法/Grading

Class Participation and Reflection, and Reading Log 20%

Mid Term Paper 20%

Presentation 20%

Final paper 40%

There will be no final exam in Week 8.

教科書/Textbook(s)

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	An introduction to Japanese society
著者名	Yoshio Sugimoto
出版社	Cambridge University Press
出版年	2014
ISBN	978-1107626676
教材費	4500

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	<input checked="" type="radio"/>
専門分野の学力	<input type="radio"/>
課題解決能力	<input checked="" type="radio"/>
コミュニケーション力	<input checked="" type="radio"/>
実践的英語力	<input type="radio"/>
社会人としての姿勢	<input type="radio"/>
地域活性化志向	<input type="radio"/>

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB8275	ナンバリング	KB-GHS-131-JEP,COE	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	月4	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	L P S	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2020年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	グローバル・スタディーズ				
担当教員（ローマ字表記）	田村 誠				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

環境と経済のサステナビリティ：エネルギー編

授業の概要/Course Overview

気候変動問題をはじめとするサステナビリティの課題には、複雑な相互作用や様々な相互作用が存在する。本講義では環境経済学、サステナビリティ学の基礎的な考え方、具体例を紹介し、サステナビリティの課題に対する各自の意見やバランス感覚を養うことを目指す。

キーワード/Keyword(s)

気候変動、環境政策、環境経済、サステナビリティ、相互作用、人間の安全保障

到達目標/Learning Objectives

- ① サステナビリティ関連課題(気候変動、資源・エネルギー問題、廃棄物問題等)を論じる上で必要となる最低限の知識を身につけること
- ② 関連資料の読み方を理解すること、そのために量的なバランス感覚を養うこと
- ③ 環境、経済、サステナビリティに関する相互作用を認識し、何らかの意見を持つこと

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- ① 世界の課題、サステナビリティ学
- ② 資源・エネルギー問題：枯渇性資源
- ③ 資源・エネルギー問題：更新性資源1
- ④ 資源・エネルギー問題：更新性資源2
- ⑤ 自分自身の環境負荷を理解する1
- ⑥ 自分自身の環境負荷を理解する2
- ⑦ エネルギー討論
- ⑧ 総括(30分)および試験(60分)

【授業外学修】

・講義資料は教務情報ポータルシステムに原則事前にアップする(ただし、授業進行上であえて配布しない場合がある)。分からない用語などは、あらかじめ調べておくこと。

【アクティブ・ラーニング】

- ・講義中に皆さんからの意見を求めることがあるので、レジュメ等を見直し、議論へ主体的に参加すること。
- ・ほぼ毎回、コメント用紙の提出もしくは小テストを実施する

履修上の注意/Notes

関連科目に第3Qの「環境と経済のサステナビリティ：気候変動編」がある。遅刻は講義の理解に支障をきたすので慎むこと。

情報端末の活用

講義資料はDREAM Campsusに配信する。

成績評価基準/Evaluation criteria

- A + : エネルギーとその持続可能性に関する基本的な知識と考え方を十分に修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
A : エネルギーとその持続可能性に関する基本的な知識と考え方を修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
B : エネルギーとその持続可能性に関する基本的な知識と考え方を概ね修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
C : エネルギーとその持続可能性に関する基本的な知識と考え方について最低限の修得をしており、さらにその仕組みについて説明できている。
D : エネルギーとその持続可能性に関する基本的な知識と考え方が修得できておらず、さらにその仕組みについての説明ができていない。

成績の評価方法/Grading

以下の方法から総合評価する。

- ① 講義時の小テスト・アンケート: 40点
- ② 試験: 60点

教科書/Textbook(s)

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	サステナビリティ学をつくる：持続可能な地球・社会・人間システムを目指して
著者名	三村信男, 伊藤哲司, 田村誠, 佐藤嘉則 編
出版社	新曜社
出版年	2008
ISBN	478851110X
教材費	2900

参考書2

書名	持続可能な世界へ：茨城大学発
著者名	茨城大学地球変動適応科学研究機関 編
出版社	茨城新聞社
出版年	2010
ISBN	487273257X
教材費	952

参考書3

書名	ポスト震災社会のサステナビリティ学：地域と大学の新たな協働をめざして
著者名	田村誠, 伊藤哲司, 木村競, 加藤禎久, 坂上伸生 編

出版社	国際文献社
出版年	2014
ISBN	4902590360
教材費	3500

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	
専門分野の学力	○
課題解決能力	○
コミュニケーション力	◎
実践的英語力	△
社会人としての姿勢	◎
地域活性化志向	○

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供	○	受講条件等	エネルギーとその持続可能性について関心を持っていること
--------	---	-------	-----------------------------

時間割コード	KB8276	ナンバリング	KB-GHS-131	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	月4	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	LPS	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2020年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	公共社会				
担当教員（ローマ字表記）	篠嶋 妥				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

生命保険を考える（生命保険協会提供講座）

授業の概要/Course Overview

この授業では、まずは、日本の公的保障（社会保障制度）について概観する。

その理解の上に立ち、少子・高齢化社会の一層の進展等により表面化している社会保障制度の諸課題を背景に、私的保障（生命保険）の意義、自助努力の必要性・有効性等について理解し、考察を深めて行く。

また、生活の様々な局面に潜むリスクについて理解し、リスクを回避・抑制する手段の一つである生命保険の仕組・役割等について学ぶことを通じて、持続可能な社会を営む一員として、また、消費者として、役に立つ知識・考え方の習得を目指す。

以上の内容について、実務家（後述）が講師となり、経験談や最新情報も随所に織り込み、理論と実践とのバランスに配慮して講義を行う。

この授業を通じて、それぞれの人生について考え、成長する契機として頂きたい。

キーワード/Keyword(s)

社会保障と生命保険、公的保障と私的保障、公助と自助（努力）、生活設計とリスク管理

到達目標/Learning Objectives

1. 社会保障制度の概要やその主な保障内容を理解し、説明することができる。
2. 現代生活に潜むリスク、生命保険の意義・役割、基本的な仕組等を理解し、説明することができる。
3. 大学生として、公的保障と私的保障のあるべき姿等について、自分なりの考察を加えて整理し、説明することができる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

第1回 オリエンテーション・総論（私達を取り巻く環境、公私の生活保障、生命保険の歴史等）

（担当：（一社）生命保険協会 茨城県事務局長 小島浩治）

第2回 生活設計とリスク管理（ライフサイクルの変化、生活設計・リスクとは？等）

（担当：同協会 調査部シニアアドバイザー 瀬戸信之）

第3回 公的保障と生命保険（死亡・医療・老後・介護それぞれのリスクへの備え）

（担当：小島）

第4回 生命保険契約の仕組（消費者保護の視点も考慮したサービス設計を含む）

（担当：同協会 調査部長 白岩 剛）

第5回 生命保険商品の変遷・動向（社会構造・ニーズ等の変化に応じた過去・近年・今後の動向）

（担当：同協会 副会長 小林 研一）

第6回 震災時の生命保険業界の対応（東日本大震災を中心に、生活再建に向けた貢献・支援等）

（担当；小島）

第7回 グループディスカッション（担当：小島）

第8回 総括（担当：小島）45分

期末試験（担当：小島）45分

※受講生の理解度・講義の進み具合に応じて、①. 内容・順番を見直す場合があり得る、②. 上記の他、「生命保険と税金（親族・相続等の関係知識を含む）」等のテーマを予定している。

【授業外学修】

(1)ポータルシステムを通じて、毎回事前に配信する授業資料（主に講師がパワーポイントで作成・整理したもの）に目を通しておくことが望ましい。

(2)少子・高齢化の進展を踏まえた社会保障制度の改革状況等について、メディア等を通じて情報収集し、自分なりの課題意識・意見を持って臨むと、より講義が理解できるようになると考える。

【アクティブ・ラーニング】

(1)毎回の授業終了時に、レスポンスシート（A4サイズ1枚程度）を配布し、提出してもらう予定。

（例：授業内容の理解度確認として的小テスト、設定したテーマに関する意見の論述など）

(2)授業の中で、それまでの学修内容を踏まえたテーマについて、課題分析・解決策等を議論し、提言をまとめるグループディスカッションを予定している。

履修上の注意/Notes

(1)前述のポータルシステムを通じて、毎回事前に授業資料を配信する。

(2)前述のレスポンスシートの中で、その回の授業についての感想・気づきも書いてもらうことを予定しているが、直接質問等は、講義後に時間を取り対応する。

情報端末の活用

活用予定なし

成績評価基準/Evaluation criteria

A+：到達目標の3点について極めて高いレベルで達成されている

A：到達目標の3点について高いレベル以上で達成されている

B：到達目標の3点についておおむね以上のレベルで達成されている

C：到達目標の3点について最低限のレベル以上において達成されている

D：到達目標の3点のうち1点以上について全く達成されていない

成績の評価方法/Grading

到達目標の3点について、レスポンスシートの内容30%、期末試験の得点70%で成績を評価する。

教科書/Textbook(s)

備考	特になし
----	------

参考書/Reference Book(s)

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	
専門分野の学力	○
課題解決能力	△

コミュニケーション力	
実践的英語力	
社会人としての姿勢	◎
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

実務経験のある教員による授業科目

一般社団法人 生命保険協会の提供講座として、同協会役職員（※）によるオムニバス形式である。
 （※）生命保険会社の役員・管理職等を歴任し、生命保険事業について豊富な知識・経験等を有する
 ただし、授業内容の一貫性を保つため、同協会・茨城県事務局長がメインスピーカーとして、全ての回を担当する。その立会のもとで、第2・4・5回は、同協会・本部（東京）の役職員がゲストスピーカーとして担当予定である。

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供	×	受講条件等	
--------	---	-------	--

時間割コード	KB8351	ナンバリング	KB-GHS-111	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	金3	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	T A	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2020年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	法律・政治				
担当教員（ローマ字表記）	福田 智子				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

高齢社会と成年後見制度

授業の概要/Course Overview

本講義は、世界で最も高齢社会が進む日本における成年後見制度の概要について学ぶことを目的とする。成年後見法（民法・任意後見契約に関する法律）は、民法総則や家族法の学習の入り口となる内容であるが、本講義では法律だけでなく、成年後見制度の全体像（関連する公的機関・民間機関・コミュニティ）、認知症や犯罪など高齢者にかかわる問題、そして世界における成年後見制度の内容や動向など、幅広い範囲にわたり学習する。

キーワード/Keyword(s)

成年後見制度、高齢社会、法定後見、任意後見、意思決定支援

到達目標/Learning Objectives

- (1) 成年後見制度の概要を理解できている
- (2) (1)に対する問題点や改善点等を考察した上で、自分の意見を論理的に説明することができる

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- (1) シラバスに関するガイダンスと日本における高齢社会の現状把握
 - ・ガイダンスでは授業内容、予習の仕方、参考図書等に関する説明をする
- (2) 高齢者を取り巻く問題（認知症、犯罪など）
- (3) 成年後見制度概論（成年後見制度にかかわる機関や厚生労働省の取り組みなど）
- (4) 成年後見制度各論①（法定後見制度）
- (5) 成年後見制度各論②（任意後見制度）
- (6) 成年後見人、任意後見人の役割（意思決定支援など）
- (7) 成年後見に関する新たな試み（金融商品、住居、介護ロボットなど）
- (8) ドイツ・イギリスの成年後見制度、試験

【授業外学習】

各回で取り扱う内容について、事前に参考図書などでその概要等を確認し、分からない用語等は調べておくこと。

履修上の注意/Notes

情報端末の活用

--

成績評価基準/Evaluation criteria

A+ : 成年後見制度の基本的な知識と考え方を十分に修得し、その問題点や改善点を深く洞察し、論理的に自分の考えや提言を説明できている
A : 成年後見制度の基本的な知識と考え方を修得し、その問題点や改善点を考察した上で自分の考えや提言を説明できている
B : 成年後見制度の概要を理解し、その問題点や改善点を考察した上で自分の考えを説明できている
C : 成年後見制度の概要を理解しているが、その問題点や改善点を考察した上で自分の考えを説明できていない
D : 成年後見制度の概要を理解できていない

成績の評価方法/Grading

最終講義に行う試験 : 100%

教科書/Textbook(s)

備考	なし
----	----

参考書/Reference Book(s)

参考書2

書名	認知症と民法
著者名	小賀野晶一, 成本迅, 藤田卓仙 編
出版社	勁草書房
出版年	2018
ISBN	9784326449743
教材費	3200

参考書3

書名	認知症と医療
著者名	成本迅, 藤田卓仙, 小賀野晶一 編
出版社	勁草書房
出版年	2018
ISBN	9784326449750
教材費	3200

参考書4

書名	認知症と情報
著者名	藤田卓仙, 小賀野晶一, 成本迅 編
出版社	勁草書房
出版年	2019
ISBN	9784326449767

教材費	3000
-----	------

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	◎
課題解決能力	◎
コミュニケーション力	○
実践的英語力	△
社会人としての姿勢	◎
地域活性化志向	◎

アクティブ・ラーニング型科目

--

PBL科目

--

地域志向科目

--

使用言語

日本語

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB8352	ナンバリング	KB-GHS-131	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	金3	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	T A	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2020年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	法律・政治				
担当教員（ローマ字表記）	陶山 二郎				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

刑事裁判入門

授業の概要/Course Overview

刑事裁判に関して刑事法学から考察する。刑事裁判については、裁判官と共に国民が判決に加わる裁判員制度が2009年5月に導入され、10年が経過した。国民の「健全な社会常識」を裁判に反映させるという目的で始まったため、「素人」ということが強調されるが、素人であっても、否むしる素人であるからこそ刑事裁判の基本原則と現実の問題性を理解しておく必要がある。本講義では、刑事法に関する極めて基本的な知識のほか、刑事裁判に関する諸問題のうち、特に捜査に関する諸問題を中心に学修する。

キーワード/Keyword(s)

国家刑罰権、刑事人権、裁判員制度、冤罪、死刑

到達目標/Learning Objectives

まず、刑事裁判に関する問題状況を把握できるようになることを目指す。その上で、刑事裁判に関する憲法上及び刑事訴訟法上の諸原則を理解する。最終的には、刑事法原則に適切に基づいて、刑事裁判の諸問題を分析し、それらの諸問題に関する改善策を自分の言葉で説明できるようになり、かつ他の受講生と刑事裁判に関する諸問題について刑事法の知識を活かして意見交換ができる能力を身に付ける。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- 【授業内容】ガイダンス【授業外学修】刑事裁判関係のニュース等を見ておくこと(全回共通)。
- 【授業内容】刑事裁判の流れ【授業外学修】講義配布資料の図を読み直してよく理解すること。
- 【授業内容】刑事訴訟の基本原則【授業外学修】教科書1章を読んでおくこと
- 【授業内容】日本における刑事裁判の歴史と現在の問題状況【授業外学修】教科書序章を読んでおくこと
- 【授業内容】司法権の独立【授業外学修】教科書序章と2章を読んでおくこと
- 【授業内容】刑事手続の関与者【授業外学修】教科書2章を読んでおくこと
- 【授業内容】身柄拘束と被疑者取調べ【授業外学修】教科書3章を読んでおくこと
- 【授業内容】新しい捜査方法(45分)、振り返り小テスト
【授業外学修】教科書4章を読んでおくこと
【アクティブ・ラーニング】毎回講義最後にその回の学修内容に関するペーパーの提出を求める

履修上の注意/Notes

- ・予習として事前に教科書を通読しておくことと理解しやすいと思われる。
- ・私語厳禁。

情報端末の活用

・各条文の参照に活用されたい。

成績評価基準/Evaluation criteria

- A + : 刑事裁判における捜査の基本的な知識と考え方を十分に修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
A : 刑事裁判における捜査の基本的な知識と考え方を修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
B : 刑事裁判における捜査の基本的な知識と考え方を概ね修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
C : 刑事裁判における捜査の基本的な知識と考え方について最低限の修得をしており、さらにその仕組みについて説明できている。
D : 刑事裁判における捜査の基本的な知識と考え方が修得できておらず、さらにその仕組みについての説明ができていない。

成績の評価方法/Grading

毎回講義最後に提出するペーパー(70%)と最終回に実施予定の小テスト(30%)で評価する。

教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	歴史に学ぶ刑事訴訟法
著者名	内田博文 編
出版社	法律文化社
出版年	
ISBN	9784589035226
教材費	

備考 参考書: 内田博文編『歴史に学ぶ刑事訴訟法』(法律文化社、2013年)2,800円(税別)

参考書/Reference Book(s)

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	△
専門分野の学力	○
課題解決能力	○
コミュニケーション力	
実践的英語力	
社会人としての姿勢	△
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

--

地域志向科目

--

使用言語

日本語のみ

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等
--------	--	-------

時間割コード	KB8353	ナンバリング	KB-GHS-131-COE	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	金3	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	T A	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2020年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	経済・経営				
担当教員（ローマ字表記）	後藤 玲子				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

現代経済入門

授業の概要/Course Overview

本講義では、現代の社会経済におけるさまざまな問題を取り上げながら、研究上の「問い」（リサーチ・クエスチョン）について社会科学的方法来に考える方法を解説します。基本的には一回ごとに異なるテーマを取り上げて、講義と参加型学習を組み合わせる授業を行います。

キーワード/Keyword(s)

社会科学、経済学、科学的方法論、ポジティブ心理学、因果推論、世界経済、ジェンダー問題、目標設定理論、データエコノミー

到達目標/Learning Objectives

授業で扱った社会経済問題について、社会科学の方法論や経済学の考え方をを使って、よりよく考えることができる。
授業で学習するグループワークのためのスキルを応用できる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

第1回：シラバスを用いたガイダンス、科学的方法論とは何か

ブレインストーミング、ワードクラウド

第2回：何が人生の成功を決めるのか

振り返り、オンラインアンケート

第3回：世界のリアルは予想どおりか

振り返り、オンラインアンケート

第4回：なぜ日本では女性管理職が少ないのか

振り返り、チームブレスト、ワードクラウド

第5回：政策問題とグループ討議

振り返り、グループワーク、小レポート

第6回：良い目標とは何か

振り返り、ミニッツペーパー

第7回：データエコノミーの時代

振り返り、ミニッツペーパー

第8回：まとめ、小テスト（45分）、授業アンケート

振り返り

※受講者の人数や反応によって授業の方法や講義の順序を変えますので、シラバス通りには進まないことがあります。

※授業外学修について：予習を特別に指示した場合を除いて、復習を重視して下さい。復習で大切なのは、授業で学んだ知識を応用する力を身につけることです。そのために、まずはプリントとノートを読み直し、大切な概念や事実などを思い出しましょう。次に、他の授業の課題や時事問題などで本授業で学んだことをどのように活かせるか考えてみてください。関係づけ能力を高めているうちに知識が知恵やスキルに変換されていくことが期待されます。参考文献を時間をかけて読むことも有意義です。授業では紹介する文献のうち、興味を持った文献を手

に取って読んでみて下さい。自分の考え方に良い影響を与える本に出会うことができれば、その出会いは生涯の財産になると思います。

履修上の注意/Notes

- ★ 1. 昨年度「現代経済入門Ⅰ」の単位を取得した学生は、履修できません。注意して下さい。
- 2. 正当な理由がない限り、30分以上の遅刻・早退は欠席扱いとします。
- 3. 毎回、全ての配布資料とノートを必ず持参して下さい。
- 4. 授業では、付箋紙にアイデア等を書きこむワークが時々あります。そのときには、少し太めの紙用マジックを持参して下さい。付箋紙はこちらで用意します。

情報端末の活用

ほぼ毎回の授業で、オンラインアンケートを行ったり、インターネット経由で出席管理を行ったりします。自分のデバイスを用いて大学のwifi等経由でインターネットにアクセスできるような準備をしてきて下さい。

成績評価基準/Evaluation criteria

- A + : 授業で扱った内容に関する基本的な知識及び社会科学の基本的な方法論を十分に修得している。
- A : 授業で扱った内容に関する基本的な知識及び社会科学の基本的な方法論を修得している。
- B : 授業で扱った内容に関する基本的な知識及び社会科学の基本的な方法論を概ね修得している。
- C : 授業で扱った内容に関する基本的な知識及び社会科学の基本的な方法論について最低限の修得している。
- D : 授業で扱った内容に関する基本的な知識及び社会科学の基本的な方法論が修得できていない。

成績の評価方法/Grading

チームプレストへの貢献度20%、小レポート20%、小テストの成績60%で評価します。

教科書/Textbook(s)

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	FACTFULNESS (ファクトフルネス) : 10の思い込みを乗り越え、データから真実を読み解く習慣
著者名	ハンス・ロスリング 著・文・その他
出版社	日経B P
出版年	2019
ISBN	9784822289607
教材費	1800

参考書2

書名	マインドセット: 「やればできる!」の研究
著者名	キャロル・S・ドゥエック 著
出版社	草思社
出版年	2016
ISBN	9784794221780

教材費	1700
-----	------

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	○
課題解決能力	○
コミュニケーション力	○
実践的英語力	
社会人としての姿勢	△
地域活性化志向	△

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

--

地域志向科目

○

使用言語

日本語のみ

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	令和元年度後期開講「現代経済入門Ⅰ」の単位を取得していないこと。
--------	--	-------	----------------------------------

時間割コード	KB8354	ナンバリング	KB-GHS-131	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	金3	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	T A	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2020年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	経済・経営				
担当教員（ローマ字表記）	加藤 崇徳				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

経営戦略論入門

授業の概要/Course Overview

本講義の目的は、経営戦略の基本的な考え方を学び、その考え方を通じて様々な経営現象を分析できるようになることである。業界の構造分析を軸として、これらを支える背後の理論・思考法について、現実の事例を用いながら講義していく。

キーワード/Keyword(s)

【キーワード】経営戦略, 事業戦略, 競争戦略, 経営資源, 付加価値, 差別化戦略, 価格競争

到達目標/Learning Objectives

1. 経営戦略論の分析フレームワークが理解できる。
2. 経営戦略の理論と、企業の事例とを対応させながら考察できる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

【授業内容】ガイダンスと事前準備

・基本的な経営指標や、経営学における付加価値の考え方について

【授業外学修】事前配布の講義資料の予習と復習

【授業内容】事業(競争)戦略論：業界の構造分析①

・既存企業の対抗度(競争業者の数から製品差別化)。小テスト

【授業外学修】事前配布の講義資料の予習と復習

【授業内容】事業(競争)戦略論：業界の構造分析②

・既存企業の対抗度(生産能力拡張から退出障壁)。小テスト

【授業外学修】事前配布の講義資料の予習と復習

【授業内容】事業(競争)戦略論：業界の構造分析③

・新規参入の脅威。先発優位・後発優位。小テスト

【授業外学修】事前配布の講義資料の予習と復習

【授業内容】事業(競争)戦略論：業界の構造分析④

・代替品の脅威。イノベーションのジレンマ。小テスト

【授業外学修】事前配布の講義資料の予習と復習

【授業内容】事業(競争)戦略論：業界の構造分析⑤

・買い手・供給業者の交渉力。前方統合や後方統合など。小テスト

【授業外学修】事前配布の講義資料の予習と復習

【授業内容】事業(競争)戦略論：業界の構造分析⑥

・補完財。構造分析から戦略シナリオを考える。小テスト

【授業外学修】事前配布の講義資料の予習と復習

【授業内容】まとめと期末試験

・1～7回の振り返りと、期末試験。

【授業外学修】事前配布の講義資料の予習と復習

履修上の注意/Notes

- (1)小テストは講義開始直後に行う。遅刻しないこと。
- (2)飲食自由。
- (3)オフィス・アワーは金曜お昼休み。
- (4)講義への質問・コメント等があればポータル上のレポート機能からミニッツペーパーを提出すること。
- (5)講義資料の再配布はしない。
- (6)予習は必ずしも必要ではないが、復習をせずに講義についてくることは難しい水準で講義を行うので注意すること。

情報端末の活用

- (1)講義資料を事前にドリーム・キャンパスに掲載する。
- (2)小テストはドリームキャンパス上で行う。
- (3)ドリームキャンパスにアクセスできるデバイス(PC・タブレット・スマホ)を持参すること。

成績評価基準/Evaluation criteria

- A+：経営戦略論の基本的な知識と考え方を十分に修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
- A：経営戦略論の基本的な知識と考え方を修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
- B：経営戦略論の基本的な知識と考え方を概ね修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
- C：経営戦略論の基本的な知識と考え方について最低限の修得をしており、さらにその仕組みについて説明できている。
- D：経営戦略論の基本的な知識と考え方が修得できておらず、さらにその仕組みについての説明ができていない。

成績の評価方法/Grading

8回目に期末試験を行う。

成績評価の割合は、以下の通り。

期末試験：40%

小テスト(6回)：60%

教科書/Textbook(s)

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	わかりやすいマーケティング戦略
著者名	沼上幹
出版社	有斐閣
出版年	
ISBN	
教材費	2052

参考書2

書名	競争戦略論
著者名	青島矢一・加藤俊彦
出版社	東洋経済新報社
出版年	
ISBN	
教材費	2246

参考書3

書名	競争戦略
著者名	加藤俊彦
出版社	日本経済新聞出版社
出版年	
ISBN	
教材費	929

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	◎
課題解決能力	○
コミュニケーション力	△
実践的英語力	△
社会人としての姿勢	△
地域活性化志向	△

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供	<input type="radio"/>	受講条件等	
--------	-----------------------	-------	--

時間割コード	KB8356	ナンバリング	KB-GHS-131	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	月4	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	L P S	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2020年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	公共社会				
担当教員（ローマ字表記）	富江 直子				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

社会学の視点A

授業の概要/Course Overview

社会学のまなざしで社会を見つめてみましょう。社会学の基礎理論を学び、「自己」の成り立ちや、人と人とのつながり方や、世界との関わり方などを捉えることを学びます。「自己」と「社会」との関係性を見つめ、「自己」と「社会」とが互いに形成し、形成されていくダイナミックな過程を知ることによって、ふだん当たり前にあるものと思っていたことが、驚くべきことに見えてきたり、疑うべきことに思えてきたりします。

キーワード/Keyword(s)

社会、行為、自己、権力、秩序

到達目標/Learning Objectives

- ・社会学の基本的な概念を学ぶ。
- ・社会学の視点からさまざまな社会事象を分析、解釈する方法を身につける。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- 1 シラバスを用いたガイダンス
- 2 「社会」とは
- 3 行為の理論
- 4 社会現象としての「自己」
- 5 ドラマトゥルギー
- 6 逸脱の社会学
- 7 権力の社会学
- 8 まとめ（45分）と試験（45分）

【授業外学修】

- (1)生活のなかで、面白いと思うこと、疑問に思うことなどをいろいろ見つけておくことが予習につながります。
- (2)授業の復習は、授業で配付する資料と、各自が作ったノートなどで行って下さい。復習には社会学の事典や入門書なども活用してください。
- (3)各自の関心のあるテーマについては、図書館などで文献を探して学習を深めてください。授業のなかで紹介する参考文献などを使っていたくのもよいと思います。
- (4)授業で学んだ社会学の枠組みを用いて、日常の生活のなかの身近な事象を見直してみることも大事な学びになります。ぜひ周りの人という話してみてください。

【アクティブ・ラーニング】

授業の中で、各テーマに関するミニレポートを書いていただきます（数回実施）。

履修上の注意/Notes

オフィスアワーは火曜日の昼休みです。
やむを得ない事情がない限り、遅刻しないように気をつけて下さい。

情報端末の活用

成績評価基準/Evaluation criteria

A+ : 90点以上100点	到達目標を十分に達成し、きわめて優れた学修成果を上げている。
A : 80点以上90点未満	到達目標を達成し、優れた学修成果を上げている。
B : 70点以上80点未満	到達目標と学修成果を概ね達成している。
C : 60点以上70点未満	合格と認められる最低限の到達目標に届いている。
D : 60点未満	到達目標に届いておらず、再履修が必要である。

成績の評価方法/Grading

期末試験:100%

教科書/Textbook(s)

備考	教科書は使わず、レジュメを配布します。
----	---------------------

参考書/Reference Book(s)

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	○
専門分野の学力	◎
課題解決能力	△
コミュニケーション力	△
実践的英語力	
社会人としての姿勢	○
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

地域志向科目

--

使用言語

日本語

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB8357	ナンバリング	KB-GHS-111	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	金3	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	T A	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2020年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	公共社会				
担当教員（ローマ字表記）	寺地 幹人				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

社会学にふれる

授業の概要/Course Overview

社会学未習者が、社会学を知るきっかけを提供する。比較的なじみやすい話題（具体的には、メディア、場所、移動、若者文化）を素材とし、社会学ないし社会的メディア論・社会的若者論の観点からそれらを考察することを通じた、社会学についての理解と社会的視点の獲得が、受講生に期待される。

キーワード/Keyword(s)

社会学、現代社会、メディア、情報、場所、空間、若者

到達目標/Learning Objectives

- (1)メディアや場所に関連する話題から、社会学の基礎的知識を獲得する。
- (2)身近な現象を考察する際の社会的視点を身につける基礎を培う。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

※授業第1回に必ず出席すること。教科書の購入方法や次回以降の予習方法等、重要事項について説明する。

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 社会学についての基本的説明
- 第3回 社会学にふれる(1)：アイドル
- 第4回 社会学にふれる(2)：オタク
- 第5回 社会学にふれる(3)：田舎暮らし
- 第6回 社会学にふれる(4)：地元志向
- 第7回 まとめにむけて
- 第8回 議論・質疑応答

<授業外学修>

- ・ポータルシステムにアップするシートをプリントアウトし、指定箇所を記入済みのうえ、授業に持参すること（詳細は、ガイダンス時に説明するので、その説明を踏まえること）。
- ・シートを記入するために、テキストの該当箇所を事前に読むことが必要となる。
- ・テキスト内で理解が難しい箇所がある場合には、図書館などで参考となる文献を手にとるなど、工夫をすること。

履修上の注意/Notes

- 教科書を授業第1回前に購入しないこと。第1回での説明を受けてから速やかに購入してもらい、第2回以降の授業や課題で使用する。
- 授業第1回に必ず出席すること。第2回以降の履修を認める場合もあるが、毎回の課題の積み重ねで評価する授業なので、その点で不利になることに注意。
- 現代社会および社会学のトレンドは日々刻々と変化している。この授業には最新の社会状況も反映されるため、詳細な授業概要・授業計画については授業第1回にて説明する（上記の授業計画は2018年12月時点のものであり、開講時に修正する可能性がある）。また、受講者の理解・関心等の理由により、授業計画は変更されることがある。

予習：次回までに教科書の指定された範囲を読み、シートを作成してくる。

復習：次回の予習を優先してほしいが、可能であれば復習をするのが望ましい。

遅刻：各回までの課題をもとにして授業を展開するので、遅刻し途中で入室すると、その日の授業への参加が困難となる。やむを得ない事情で遅れる場合には、授業第1回で指示する方法により、連絡を入れること。

情報端末の活用

- ・ポータルシステムの本授業のページを1日1回程度以上確認すること。
- ・授業（第1回を除く）の前に、PDF（授業に持参するシート）をプリントアウトすることが必要となる。

成績評価基準/Evaluation criteria

「成績の評価方法」に記載の「評価ポイント」の①～③内容を、すべて満たして任意記述欄なども不足なく記載の場合はA+、ほぼ満たして任意記述欄なども不足なく記載の場合はA、不足している部分があるが5分の4程度満たされている場合はB、不足している部分があるが3分の2程度満たされている場合はC、それ以外はD。

成績の評価方法/Grading

第2回以降の各回の授業にかかわる課題（100%）

評価ポイント：①教科書の理解、②予習時の考察、③授業時の考察。①②③を概ね同比率で評価する。①で求めるのは、理解の正確さと要約の精度。②③で求めるのは、①を活かした考察になっているか、「感想」ではなく「考察」となっているか、という点など。

- 期末試験を実施せず、期末レポートも出題しない予定。

- 授業第1～6回のうち2回分までは欠席が認められるが（3回以上は単位認定不可）、課題の点数を足し合わせて評価するので、欠席があると大きく不利になる。すなわち、欠席が1～2回だとしても、その影響が大きいので点数が足りずに不合格となる場合もある。よって、極力欠席しないことが重要となる。

教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	「場所」から問う若者文化（仮）
著者名	
出版社	晃洋書房
出版年	
ISBN	
教材費	

教科書2

書名	ポスト情報メディア論 = post information media studies
著者名	岡本健, 松井広志 編
出版社	ナカニシヤ出版

出版年	2018
ISBN	9784779512858
教材費	2400

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	社会システム（上）
著者名	
出版社	勁草書房
出版年	2020
ISBN	9784326603244
教材費	

参考書2

書名	社会システム（下）
著者名	
出版社	勁草書房
出版年	2020
ISBN	9784326603251
教材費	

参考書3

書名	趣味の社会学 = Sociology of Taste : 文化・階層・ジェンダー
著者名	片岡栄美
出版社	青弓社
出版年	2019
ISBN	9784787234568
教材費	

参考書4

書名	社会学入門・中級編 = Introduction to Sociology
著者名	稲葉振一郎
出版社	有斐閣
出版年	2019
ISBN	9784641174467
教材費	

参考書5

書名	現代文化への社会学 = Sociology for Contemporary Culture : 90年代と「いま」を比較する
著者名	高野光平, 加島卓, 飯田豊 編著
出版社	北樹出版

出版年	2018
ISBN	9784779305870
教材費	2000

参考書6

書名	社会学する原動力 = TOWARD SOCIOLOGIES
著者名	田中慶子, 中根光敏
出版社	松籟社
出版年	2019
ISBN	9784879843722
教材費	

参考書7

書名	文化的進化論：人びとの価値観と行動が世界をつくりかえる
著者名	ロナルド・イングルハート 著
出版社	勁草書房
出版年	2019
ISBN	9784326603183
教材費	

参考書8

書名	暮らしの視点からの地方再生：地域と生活の社会学
著者名	牧野厚史, 松本貴文編
出版社	九州大学出版会
出版年	2015
ISBN	9784798501581
教材費	

参考書9

書名	「宿命」を生きる若者たち
著者名	土井隆義
出版社	岩波書店
出版年	2019
ISBN	9784002710013
教材費	

参考書10

書名	ポストアーバン都市・地域論
著者名	Hans Westlund 編
出版社	
出版年	2019
ISBN	9784863102170

教材費	
-----	--

参考書11

書名	現代アニメ「超」講義
著者名	石岡良治
出版社	Planets/第二次惑星開発委員会
出版年	2019
ISBN	4905325137
教材費	

参考書12

書名	社会学で描く現代社会のスケッチ
著者名	友枝敏雄, 山田真茂留, 平野孝典 編著
出版社	みらい
出版年	2019
ISBN	9784860154851.0
教材費	

参考書13

書名	「アイドル」のメディア史：『明星』とヤングの70年代
著者名	田島悠来
出版社	森話社
出版年	2017
ISBN	9784864051149.0
教材費	

参考書14

書名	『平凡』の時代：1950年代の大衆娯楽雑誌と若者たち
著者名	阪本博志
出版社	昭和堂
出版年	2008
ISBN	9784812208229.0
教材費	

参考書15

書名	「コト消費」の嘘
著者名	川上徹也
出版社	KADOKAWA
出版年	2017
ISBN	9784040822082.0
教材費	

参考書16

書名	メディア論の地層：1970大阪万博から2020東京五輪まで
著者名	飯田 豊 著・文・その他
出版社	勁草書房
出版年	2020
ISBN	9784326654253.0
教材費	

参考書17

書名	日本メディア史年表
著者名	土屋礼子編
出版社	吉川弘文館
出版年	2018
ISBN	9784642014779.0
教材費	

参考書18

書名	グローバル現代社会論 = Studies on Contemporary Global Society
著者名	山田真茂留 編著
出版社	文眞堂
出版年	2018
ISBN	9784830950056.0
教材費	

参考書19

書名	ジェントリフィケーション
著者名	藤塚吉浩著
出版社	古今書院
出版年	2017
ISBN	9784772242011.0
教材費	

参考書20

書名	東京β = TOKYO BETA：更新され続ける都市の物語
著者名	速水健朗 著
出版社	筑摩書房
出版年	2016
ISBN	9784480864437.0
教材費	

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	
----------	--

専門分野の学力	△
課題解決能力	
コミュニケーション力	
実践的英語力	
社会人としての姿勢	
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

--

PBL科目

--

地域志向科目

--

使用言語

日本語のみ（ただし、英語によるサポートが必要な場合は、履修前に要相談）

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB8358	ナンバリング	KB-GHS-132-GEP	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	金3	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	T A	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2020年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	グローバル・スタディーズ				
担当教員（ローマ字表記）	木村 昌孝				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

Basics of International Relations

授業の概要/Course Overview

This course provides students with basic concepts and major theories developed in the academic field of International Relations which are essential to understand the salient characteristics of international relations. The concepts and theories are introduced in stages in the process of reviewing the historical developments of the international system.

キーワード/Keyword(s)

international relations, international politics, modern international system, sovereignty, balance of power, cold war, north-south divide

到達目標/Learning Objectives

Students will be able (1) to grasp basic concepts and major theories of International Relations, and (2) to understand salient characteristics of international relations.

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

1. Introduction: what is international relations?
 2. The rise of modern European international system: the peace of Westphalia, the state system, sovereignty, balance of power, international law.
 3. Expansion of the modern European international system: imperialism, colonialism, nationalism, and decolonization.
 4. Post-WWII international system (1): Cold War, ideologies, nuclear deterrence.
 5. Post-WWII international system (2): north-south divide, under-development, poverty, official development assistance (ODA), import-substitution industrialization, export-oriented industrialization.
 6. Post-Cold War international system: the clash of civilizations? The end of history? The rise of China.
 7. Theoretical perspectives: realism vs liberalism.
 8. Wrap-up: a review of the topics covered and prospects of the future. Term examination.
- (Outside of class and active learning) It is important to relate the contents of this course to the concrete events which are taking place in the current international scene. Students who have difficulty understanding English well are encouraged to check Japanese translation of the technical terms provided above and make use of Japanese reading materials related to each topic in advance of each lecture.

履修上の注意/Notes

Office hour: Since the instructor is not a full-time faculty member, students are advised to contact him after the class or via email

to get an appointment when consultation is necessary.

情報端末の活用

成績評価基準/Evaluation criteria

A+ : Deep understanding of the basic concepts and major theories of International Relations to grasp salient characteristics of international relations is demonstrated.

A : Understanding of the basic concepts and major theories of International Relations to grasp salient characteristics of international relations is demonstrated.

B : Understanding of the basic concepts and major theories of International Relations is demonstrated, although the grasp of salient characteristics of international relations is not satisfactory.

C : The minimum level of understanding of the basic concepts and major theories of International Relations is achieved.

D : Even the minimum level of understanding of the basic concepts and major theories of International Relations is achieved. The minimum requirement of two-thirds class attendance is not satisfied.

成績の評価方法/Grading

A term examination will be used for grading.

教科書/Textbook(s)

備考	No textbook is used.
----	----------------------

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	The globalization of world politics : an introduction to international relations
著者名	John Baylis, Steve Smith, Patricia Owens
出版社	Oxford University Press
出版年	2017
ISBN	9780198739852
教材費	

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	○
課題解決能力	△
コミュニケーション力	○
実践的英語力	◎
社会人としての姿勢	△
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

--

地域志向科目

--

使用言語

English only

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供	受講条件等	
--------	-------	--

時間割コード	KB8359	ナンバリング	KB-GHS-111	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	金3	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	T A	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2020年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	法律・政治				
担当教員（ローマ字表記）	福田 智子				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

税金と法

授業の概要/Course Overview

本講座は、税金の仕組み、税金と法律との関係、そして具体的な税金計算の基礎を学ぶことを目的とする。税金は私たちの生活に身近なものであるにもかかわらず、その内容や課税の仕組みはあまり知られていない。そこで本講座では、具体的な税金計算方法だけでなく、私達がなぜ税金を納めなければならないのか、法学的視点を交えながら学習する。最終回には、税理士の職務内容等についても簡単に紹介する。

キーワード/Keyword(s)

税金、租税法、租税法律主義、消費税、所得税、相続税、税理士業務

到達目標/Learning Objectives

- (1)税金の仕組み、税金と法律との関係、租税法の基礎を理解できている
- (2)(1)を理解した上で、税金の社会における役割に対する自分の意見を論理的に述べることができる

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- (1) シラバスに関するガイダンス、税金とは?
 - ・ガイダンスでは授業内容、予習の仕方、参考図書等に関する説明をする
 - ・税金に関する導入の説明
- (2) 税金と法律
 - ・なぜ税を納める必要があるのか、法学的視点から学習する
- (3) 税金の種類と仕組
- (4) 消費税
- (5) 所得税①
- (6) 所得税②
- (7) 相続税
- (8) 税理士の職務、最終試験

【授業外学習】

各回で取り扱う内容について、事前に参考図書などでその概要等を確認し、分からない用語等は調べておくこと。

履修上の注意/Notes

情報端末の活用

--

成績評価基準/Evaluation criteria

A+ : 税金の仕組み、税金と法律との関係、租税法の基礎を十分に理解した上で、税金の社会における役割に対する自分の意見や提言を論理的に説明できている
A : 税金の仕組み、税金と法律との関係、租税法の基礎を理解した上で、税金の社会における役割に対する自分の意見や提言を説明できている
B : 税金の仕組み、税金と法律との関係、租税法の基礎を理解した上で、税金の社会における役割に対する自分の意見を説明できている
C : 税金の仕組み、税金と法律との関係、租税法の基礎は理解しているが、税金の社会における役割に対する自分の意見を説明できていない
D : 税金の仕組み、税金と法律との関係、租税法の基礎を理解できていない

成績の評価方法/Grading

最終講義に行う試験 : 100%

教科書/Textbook(s)

備考	なし
----	----

参考書/Reference Book(s)

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	○
専門分野の学力	◎
課題解決能力	◎
コミュニケーション力	◎
実践的英語力	△
社会人としての姿勢	◎
地域活性化志向	◎

アクティブ・ラーニング型科目

--

PBL科目

--

地域志向科目

--

使用言語

日本語

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供	受講条件等

時間割コード	KB8360	ナンバリング	KB-GHS-131	科目分野	
開講曜日・時限	金3	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	T A	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2020年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	法律・政治				
担当教員（ローマ字表記）	陶山 二郎				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

刑事訴訟法入門

授業の概要/Course Overview

刑事裁判に関して刑事法学から考察する。刑事裁判については、裁判官と共に国民が判決に加わる裁判員制度が2009年5月に導入され、10年が経過した。国民の「健全な社会常識」を裁判に反映させるという目的で始まったため、「素人」ということが強調されるが、素人であっても、否むしる素人であるからこそ刑事裁判の基本原則と現実の問題性を理解しておく必要がある。本講義では、刑事訴訟法に関する極めて基本的な知識のほか、刑事裁判に関する諸問題のうち、特に公判に関する諸問題を中心に学修する。

キーワード/Keyword(s)

国家刑罰権、刑事人権、裁判員制度、冤罪、死刑

到達目標/Learning Objectives

まず、刑事裁判に関する問題状況を把握できるようになることを目指す。その上で、刑事裁判に関する憲法上及び刑事訴訟法上の諸原則を理解する。最終的には、刑事法原則に適切に基づいて、刑事裁判の諸問題を分析し、それらの諸問題に関する改善策を自分の言葉で説明できるようになり、かつ他の受講生と刑事裁判に関する諸問題について基礎的な刑事訴訟法の知識を活かして意見交換ができる能力を身に付ける。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- 【授業内容】ガイダンス【授業外学修】刑事裁判関係のニュース等を見ておくこと(全回共通)。
- 【授業内容】公訴の提起【授業外学修】教科書5章を読んでおくこと
- 【授業内容】国民の司法参加【授業外学修】教科書6章1～5を読んでおくこと
- 【授業内容】証拠法【授業外学修】教科書6章6～8を読んでおくこと
- 【授業内容】事実認定【授業外学修】教科書7章を読んでおくこと
- 【授業内容】刑事手続の関与者【授業外学修】教科書2章を読んでおくこと
- 【授業内容】上訴・再審【授業外学修】教科書8章を読んでおくこと
- 【授業内容】刑事手続と国際人権(45分)、振り返り小テスト
【授業外学修】教科書9章を読んでおくこと
【アクティブ・ラーニング】毎回講義最後にその回の学修内容に関するペーパーの提出を求める

履修上の注意/Notes

- ・予習として事前に教科書を通読しておくことと理解しやすいと思われる。
- ・私語厳禁。

情報端末の活用

・各条文の参照に活用されたい。

成績評価基準/Evaluation criteria

- A+：刑事裁判の基本的な知識と考え方を十分に修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
A：刑事裁判の基本的な知識と考え方を修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
B：刑事裁判の基本的な知識と考え方を概ね修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
C：刑事裁判の基本的な知識と考え方について最低限の修得をしており、さらにその仕組みについて説明できている。
D：刑事裁判の基本的な知識と考え方が修得できておらず、さらにその仕組みについての説明ができていない。

成績の評価方法/Grading

毎回講義最後に提出するペーパー(70%)と最終回に実施予定の小テスト(30%)で評価する。

教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	歴史に学ぶ刑事訴訟法
著者名	内田博文 編
出版社	法律文化社
出版年	
ISBN	9784589035226
教材費	2800

参考書/Reference Book(s)

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	△
専門分野の学力	○
課題解決能力	○
コミュニケーション力	
実践的英語力	
社会人としての姿勢	△
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

地域志向科目

--

使用言語

日本語のみ

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB8361	ナンバリング	KB-GHS-131-COE	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	金3	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	T A	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2020年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	経済・経営				
担当教員（ローマ字表記）	後藤 玲子				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

経済政策論入門

授業の概要/Course Overview

本講義では、経済政策のうち開発援助政策に焦点を当てて、講義と参加型学習を組み合わせた授業を行います。具体的には、特にサブサハラアフリカ地域の貧困と、戦後の先進国による開発援助政策に焦点を当てて、なぜ世界には豊かな国と貧しい国があるのか、どのような開発援助が望ましいのかについて検討します。

キーワード/Keyword(s)

絶対的貧困、開発援助、科学的方法論、仮説検証、フローチャート、パス図、貧困の罠、福祉の罠、経済的自立

到達目標/Learning Objectives

授業で扱う諸問題について、概要を説明できる。

授業で扱う諸問題について、社会科学的方法論や経済学の考え方を使って、よりよく考えることができる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

第1回：シラバスを用いたガイダンス、経済政策論とは
ワードクラウド

第2回：なぜ世界には貧しい国と豊かな国があるのか
振り返り、ミニツツペーパー

第3回：サブサハラアフリカ地域の貧困の原因①～地理説等
振り返り、ミニツツペーパー

第4回：サブサハラアフリカ地域の貧困の原因②～制度説等
振り返り、ミニツツペーパー

第5回：貧困から抜け出せない原因
振り返り、グループワーク、小レポート

第6回：戦後の開発援助史
振り返り、ミニツツペーパー

第7回：自立への道
振り返り、小レポート

第8回：講義のまとめ、小テスト（45分）、授業アンケート
振り返り

※受講者の人数や反応によって授業の方法や講義の順序を変えますので、シラバス通りには進まないことがあります。

※授業外学修について：予習を特別に指示した場合を除いて、復習を重視して下さい。復習で大切なのは、授業で学んだ知識を応用する力を身につけることです。そのために、まずはプリントとノートを読み直し、大切な概念や事実などを思い出しましょう。次に、他の授業の課題や時事問題などで本授業で学んだことをどのように活かせるか考えてみてください。関係づけ能力を高めているうちに知識が知恵やスキルに

変換されていくことが期待されます。参考文献を時間をかけて読むことも有意義です。授業では紹介する文献のうち、興味を持った文献を手にとって読んでみて下さい。自分の考え方に良い影響を与える本に出会うことができれば、その出会いは生涯の財産になると思います。

履修上の注意/Notes

1. 正当な理由がない限り、30分以上の遅刻・早退は欠席扱いとします。
2. 毎回、全ての配布資料とノートを必ず持参して下さい。
3. 授業では、付箋紙にアイデア等を書きこむワークが時々あります。そのときには、少し太めの紙用マジックを持参して下さい。付箋紙はこちらで用意します。
4. 授業中にプリントの内容すべてを丁寧に解説するわけではありません。授業で扱っていない内容は小テストに出しませんが、教養のために理解したいので解説してほしい等の要望がある場合には、個別に対応します。相談して下さい。

情報端末の活用

ほぼ毎回の授業で、インターネット経由で出席管理等を行います。自分のデバイスを用いて大学のwifi等経由でインターネットにアクセスできるような準備をしてきて下さい。

成績評価基準/Evaluation criteria

- A+ : 授業で扱った社会経済問題に関する基本的な知識及び社会科学の基本的な方法論を十分に修得している。
- A : 授業で扱った社会経済問題に関する基本的な知識及び社会科学の基本的な方法論を修得している。
- B : 授業で扱った社会経済問題に関する基本的な知識及び社会科学の基本的な方法論を概ね修得している。
- C : 授業で扱った社会経済問題に関する基本的な知識及び社会科学の基本的な方法論について最低限の修得している。
- D : 授業で扱った社会経済問題に関する基本的な知識及び社会科学の基本的な方法論が修得できていない。

成績の評価方法/Grading

2回の小レポートと1回の小テストの成績を5 : 5で評価します。

教科書/Textbook(s)

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	銃・病原菌・鉄
著者名	ジャレド・ダイヤモンド 著
出版社	草思社
出版年	2012
ISBN	9784794218780
教材費	900

参考書2

書名	国家はなぜ衰退するのか：権力・繁栄・貧困の起源
著者名	ダロン・アセモグル, ジェイムズ・A・ロビンソン 著
出版社	早川書房
出版年	2016

ISBN	4150504644
教材費	1000

参考書3

書名	貧乏人の経済学：もういちど貧困問題を根っこから考える
著者名	アビジット・V・バナジー, エスター・デュフロ [著] ; 山形浩生訳
出版社	みすず書房
出版年	2012
ISBN	4622076519
教材費	

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	○
課題解決能力	○
コミュニケーション力	○
実践的英語力	
社会人としての姿勢	△
地域活性化志向	○

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	「経済政策論Ⅰ」を受講していないこと。
--------	--	-------	---------------------

時間割コード	KB8362	ナンバリング	KB-GHS-131	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	金3	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	T A	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2020年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	経済・経営				
担当教員（ローマ字表記）	加藤 崇徳				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

経営組織論入門

授業の概要/Course Overview

本講義の目的は、経営組織論の基本的な考え方を学び、その考え方を通じて様々な組織現象を分析できるようになることである。とりわけ、本講義では、個人や集団の意思決定に焦点を当てて、組織で働く個人・集団について理解を深めていく。

キーワード/Keyword(s)

【キーワード】 パーソナリティ、モチベーション、リーダーシップ、パワー、集団と意思決定

到達目標/Learning Objectives

1. 経営組織論の基本的な知見が理解できる。
2. 経営組織の理論と、身の回りの組織現象とを対応させながら考察できる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

【授業内容】 ガイダンスとパーソナリティ
・ パーソナリティの5大要因と、人間の持つ欲求について。
【授業外学修】 事前配布の講義資料の予習と復習
【授業内容】 動機付け(モチベーション)
・ 期待理論を中心とする動機付け理論について。小テスト。
【授業外学修】 事前配布の講義資料の予習と復習
【授業内容】 意思決定のバイアス①
・ 認知的不協和モデルや帰属理論など。小テスト。
【授業外学修】 事前配布の講義資料の予習と復習
【授業内容】 意思決定のバイアス②
・ 確証バイアスやコミットメント・エスカレーションなど。小テスト。
【授業外学修】 事前配布の講義資料の予習と復習
【授業内容】 集団とパワー(権力)
・ アイヒマン実験と、組織内における権力の源泉について。小テスト。
【授業外学修】 事前配布の講義資料の予習と復習
【授業内容】 集団と意思決定
・ 集団極性化や集団浅慮について。小テスト。
【授業外学修】 事前配布の講義資料の予習と復習
【授業内容】 リーダーシップ
・ 人間関係志向やタスク志向などのリーダーシップ理論について。小テスト。
【授業外学修】 事前配布の講義資料の予習と復習

【授業内容】まとめと期末試験

・1～7回の振り返りと、期末試験。

【授業外学修】事前配布の講義資料の予習と復習

履修上の注意/Notes

- (1)小テストは講義開始直後に行う。遅刻しないこと。
- (2)飲食自由。
- (3)オフィス・アワーは金曜お昼休み。
- (4)講義への質問・コメント等があればポータル上のレポート機能からミニッツペーパーを提出すること。
- (5)講義資料の再配布は特別な事情がない限り行わない。
- (6)予習は必ずしも必要ではないが、復習をせずに講義についてくることは難しい水準で講義を行うので注意すること。

情報端末の活用

- (1)講義資料を事前にドリーム・キャンパスに掲載する。
- (2)小テストはドリームキャンパス上で行う。
- (3)ドリームキャンパスにアクセスできるデバイス(PC・タブレット・スマホ)を持参すること。

成績評価基準/Evaluation criteria

- A+：経営組織論の基本的な知識と考え方を十分に修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
- A：経営組織論の基本的な知識と考え方を修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
- B：経営組織論の基本的な知識と考え方を概ね修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
- C：経営組織論の基本的な知識と考え方について最低限の修得をしており、さらにその仕組みについて説明できている。
- D：経営組織論の基本的な知識と考え方が修得できておらず、さらにその仕組みについての説明ができていない。

成績の評価方法/Grading

8回目に期末試験を行う。

成績評価の割合は、以下の通り。

期末試験：40%

小テスト(6回)：60%

教科書/Textbook(s)

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	経営組織
著者名	金井壽宏
出版社	日本経済新聞社
出版年	
ISBN	
教材費	929

参考書2

書名	組織行動のマネジメント
著者名	スティーブン P. ロビンズ
出版社	ダイヤモンド社
出版年	2009
ISBN	
教材費	3024

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	◎
課題解決能力	○
コミュニケーション力	△
実践的英語力	△
社会人としての姿勢	△
地域活性化志向	△

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供	<input type="radio"/>	受講条件等	
--------	-----------------------	-------	--

時間割コード	KB8363	ナンバリング	KB-GHS-131-COE	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	金3	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	T A	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2020年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	公共社会				
担当教員（ローマ字表記）	小磯 重隆				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

仕事を考える

授業の概要/Course Overview

社会や職業について視野を広め自分の将来と大学時代の在り方について考えてみる機会とする。地域職業人を迎えてキャリアを考える。県内企業等での短期インターンシップをとおして、今後の職業選択や大学での勉学の在り方、さらに地方創生について考えていくことをねらいとする。

キーワード/Keyword(s)

職業観、インターンシップ、キャリア形成、社会人基礎力、地域協創人材

到達目標/Learning Objectives

授業で取り上げた職業や業界の理解をとおして社会の動向に興味関心を持つとともに、働くイメージを持ってそれに向かって必要なことを理解し、専門科目の学修につなぐことができる。また、地域の課題を知り、働くことの社会的役割を自覚することができる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

第1回 シラバスを用いたガイダンスと導入

授業の概要、進め方、スケジュールの説明

大学生がキャリアを考えることの意味

データからみる私たちの働き方

第2回 「働くルール」を知る、雇用の多様化、働く意義、正社員/非正社員

茨城県で働くことの意義を考える

第3回 キャリア理論、自己分析、こだわる労働条件を考える

大学生活での目標や行動計画、学びの動機づけ、キャリアプランニング

第4回 地域の多様な職業について知る①（外部講師）

職業人の話を直に聞く、インターンシップの事前準備

第5回 地域の多様な職業について知る②（外部講師）

職業人の話を直に聞く、インターンシップの事前準備

第6回 業界・企業研究①

広い地域で企業を探してみる（大企業、グローバル企業）

第7回 業界・企業研究②

地元企業を探してみる（県内企業、県内誘致企業）

第8回 まとめ、試験

地域の職業人を招いて、職業観・勤労観、業界概説、キャリア形成の道程について講義をしていただき、働くことの意味を考えていく内容を含みます。

【授業外学修】

- (1) 職業人の講話に先立ち、事前に職業や地域社会について調べておくことが求められます
- (2) 多様な職業について業界や企業を調べ、自己分析し、自らのキャリアを構想します。
- (3) 短期インターンシップを主体的に考え、計画します。それに必要な事を調べ、検討します。

【アクティブラーニング】

- (1) グループディスカッション等を通じて他学生の価値観に触れ、自己分析に役立てます。
- (2) ミニレポートを通じて自分の考えを整理してプレゼンテーションします。

履修上の注意/Notes

短期インターンシップ参加を推奨しています。主体的に自ら企業や官公庁を探すことを求めます。

情報端末の活用

成績評価基準/Evaluation criteria

- A+ : 仕事と社会の基本的な知識と考え方を十分に修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
A : 仕事と社会の基本的な知識と考え方を修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
B : 仕事と社会の基本的な知識と考え方を概ね修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
C : 仕事と社会の基本的な知識と考え方について最低限の修得をしており、さらにその仕組みについて説明できている。
D : 仕事と社会の基本的な知識と考え方が修得できておらず、さらにその仕組みについての説明ができていない。

成績の評価方法/Grading

成績評価は平常評価（授業への積極的参加及びミニレポート等）70%、期末試験30%を合算して総合評価します。

教科書/Textbook(s)

備考	教科書は使用しない。 適宜資料を配布する。
----	--------------------------

参考書/Reference Book(s)

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	△
専門分野の学力	△
課題解決能力	○
コミュニケーション力	○
実践的英語力	
社会人としての姿勢	◎
地域活性化志向	◎

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

--

地域志向科目

○

使用言語

日本語のみ

実務経験のある教員による授業科目

「職業人を迎えてキャリアを考える」を授業内容に含む。地域職業人を招き、実務経験を有しているゲスト講師から、学生が直接話しを聞ける機会を設けている。

実践的教育から構成される授業科目

「インターンシップを体験する」を推奨している。短期インターンシップ等を目的に企業等を探し、体験することを求める教育内容を含んでいる。
--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供	受講条件等

時間割コード	KB8364	ナンバリング	KB-GHS-131	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	金3	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	T A	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2020年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	公共社会				
担当教員（ローマ字表記）	野中 美津枝				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

消費者の自立

授業の概要/Course Overview

消費者保護から消費者の自立へと消費者法が転換している今日、消費者問題、契約についての知識と対処法を学び、消費生活における問題解決能力を養う。消費者問題の事例から、消費者行動の問題点を認識し、消費者の自立の必要性と消費者法の現実を学ぶ。後半の事例検討の発表・討論では、グループで事例の問題点を分析し、問題解決方法を実践的に学ぶ。

キーワード/Keyword(s)

消費者問題、消費者法、消費者契約、金銭管理、消費者行動

到達目標/Learning Objectives

- 1) 現代の消費者問題から、金銭管理の必要性を自覚し、契約と消費者法を理解して、対処法を考えることができる。
- 2) 事例検討では、グループで消費者問題のを分析して、手口や心理、問題解決方法を発表できる。
- 3) 「消費者の自立」について自分の考えを持ち、消費者行動を説明できる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

第1回：ガイダンス、消費者問題

（クイズ形式でグループディスカッション）消費者問題と被害状況について、グループで考える。

第2回：契約の意味、未成年の契約

（ケーススタディ、ライティング・ディスカッション）消費者問題の事例について、どう対処するか考え話し合う。

第3回：クレジット契約、消費者信用

（ケーススタディ、ライティング・ディスカッション）消費者問題の事例について、どう対処するか考え話し合う。

第4回：悪質商法、特定商取引法

（ケーススタディ、ライティング・ディスカッション）消費者問題の事例について、どう対処するか考え話し合う。

第5回悪質商法の分析

（ケーススタディ、KJ法）消費者問題の事例のビデオを視聴して、ケースの手口と心理を分析して図解化する。

第6回事例検討の発表の準備

（PBL、ソシオドラマ）グループで担当した消費者問題の事例を分析して、ソシオドラマを作成し、発表の準備をする。

第7回：事例検討の発表、討論

（PBL、ソシオドラマ）グループで担当した消費者問題の事例を演じ、問題点を分析して問題解決方法を発表する。

第8回：事例検討の発表、討論、まとめ

（PBL、ソシオドラマ）グループで担当した消費者問題の事例を演じ、問題点を分析して問題解決方法を発表する。

【授業外学修】

第1回～第4回は、消費者問題の事例と消費者法について復習し、問題解決策を確認して次回の授業に生かす。第5回は、グループで課題解決

したケースの手口と心理の図解化から、個人で分析を深めてレポートを完成させる。第6回～第8回の事例検討の発表では、グループで担当した消費者問題を、協力して事例を分析してソシオドラマ、問題点、問題解決策を検討し、発表準備をするとともに、グループで最終課題レポートにまとめる。さらに、「消費者の自立」について、最終の個人課題レポートに取り組む。

履修上の注意/Notes

原則として遅刻は認めない。授業中の私語を禁じる。ただし、グループ討論、ワークショップには積極的に参加し、自分の意見を表現するスキルを身につけるようにする。

オフィスアワー：木曜日2限

情報端末の活用

第6～第8回は、グループで担当した消費者問題の分析、発表準備の作業、発表をするため、PCを持参して活用するとよい。

成績評価基準/Evaluation criteria

- A+：到達目標の3点について極めて高いレベルで達成されている。
- A：到達目標の3点について高いレベル以上で達成されている。
- B：到達目標の3点についておおむねレベル以上で達成されている。
- C：到達目標の3点について最低限のレベル以上で達成されている。
- D：到達目標の3点のうち1点以上について全く達成されていない。

成績の評価方法/Grading

授業時に毎回提出するワーク課題の内容およびグループワークへの貢献度40点、グループでのプレゼンテーション20点、最終課題レポート（グループ課題、個人課題）40点で成績を評価する。

期末試験は行わない。

教科書/Textbook(s)

備考	教科書は用いず、資料プリントを配布する。
----	----------------------

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	新しい消費者教育－これからの消費生活を考える－
著者名	日本消費者教育学会関東支部監修
出版社	慶應義塾大学出版会
出版年	
ISBN	978-4-7664-2633
教材費	

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	
専門分野の学力	
課題解決能力	◎

コミュニケーション力	○
実践的英語力	
社会人としての姿勢	◎
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

--

地域志向科目

--

使用言語

日本語のみ

実務経験のある教員による授業科目

消費生活アドバイザーの資格を持ち、企業で消費者相談の実務経験がある教員が、その経験を活かして、消費者教育を行う。
--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB8365	ナンバリング	KB-GHS-131	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	月4	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	L P S	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2020年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	公共社会				
担当教員（ローマ字表記）	富江 直子				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

社会学の視点B

授業の概要/Course Overview

<p>私たちが取り巻くさまざまな事象を、人々のかかわりのなかで社会的に形成されていくものとして見てみましょう。今あるものは自明でも絶対でなく、人々の相互作用によって作られたものと捉え、相対化していくことで、多様な世界の可能性が想像できるようになってきます。社会によって作られたものなら、社会によって変えていけると考えられるようになってくるでしょう。</p>
--

キーワード/Keyword(s)

社会、集団、組織、地域、国家、家族、ジェンダー、階級・階層

到達目標/Learning Objectives

<ul style="list-style-type: none"> ・社会学各分野の基礎的な知識を身につける。 ・社会学の視点から身近な社会事象を多面的に分析、考察できる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

<ol style="list-style-type: none"> 1 シラバスを用いたガイダンス、社会学の視点 2 集団と組織の理論 3 地域をめぐって 4 国家をめぐって 5 家族をめぐって 6 ジェンダーの社会学 7 階級・階層の社会学 8 まとめ（45分）と試験（45分） <p>【授業外学修】</p> <p>(1)生活のなかで、面白いと思うこと、疑問に思うことなどをいろいろ見つけておくことが予習につながります。</p> <p>(2)授業の復習は、授業で配付する資料と、各自が作ったノートなどで行って下さい。復習には社会学の事典や入門書なども活用してください。</p> <p>(3)各自の関心のあるテーマについては、図書館などで文献を探して学習を深めてください。授業のなかで紹介する参考文献などを使っていたくのもよいと思います。</p> <p>(4)授業で学んだ社会学の枠組みを用いて、日常生活のなかの身近な事象を見直してみることも大事な学びになります。ぜひ周りの人という話してみてください。</p> <p>【アクティブ・ラーニング】</p> <p>授業の中で、各テーマに関するミニレポートを書いていただきます（数回実施）。</p>
--

履修上の注意/Notes

オフィスアワーは火曜日の昼休みです。
やむを得ない事情がないかぎり、遅刻しないように気をつけてください。

情報端末の活用

成績評価基準/Evaluation criteria

A+ : 90点以上100点	到達目標を十分に達成し、きわめて優れた学修成果を上げている。
A : 80点以上90点未満	到達目標を達成し、優れた学修成果を上げている。
B : 70点以上80点未満	到達目標と学修成果を概ね達成している。
C : 60点以上70点未満	合格と認められる最低限の到達目標に届いている。
D : 60点未満	到達目標に届いておらず、再履修が必要である。

成績の評価方法/Grading

期末試験 : 100%

教科書/Textbook(s)

備考	教科書は使わず、レジュメを配布します。
----	---------------------

参考書/Reference Book(s)

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	○
専門分野の学力	◎
課題解決能力	△
コミュニケーション力	△
実践的英語力	
社会人としての姿勢	○
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

地域志向科目

--

使用言語

日本語

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB8366	ナンバリング	KB-GHS-131-COE	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	金3	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	T A	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2020年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	公共社会				
担当教員（ローマ字表記）	古山 均				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

大学生と消費生活

授業の概要/Course Overview

大学生活とその後の社会生活において、安全で安心した消費生活を送るための基本的な知識について、ゲストスピーカーをお招きしながら概観します。「自立」した消費者になるために、消費者トラブルと関連する法律、ライフプランと保険、食育と栄養を中心に学習していきます。親元を離れて1人暮らしを始めた学生さんはもちろん、すべての学生さんに必要な消費生活のノウハウを伝授し、「消費者力」を養成していきます。

キーワード/Keyword(s)

消費生活、消費者力、消費者トラブルへ、契約、ライフプラン、お金との付き合い方、セーフティネット、地産地消、食育、消費者の権利と義務

到達目標/Learning Objectives

- (1) 消費者トラブルを回避し解決するための契約についての基礎知識を身につける。
- (2) ライフプランを貯蓄や保険の点から設計するための基礎知識を身につける。
- (3) 安全で安心な食生活のための栄養などの基礎知識を身につける。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- 第1回：【授業内容】消費生活と消費者力、ガイダンス
【授業外学修】授業の内容に基づき、自分の消費生活の課題について考えておく。
- 第2回：【授業内容】消費者トラブルと法律（1）消費者トラブルと対処法（消費生活センター相談員）
【授業外学修】授業内容に基づき、自分が関連した消費者トラブルにつき考えておく。
- 第3回：【授業内容】消費者トラブルと法律（2）契約の基本（消費生活センター相談員）
【授業外学修】小レポートをまとめて次回に提出する。
- 第4回：【授業内容】ライフプランと保険（1）ライフプランと三大資金（ファイナンシャルプランナー）
【授業外学修】授業内容に基づき、自分の金銭面でのライフプランを立ててみる。。
- 第5回：【授業内容】ライフプランと保険（2）貯蓄・保険・セーフティネット（ファイナンシャルプランナー）
【授業外学修】小レポートをまとめて次回に提出する。
- 第6回：【授業内容】食育（1）若者の食生活（管理栄養士）
【授業外学修】授業内容に基づき、自分の食生活診断をしてみる。
- 第7回：【授業内容】食育（2）和食と地産地消（農業協同組合・生活協同組合職員）
【授業外学修】小レポートをまとめて次回に提出する。
- 第8回：【授業内容】消費者の権利と義務、まとめ
【授業外学修】最終レポートをまとめて提出する。

【アクティブ・ラーニング】

第2回～第7回では、グループなどによるディスカッションを行う。

履修上の注意/Notes

- (1) 自分の消費生活を改善するという実践的な目標意識をもって講義に臨んでください。トラブル、金銭管理、食事の問題は他人事ではありません。
- (2) ディスカッションでは積極的に発言してください。他者の考えもきちんと受け止めるようにしてください。
- (3) 遅刻すると、その回の授業全体を理解するのが難しくなります。開始時間は守るようにしてください

情報端末の活用

成績評価基準/Evaluation criteria

- A+ : 小レポートと最終レポートをきわめてすぐれた内容で提出し、授業中のディスカッションなどにも積極的に参加している。
- A : 小レポートと最終レポートをすぐれた内容で提出し、授業中のディスカッションなどにも積極的に参加している。
- B : 小レポートと最終レポートをすぐれた内容で提出し、授業中のディスカッションなどにも参加している。
- C : 小レポートと最終レポートを提出し、授業中のディスカッションなどにも参加している。
- D : 小レポートや最終レポートを提出していない。

成績の評価方法/Grading

最終レポート：60点/小レポート：20点/ディスカッションなどへの参加：20点

教科書/Textbook(s)

備考 とくにありません。資料をプリントして配布します。講義期間中はきちんと保管しておいてください。

参考書/Reference Book(s)

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	△
専門分野の学力	
課題解決能力	◎
コミュニケーション力	◎
実践的英語力	
社会人としての姿勢	◎
地域活性化志向	○

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

--

地域志向科目

○

使用言語

日本語のみ

実務経験のある教員による授業科目

法律、保険、食育など、消費生活に関する専門的知識を有する者が、オムニバス形式により、その経験を活かして、「消費者力」を養成する。
--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供	受講条件等

時間割コード	KB8367	ナンバリング	KB-GHS-132-GEP	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	金3	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	T A	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2020年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	グローバル・スタディーズ				
担当教員（ローマ字表記）	木村 昌孝				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

Critical Issues of International Relations

授業の概要/Course Overview

This course prepares students to analyze and understand important international and global problems by applying basic concepts and major theories of International Relations. For this purpose, the course takes up, among others, the issues of peace and security, international political economy, institutionalization of international relations, global problems and world governance, and power in international politics.

キーワード/Keyword(s)

power, peace and security, international political economy, institutionalization of international relations, global problems, world governance, regimes

到達目標/Learning Objectives

Students will be able to apply basic concepts and major theories of International Relations to analyze and understand important international and global problems.

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

1. Introduction: a summary of basic concepts and major theories of International Relations.
 2. Power in international politics: hard power and soft power.
 3. Peace and security: self-defense, balance of power, alliance, collective security, security community, arms control.
 4. International political economy: globalization, free trade, protectionism, foreign direct investment, global capital, labor migration.
 5. Institutionalization of international relations: international law, international organizations.
 6. Global issues and world governance (1); regimes and provision of international public goods.
 7. Global issues and world governance (2): specific issues.
 8. Wrap-up: review of topics covered and prospects of the future. Term examination.
- (Outside of class and active learning) It is important to relate the contents of this course to the concrete events which are taking place in the current international scene. Students who have difficulty understanding English well are encouraged to check Japanese translation of the technical terms provided above and make use of Japanese reading materials related to each topic in advance of each lecture.

履修上の注意/Notes

It is desirable that students taking this course have taken Basics of International Relations.

Office hour: Since the instructor is not a full-time faculty member, students are advised to contact him after the class or via email to get an appointment when consultation is necessary.

情報端末の活用

--

成績評価基準/Evaluation criteria

A+ : Ability to critically analyze international and global problems utilizing the basic concepts and major theories of International Relations is demonstrated.

A : A sufficient level of ability to analyze international and global problems utilizing the basic concepts and major theories of International Relations is demonstrated.

B : A certain level of ability to analyze international and global problems utilizing the basic concepts and major theories of International Relations is demonstrated.

C : The minimum level of ability to analyze international and global problems utilizing the basic concepts and major theories of International Relations is demonstrated.

D : Even the minimum level of ability to analyze international and global problems utilizing the basic concepts and major theories of International Relations is not achieved. The minimum requirement of two-thirds class attendance is not satisfied.

成績の評価方法/Grading

A term examination will be used for grading.

教科書/Textbook(s)

備考	No textbook is used.
----	----------------------

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	The globalization of world politics : an introduction to international relations
著者名	John Baylis, Steve Smith, Patricia Owens
出版社	Oxford University Press
出版年	2017
ISBN	9780198739852
教材費	

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	○
課題解決能力	△
コミュニケーション力	○
実践的英語力	◎
社会人としての姿勢	△

地域活性化志向	
---------	--

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

--

地域志向科目

--

使用言語

English only

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB8368	ナンバリング	KB-GHS-131	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	金3	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	TA	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2020年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	公共社会				
担当教員（ローマ字表記）	篠嶋 妥				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

生命保険を考える（生命保険協会提供講座）

授業の概要/Course Overview

この授業では、まずは、日本の公的保障（社会保障制度）について概観する。

その理解の上に立ち、少子・高齢化社会の一層の進展等により表面化している社会保障制度の諸課題を背景に、私的保障（生命保険）の意義、自助努力の必要性・有効性等について理解し、考察を深めて行く。

また、生活の様々な局面に潜むリスクについて理解し、リスクを回避・抑制する手段の一つである生命保険の仕組・役割等について学ぶことを通じて、持続可能な社会を営む一員として、また、消費者として、役に立つ知識・考え方の習得を目指す。

以上の内容について、実務家（後述）が講師となり、経験談や最新情報も随所に織り込み、理論と実践とのバランスに配慮して講義を行う。

この授業を通じて、それぞれの人生について考え、成長する契機として頂きたい。

キーワード/Keyword(s)

社会保障と生命保険、公的保障と私的保障、公助と自助（努力）、生活設計とリスク管理

到達目標/Learning Objectives

1. 社会保障制度の概要やその主な保障内容を理解し、説明することができる。
2. 現代生活に潜むリスク、生命保険の意義・役割、基本的な仕組等を理解し、説明することができる。
3. 大学生として、公的保障と私的保障のあるべき姿等について、自分なりの考察を加えて整理し、説明することができる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- 第1回 オリエンテーション・総論（私達を取り巻く環境、公私の生活保障、生命保険の歴史等）
（担当：（一社）生命保険協会 茨城県事務局長 小島浩治）
- 第2回 生活設計とリスク管理（ライフサイクルの変化、生活設計・リスクとは？等）
（担当：同協会 調査部シニアアドバイザー 瀬戸信之）
- 第3回 公的保障と生命保険（死亡・医療・老後・介護それぞれのリスクへの備え）
（担当：小島）
- 第4回 生命保険契約の仕組（消費者保護の視点も考慮したサービス設計を含む）
（担当：同協会 調査部長 白岩 剛）
- 第5回 生命保険商品の変遷・動向（社会構造・ニーズ等の変化に応じた過去・近年・今後の動向）
（担当：同協会 副会長 小林 研一）
- 第6回 震災時の生命保険業界の対応（東日本大震災を中心に、生活再建に向けた貢献・支援等）
（担当：小島）
- 第7回 グループディスカッション（担当：小島）
- 第8回 総括（担当：小島） 45分
期末試験（担当：小島） 45分

※受講生の理解度・講義の進み具合に応じて、①. 内容・順番を見直す場合があり得る、②. 上記の他、「生命保険と税金（親族・相続等の関係知識を含む）」等のテーマを予定している。

【授業外学修】

(1)ポータルシステムを通じて、毎回事前に配信する授業資料（主に講師がパワーポイントで作成・整理したもの）に目を通しておくことが望ましい。

(2)少子・高齢化の進展を踏まえた社会保障制度の改革状況等について、メディア等を通じて情報収集し、自分なりの課題意識・意見を持って臨むと、より講義が理解できるようになると考える。

【アクティブ・ラーニング】

(1)毎回の授業終了時に、レスポンスシート（A4サイズ1枚程度）を配布し、提出してもらう予定。

（例：授業内容の理解度確認として的小テスト、設定したテーマに関する意見の論述など）

(2)授業の中で、それまでの学修内容を踏まえたテーマについて、課題分析・解決策等を議論し、提言をまとめるグループディスカッションを予定している。

履修上の注意/Notes

(1)前述のポータルシステムを通じて、毎回事前に授業資料を配信する。

(2)前述のレスポンスシートの中で、その回の授業についての感想・気づきも書いてもらうことを予定しているが、直接質問等は、講義後に時間を取り対応する。

情報端末の活用

活用予定なし

成績評価基準/Evaluation criteria

A+：到達目標の3点について極めて高いレベルで達成されている

A：到達目標の3点について高いレベル以上で達成されている

B：到達目標の3点についておおむね以上のレベルで達成されている

C：到達目標の3点について最低限のレベル以上において達成されている

D：到達目標の3点のうち1点以上について全く達成されていない

成績の評価方法/Grading

到達目標の3点について、レスポンスシートの内容30%、期末試験の得点70%で成績を評価する。

教科書/Textbook(s)

備考	特になし
----	------

参考書/Reference Book(s)

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	
専門分野の学力	○
課題解決能力	△

コミュニケーション力	
実践的英語力	
社会人としての姿勢	◎
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

実務経験のある教員による授業科目

一般社団法人 生命保険協会の提供講座として、同協会役職員（※）によるオムニバス形式である。
 （※）生命保険会社の役員・管理職等を歴任し、生命保険事業について豊富な知識・経験等を有する
 ただし、授業内容の一貫性を保つため、同協会・茨城県事務局長がメインスピーカーとして、全ての回を担当する。その立会のもとで、第2・4・5回は、同協会・本部（東京）の役職員がゲストスピーカーとして担当予定である。

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供	×	受講条件等	
--------	---	-------	--

時間割コード	KB8371	ナンバリング	KB-GHS-131-COE	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	火5	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	T	対象年次	2年次～4年次		
開講年度	2020年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	公共社会				
担当教員（ローマ字表記）	小磯 重隆				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

キャリアデザイン論

授業の概要/Course Overview

何のために働くのか、職業という働き方を知り、自らのキャリアをデザインして、自分の進路を歩むための方法を学びます。自分の将来への適切な展望と職業意識を持てるように学びます。また社会人になった後のキャリア形成の進め方を学びます。

キーワード/Keyword(s)

キャリア形成、職業観、職業の適性

到達目標/Learning Objectives

自分の将来への展望、キャリア形成を考える方法を身に付けること。
自分の考えをまとめ、示すことができること。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- 何のために働くのか
働く目的と意味、働くことの意義を深く掘り下げる
生き方と働き方のつながり
学生時代にしなければならないこと
- 職業という働き方
労働・仕事・職業、職業の現代的意味
求められる4つの職業能力
- キャリア・デザイン
多様な働き方、正社員－非正社員、派遣労働、契約社員
ワークライフバランス、職業能力とキャリア形成
キャリアについて考える
 - スーパー (D.E.Super) の「職業適合性」
 - ホランド (J.L.Holland) の六角形「V P I 職業興味検査」
 - シャイン (E.H.Schein) の「キャリア・アンカー」
 - クランボルツ (J.D.Krumboltz) の「計画された偶発性理論」
- 社会人になった後のキャリア形成
入社直後のキャリア危機（リアリティショック）
入社3年後離職率を考える

自立的職業人に向けて

【授業外学修】

- (1) いくつかのキャリア論を理解し、自分の将来への適切な展望を考えて行動することを求めます。
- (2) 多様な職業について業界や企業を調べ、自己分析し、自らのキャリアを構想します。
- (3) インターンシップ等を主体的に考え、計画します。それに必要な事を調べ、検討します。

【アクティブラーニング】

- (1) グループディスカッション等を通じて他学生の価値観に触れ、自己分析に役立てます。
- (2) ミニレポートを通じて自分の考えを整理してプレゼンテーションします

履修上の注意/Notes

講義の他、グループワークでの演習を行います。

情報端末の活用

成績評価基準/Evaluation criteria

- A+ : キャリアデザインの基本的な知識と考え方を十分に修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
- A : キャリアデザインの基本的な知識と考え方を修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
- B : キャリアデザインの基本的な知識と考え方を概ね修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
- C : キャリアデザインの基本的な知識と考え方について最低限の修得をしており、さらにその仕組みについて説明できている。
- D : キャリアデザインの基本的な知識と考え方が修得できておらず、さらにその仕組みについての説明ができていない。

成績の評価方法/Grading

平常評価70%（授業への積極的参加及び平常ミニレポート等）、期末試験30%を合算して総合評価します。

教科書/Textbook(s)

備考	教科書は使用しません。 適宜資料を配布します。
----	----------------------------

参考書/Reference Book(s)

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	△
専門分野の学力	△
課題解決能力	○
コミュニケーション力	○
実践的英語力	
社会人としての姿勢	◎
地域活性化志向	◎

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

○

地域志向科目

○

使用言語

日本語のみ

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

iOP等の学外学修について主体的に考え、計画します。それに必要な事を調べ、検討することを求めます。

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供	受講条件等
--------	-------

時間割コード	KB8372	ナンバリング	KB-GHS-111	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	火5	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	T	対象年次	2年次～4年次		
開講年度	2020年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	経済・経営				
担当教員（ローマ字表記）	石垣 建志				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

経済学入門（合理的な意思決定）

授業の概要/Course Overview

経済学は現代社会を生きるための常識です。経済学の正しい考え方を身につけましょう。
 経済学の基礎をわかりやすく教えます。
 基礎といっても、現実とかけはなれた議論ではなく、実際の世の中の仕組みを理解することができる、実用的な経済学です。

キーワード/Keyword(s)

ミクロ経済学, サंकコスト, 割引現在価値, リスク, 比較優位, パレート効率, 需要と供給

到達目標/Learning Objectives

サंकコスト, 割引現在価値, リスク, 比較優位, パレート効率, 需要と供給などミクロ経済学の基礎的概念を理解する。
 このことを通じて合理的な意思決定を理解する。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

1. シラバスを用いたガイダンス
2. サंकコストの呪
3. 割引現在価値で比較する
4. 交換のメリット
5. パレート効率とは何か
6. 需要と供給
7. 税金と負担
8. 復習と期末試験

【授業外学修】

講義資料は教務情報ポータルシステムにアップするので、必ず授業前に読んで、分からない用語などは、あらかじめ調べておくこと。

履修上の注意/Notes

オフィス・アワーは木曜3時限です。
 試験は、授業内容から出題します。

情報端末の活用

・講義資料は教務情報ポータルシステムで事前配信するので、毎回の授業時にはP Cを持参すること。

・課題レポートについては、教務情報ポータルシステムを通じて提出すること。

成績評価基準/Evaluation criteria

- A+：本授業の範囲内のミクロ経済学の基礎的概念を十分に修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
A：本授業の範囲内のミクロ経済学の基礎的概念を修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
B：本授業の範囲内のミクロ経済学の基礎的概念を概ね修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
C：本授業の範囲内のミクロ経済学の基礎的概念について最低限の修得をしており、さらにその仕組みについて説明できている。
D：本授業の範囲内のミクロ経済学の基礎的概念が修得できておらず、さらにその仕組みについての説明ができていない。

成績の評価方法/Grading

レポートの提出（20%）と期末試験（80%）による。

教科書/Textbook(s)

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	この世で一番おもしろいミクロ経済学：誰もが「合理的な人間」になれるかもしれない16講
著者名	ヨラム・パウマン 著
出版社	ダイヤモンド社
出版年	2011
ISBN	4478013241
教材費	1500

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	○
専門分野の学力	◎
課題解決能力	○
コミュニケーション力	△
実践的英語力	
社会人としての姿勢	
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

--

PBL科目

--

地域志向科目

--

使用言語

日本語のみ

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供	<input type="radio"/>	受講条件等	
--------	-----------------------	-------	--

時間割コード	KB8373	ナンバリング	KB-GHS-111	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	火5	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	T	対象年次	2年次～4年次		
開講年度	2020年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	法律・政治				
担当教員（ローマ字表記）	馬渡 剛				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

日本の政治

授業の概要/Course Overview

本講義では、政治とは何かという基礎的なテーマから、日本の国会や我々にとって身近な存在である地方自治体では、日々、何が行われているのかというトピックスまで幅広く解説する。またその時々ニュースや時事問題も積極的に取り上げながら、政治の仕組みについて説明する。

キーワード/Keyword(s)

政治、行政、制度、財政、防災

到達目標/Learning Objectives

第一に、政治の仕組みや基礎概念を説明できること、第二に、国政や地方政治を理解する上で重要な諸制度（議院内閣制、二元代表制、選挙制度など）の説明ができることを目標とする。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- 第1回：【授業内容】シラバスを用いたガイダンス
【授業外学修】高校の時に用いた政治経済に関する教科書に目を通しておくこと。
- 第2回：【授業内容】政治とは何か
【授業外学修】高校の時に用いた政治経済に関する教科書に目を通しておくこと。
- 第3回：【授業内容】議院内閣制 vs. 大統領制 どちらが望ましい？
【授業外学修】執政制度についてあらかじめ調べておくこと。
- 第4回：【授業内容】なぜ日本の首相はすぐに交代するのか
【授業外学修】戦後日本の首相一覧をあらかじめ調べておくこと。
- 第5回：【授業内容】ポピュリズムについて考える
【授業外学修】事前に紹介する参考文献に目を通しておくこと。
- 第6回：【授業内容】職業としての政治家・公務員
【授業外学修】全国紙の政治面に目を通しておくこと。
- 第7回：【授業内容】なぜ消費税は上がるのか
【授業外学修】わが国の財政について事前に財務省のホームページを参照しておくこと。
- 第8回：【授業内容】若者が選挙に行かないとどのような不利益があるのか
【授業外学修】投票率について事前に総務省のホームページを参照しておくこと。

履修上の注意/Notes

講義開始後、30分以上の遅刻は欠席として扱う。オフィス・アワーは火曜日の昼休み。シラバスの順番通りに講義していく予定だが、場合によって（その時々政治・経済・社会状況によって）変更されることもある。

情報端末の活用

活用しない。

成績評価基準/Evaluation criteria

- A + : 政治の基本的な知識と考え方を十分に修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
A : 政治の基本的な知識と考え方を修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
B : 政治の基本的な知識と考え方を概ね修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
C : 政治の基本的な知識と考え方について最低限の修得をしており、さらにその仕組みについて説明できている。
D : 政治の基本的な知識と考え方が修得できておらず、さらにその仕組みについての説明ができていない。

成績の評価方法/Grading

期末試験を行う。世界の俯瞰する知識に関して50%（評価の観点には到達目標の①）、専門分野の知識や思考力に関して50%（評価の観点には到達目標の②）。

教科書/Textbook(s)

備考	教科書は用いない。 参考書：伊藤光利編『ポリティカル・サイエンス事始め』有斐閣、2003年、1995円。北山俊哉他『はじめて出会う政治学』有斐閣、2009年、1890円。馬渡剛『戦後日本の地方議会』ミネルヴァ書房、2010年、7350円。
----	--

参考書/Reference Book(s)

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	
専門分野の学力	○
課題解決能力	○
コミュニケーション力	○
実践的英語力	
社会人としての姿勢	○
地域活性化志向	◎

アクティブ・ラーニング型科目

--

PBL科目

--

地域志向科目

--

使用言語

日本語のみ

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB8374	ナンバリング	KB-GHS-111	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	火5	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	T	対象年次	2年次～4年次		
開講年度	2020年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	経済・経営				
担当教員（ローマ字表記）	石垣 建志				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

経済学入門（ゲーム理論）

授業の概要/Course Overview

経済学は現代社会を生きるための常識です。
 経済学の大きな土台となるのが、ゲーム理論です。
 ゲーム理論は、「駆け引き」をあつかう応用数学の一分野です。
 あまり数理的にならない範囲で、しかし標準的な内容の入門レベルのゲーム理論の授業を行います。

キーワード/Keyword(s)

ゲーム理論, 標準形ゲーム, 展開型ゲーム 囚人のジレンマ, 進化ゲーム, Nash均衡解, 繰り返しゲーム

到達目標/Learning Objectives

ゲーム理論の基礎的概念を理解し、社会の現象などをゲーム理論を用いて考察できること。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

1. シラバスを用いたガイダンス
2. 標準形ゲーム（囚人のジレンマ）
3. Nash均衡解（混合戦略）
4. 展開形ゲーム
5. 部分ゲーム完全
6. 繰り返しゲーム（割引率, トリガー戦略）
7. 進化ゲーム
8. 復習（45分）と期末試験

【授業外学修】

講義資料は教務情報ポータルシステムにアップするので、必ず授業前に読んで、分からない用語などは、あらかじめ調べておくこと。

履修上の注意/Notes

オフィス・アワーは木曜3時限です。
 試験は、授業内容から出題します。

情報端末の活用

1. 講義資料は教務情報ポータルシステムで事前配信するので、毎回の授業時にはP Cを持参すること。

2.課題レポートについては、教務情報ポータルシステムを通じて提出すること。

成績評価基準/Evaluation criteria

- A+：本授業の範囲内のゲーム理論の基本的な知識と考え方を十分に修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
A：本授業の範囲内のゲーム理論の考え方を修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
B：本授業の範囲内のゲーム理論の考え方を概ね修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
C：本授業の範囲内のゲーム理論の知識と考え方について最低限の修得をしており、さらにその仕組みについて説明できている。
D：本授業の範囲内のゲーム理論の知識と考え方が修得できておらず、さらにその仕組みについての説明ができていない。

成績の評価方法/Grading

レポートの提出（20%）と期末試験（80%）による。

教科書/Textbook(s)

備考	教科書は指定しない。
----	------------

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	戦略的思考の技術：ゲーム理論を実践する
著者名	梶井厚志 著
出版社	中央公論新社
出版年	2002
ISBN	4121016580
教材費	760

参考書2

書名	ゼミナールゲーム理論入門
著者名	渡辺隆裕著
出版社	日本経済新聞出版社
出版年	2008
ISBN	4532133467
教材費	3500

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	◎
課題解決能力	○
コミュニケーション力	△
実践的英語力	
社会人としての姿勢	

地域活性化志向	
---------	--

アクティブ・ラーニング型科目

--

PBL科目

--

地域志向科目

--

使用言語

日本語のみ

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供	<input type="radio"/>	受講条件等	
--------	-----------------------	-------	--

時間割コード	KB8375	ナンバリング	KB-GHS-131	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	月4	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	全学共通	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2020年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	公共社会				
担当教員（ローマ字表記）	佐藤 環				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

みんなの“イバダイ学”

授業の概要/Course Overview

茨城大学の創立70周年記念事業「みんなの“イバダイ学”プロジェクト」（<https://www.ibaraki.ac.jp/ibadaigaku/>）の一環で2019年度に開講した授業。教育の歴史や社会の動き、高等教育に関する現状を踏まえ、将来的な予測を行うなかで、茨城大学のこれからについて議論をし、具体的なアクションを構想・提案することを目指す。

キーワード/Keyword(s)

茨城大学、国立大学、高等教育、教育史、大学と社会、知と社会、地域、雇用、グローバル

到達目標/Learning Objectives

- ・教育の歴史や社会の動きを概観することができ、それらと大学の役割とを結びつけて考えることができる。
- ・大学が置かれている課題を理解し、当事者として解決のためのアイデアを協働して考えることができる。
- ・茨城大学に所属する自己や将来の職業についての理解を深め、その立場を通じて社会に貢献する姿勢を身につける。
- ・大学の活動を通じた地域活性化の可能性を追究し、具体的なアイデアにまとめ、行動できる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

第1回：イバダイ学への招待（講義・議論）：太田

【授業内容】学長による茨城大学がめざすものやイバダイ学プロジェクトの概観を理解し、受講者それぞれがもつ大学のイメージなどについて意見交換を行う。

【授業外学修】茨城大学の現状と将来像について、茨城大学ホームページなどで確認しておく。

第2回：茨城の教育の歴史と大学の役割（講義）：佐藤

【授業内容】国の文教施策と地域の教育需要を概観しながら、茨城大学の成り立ちを理解する。

【授業外学修】茨城大学における各学部の成り立ちについて確認し、社会と大学との関係を説明できる。

第3回：イバダイ学を考える①（講義・議論）：久留主

【授業内容】持続可能な地域づくりにつながる高等教育のあり方と茨城大学の役割について考える。

【授業外学修】持続可能な地域づくりの事例を調査・考察し、茨城大学の役割について考える。

第4回：イバダイ学を考える②（講義・議論）：佐川

【授業内容】世界的な強みとなる研究成果や知の創出へ向けた茨城大学の役割について考える。

【授業外学修】グローバル化について概観し、茨城大学の役割について自らの視座を持つことができる。

第5回～第6回：グループワーク：佐藤

【授業内容】第3・4回で示したテーマに対応したグループを組み、大学の将来に対する提言とそれに向けたアクションプランを考える。

【授業外学修】グループ間のコミュニケーションを図りながら担当を決め、アクションプランのプレゼンテーション（パワーポイント使用）に向けて協働する。

第7回：プレゼンテーション：佐藤

【授業内容】 各グループが、茨城大学の将来に対する提言を行う（プレゼンテーション）。

【授業外学修】 自グループの発表に対して自己評価を行うとともに、改善できることをまとめる。

第8回：茨城大学のビジョンを考える（講義・議論）：佐川、久留須、佐藤

【授業内容】 グループワークにおける成果のプレゼンテーションを基として意見交換を行い、理想の茨城大学を考える。

【授業外学修】 他グループの発表に対して評価を行うとともに、自グループの発表を相対化する。

履修上の注意/Notes

主担当教員の教育学部・佐藤環のオフィスアワー：月曜日 昼休み（11:50～12:40）

情報端末の活用

第2講目から第8講目まで、インターネットを利用した情報探索を行うので、PC、スマートフォン等を持参すること。

成績評価基準/Evaluation criteria

A+：茨城大学の将来ビジョンを提言するための基本的な知識と考え方を十分に修得し、さらにその仕組みについて説明できている。

A：茨城大学の将来ビジョンを提言するための基本的な知識と考え方を修得し、さらにその仕組みについて説明できている。

B：茨城大学の将来ビジョンを提言するための基本的な知識と考え方を概ね修得し、さらにその仕組みについて説明できている。

C：茨城大学の将来ビジョンを提言するための基本的な知識と考え方について最低限の修得をしており、さらにその仕組みについて説明できている。

D：茨城大学の将来ビジョンを提言するための基本的な知識と考え方が修得できておらず、さらにその仕組みについての説明ができていない。

成績の評価方法/Grading

講義中の議論への積極的な参加を求め、下記の基準により成績評価を行う。

- ・テーマ講義毎に行うリアクション・ペーパーの内容（30%）5回×6点
- ・グループワークのプレゼンテーション（第7講）における内容（50%）
- ・最終レポート（20%）紙媒体で提出

教科書/Textbook(s)

備考	教科書は使用しない。
----	------------

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	オックスフォードからの警鐘 - グローバル化時代の大学論
著者名	荻谷剛彦
出版社	中公新書クラレ
出版年	2017
ISBN	978-4121505873
教材費	864

参考書2

書名	世界のエリートが今一番入りたい大学ミネルバ
著者名	山本秀樹

出版社	ダイヤモンド社
出版年	2018
ISBN	978-4478105344
教材費	1944

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	○
専門分野の学力	○
課題解決能力	◎
コミュニケーション力	◎
実践的英語力	△
社会人としての姿勢	○
地域活性化志向	◎

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB8381	ナンバリング	KB-GHS-131	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	木3	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	A	対象年次	2年次～4年次		
開講年度	2020年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	経済・経営				
担当教員（ローマ字表記）	伊丹 一浩				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

フランスの経済と農業—歴史と現状

授業の概要/Course Overview

1.フランスの経済と農業の歴史的背景に関する基本事項の解説。2.グローバル化の進展の中でのフランス農業に関する基本事項の解説。3.グローバル化の進展の中でのフランスにおける食のあり方に関する基本事項の解説。

キーワード/Keyword(s)

フランス、ヨーロッパ、EU、経済、農業、歴史、現状、食文化

到達目標/Learning Objectives

1.フランスの経済と農業の歴史的背景について理解する。2.グローバル化の進展の関連でフランス農業について理解する。3.グローバル化の進展の関連でフランスの食のあり方について理解する。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- 1.シラバスを用いたガイダンスと導入：フランスの概要と特徴
- 2.フランスの経済と農業の歴史的背景（基礎的な文献を題材にしたグループワーク）
- 3.ヨーロッパの統合とフランス農業
- 4.グローバル化の進展と条件不利地域の農業（基礎的な文献を題材にしたグループワーク）
- 5.グローバル化の進展と有機農業の取り組み（基礎的な文献を題材にしたグループワーク）
- 6.フランスにおける食生活の基層と変化
- 7.グローバル化の進展とフランスの食文化
- 8.フランス経済における農業の位置と今後の展望

【授業外学習】

1.概要：授業においてノートを書ける限り詳しくとるようにし、配付資料や参考書とあわせて、丹念に読み返して、十全な復習を行うとともに、その内容の完全な理解をもって次回授業の予習とすること。

2.予習のポイント：次回授業の概要を事前に伝えるようにするので、参考書などで、関連しそうな用語や事柄について調べるなどしておくこと。なお、予習においては、内容を完全に理解する必要はない。わからないことがあってもがっかりすることなく、まずは、とりあえず、目を通すようにすることが重要である。

3.復習のポイント：授業時に詳しくとったノートの復習が中心となる。授業終了後、できるだけ速やかにノートを見返すことが望ましい。もし、可能であれば、周りの学生さんと内容確認、ディスカッション、説明、質疑応答などをすると、理解が深まるであろう。そして、同時に、うまく消化しきれていない点も明らかとなると思われるので、その場合には、配付資料や参考書を、今一度、読み返したり、メール等を利用して、教員に質問をするのがよい。実際、毎年、授業後に質問をする学生さんやメールで質問をする学生さんが、少なからず存在する。

皆さんの勉強のお手伝いをするべく、教員の方でもできるだけ対応したいと考えている。

【アクティブラーニング】

第2回において、フランスの経済と農業の歴史的背景について基礎的な資料を題材にして、グループワークを行う予定である。関連する事項について、資料を読解し、他の授業などの学修で得たものも含めた知識を参考にしながら、学友とディスカッションを重ねた上で、考察をまとめる作業を予定している。ただ単に受動的に講義を聞くだけではなく、関連事項について能動的に学習することで、内容理解を十全なものにしようとの狙いがある。

第4回においては、グローバル化の進展と条件不利地域の農業について、第3回と同様に、基礎的な資料を題材にして、グループワークを行う予定である。これまでに得た関連知識だけではなく、他の授業などの学修で得たものも含めた知識を参考にしながら、そして、必要に応じて、新聞やテレビの報道内容などを参考にしながら、学友とディスカッションを重ねた上で、考察をまとめる作業を予定している。

第5回においては、グローバル化の進展と有機農業の取り組みについて、第3回、第5回と同様に、基礎的な資料を題材にして、グループワークを行う予定である。これまでに得た関連知識だけではなく、他の授業などの学修で得たものも含めた知識を参考にしながら、そして、必要に応じて、新聞やテレビの報道内容などを参考にしながら、学友とディスカッションを重ねた上で、考察をまとめる作業を予定している。

履修上の注意/Notes

オフィス・アワー：木曜日11:50～12:40。

情報端末の活用

成績評価基準/Evaluation criteria

- A + : フランスの経済と農業の基本的な知識と考え方を十分に修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
- A : フランスの経済と農業の基本的な知識と考え方を修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
- B : フランスの経済と農業の基本的な知識と考え方を概ね修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
- C : フランスの経済と農業の基本的な知識と考え方について最低限の修得をしており、さらにその仕組みについて説明できている。
- D : フランスの経済と農業の基本的な知識と考え方が修得できておらず、さらにその仕組みについての説明ができていない。

成績の評価方法/Grading

期末試験とグループワークに関わる提出物による。おおむね60:40の比率で評価する。

教科書/Textbook(s)

備考	特になし
----	------

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	教養としてのフランス近現代史
著者名	杉本淑彦
出版社	ミネルヴァ書房
出版年	2015
ISBN	9784623072712

教材費	
-----	--

参考書2

書名	フランス史2 16世紀～19世紀なかば
著者名	柴田三千雄他著
出版社	山川出版社
出版年	1996
ISBN	9784634461000
教材費	

参考書3

書名	フランス史3 19世紀なかば～現在
著者名	柴田三千雄他著
出版社	山川出版社
出版年	1995
ISBN	9784634461109
教材費	

参考書4

書名	よくわかるフランス近現代史
著者名	剣持久木編
出版社	ミネルヴァ書房
出版年	2018
ISBN	9784623082605
教材費	

参考書5

書名	フランス現代史
著者名	小田中直樹
出版社	岩波新書
出版年	2018
ISBN	9784004317517
教材費	

参考書6

書名	グローバリゼーション ―縮小する世界―
著者名	矢ヶ崎典隆他編
出版社	朝倉書店
出版年	2018
ISBN	9784254168815
教材費	

参考書7

書名	ローカリゼーション ―地域へのこだわり―
著者名	矢ヶ崎典隆他編
出版社	朝倉書店
出版年	2018
ISBN	9784254168822
教材費	

参考書8

書名	世界地誌シリーズ 3 EU
著者名	加賀美雅弘編
出版社	朝倉書店
出版年	2011
ISBN	9784254168570
教材費	

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	
課題解決能力	
コミュニケーション力	
実践的英語力	
社会人としての姿勢	
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB8382	ナンバリング	KB-GHS-131	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	木3	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	A	対象年次	2年次～4年次		
開講年度	2020年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	グローバル・スタディーズ				
担当教員（ローマ字表記）	長澤 淳				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

世界農業の展望

授業の概要/Course Overview

農業は人の営みの影響を受け様々に変化してきた。現在では一国だけで農業を語ることはできない。国家間の影響を受けざるを得ない状況にある。本授業では、World Bank や Food and Agriculture Organization(FAO) が収集管理するデータを用い1960年代以降に焦点を当て、農業がどのように変貌してきたかを以下に述べる項目を取り上げることで理解し、展望を試みる。

キーワード/Keyword(s)

農業、食料、人口、生産、消費、経済

到達目標/Learning Objectives

データを元に農業の現状を理解し、展望を考えることができるようになる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

1. 【授業内容】ガイダンスと農業と食糧生産の概要
2. 【授業内容】人口
3. 【授業内容】経済
4. 【授業内容】取引
5. 【授業内容】生産
6. 【授業内容】消費
7. 【授業内容】食料と経済
8. まとめと期末試験

【授業外学修とアクティブラーニング】授業内容と関連すると思われるニュースなどを2件以上取り上げまとめ、レポートを提出すること。

履修上の注意/Notes

単位を習得している必要はないが、以下の科目の基礎知識を学んでいること。食糧生産、経済、食料流通システム。レポートは、教務ポータルシステムを使って提出すること。電子メールによるレポート提出は不可。

情報端末の活用

講義資料などを電子ファイルで毎回配布する、また授業外の学修で使用するため所持、持参すること。

成績評価基準/Evaluation criteria

最終的に獲得した点数を元に以下のような評価基準により評価する。

A+: 90点以上100点

A: 80点以上90点未満

B: 70点以上80点未満

C: 60点以上70点未満

D: 60点未満

成績の評価方法/Grading

レポート: 情報源を明記しているか、データに基づいて考えを記しているか、他人の主張と自身の主張を明確にわかるような書き方をしているか。

期末試験: 到達目標を達成しているかを問う問題を出す。すなわち、示されたデータと自身の知識と照らし合わせ何を読み取り、それからどのような展望を考えそして伝えることができるかを問う。

最終獲得点数

レポート: 期末試験=4:6

教科書/Textbook(s)

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	世界食料の展望: 21世紀の予測
著者名	D.O. ミッチェル, M.D. インコ, R.C. ダンカン著; 高橋五郎訳
出版社	農林統計協会
出版年	1998
ISBN	978-4541024039
教材費	3000

参考書2

書名	飢餓の世紀: 食糧不足と人口爆発が世界を襲う
著者名	レスター・R・ブラウン, ハル・ケイン著; 小島慶三訳
出版社	ダイヤモンド社
出版年	1995
ISBN	978-4478870426
教材費	2000

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	◎
課題解決能力	◎
コミュニケーション力	○
実践的英語力	

社会人としての姿勢	
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供	○	受講条件等	<p>授業の資料などを電子ファイルで配布するためPCを持参できること。</p> <p>電子メールを利用可能であること。</p> <p>社会人リカレント教育の場合、教務ポータルシステムを使えない可能性があるため、レポートの提出はUSBメモリーなどを使った手渡し、もしくは電子メールで行うことを考えている。</p>
--------	---	-------	---

時間割コード	KB8451	ナンバリング	KB-GHS-111	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	月4	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	LS（法経除く）	対象年次	2年次～4年次		
開講年度	2020年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	日本国憲法				
担当教員（ローマ字表記）	伊藤 純子				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

人権

授業の概要/Course Overview

この講義では、身近な問題や時事問題、歴史などの話も適宜交えながら、日本国憲法に定める人権についての意義と目的を学びます。

キーワード/Keyword(s)

国民主権、立憲主義、法の下での平等、表現の自由、思想・良心の自由、信教の自由、社会権、人身の自由、経済的自由権

到達目標/Learning Objectives

憲法の基本的な考え方と解釈を習得し、日本国憲法に定める人権についての基礎的な知識と理解を身につけることを目標とします。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

授業計画

- 第1回：国民主権と立憲主義
- 第2回：参政権と国務請求権
- 第3回：精神的自由（1）表現の自由
- 第4回：精神的自由（2）思想・良心の自由、信教の自由
- 第5回：精神的自由（3）学問の自由、教育を受ける権利
- 第6回：人身の自由、法の適正手続
- 第7回：人権の共有主体と個人の人権、新しい人権
- 第8回：法の下での平等

期末試験

【授業外学修】

- （1）講義資料は教務情報ポータルシステムにアップするので、必ず授業前に読み、分からない用語などはあらかじめ調べておくこと。
- （2）各授業回で取り扱う内容について、事前にテキストを読んで予習するだけでなく、第2回以降については、参考書「憲法判例百選Ⅰ・Ⅱ」により関連判例について調べておくことが望ましい。

履修上の注意/Notes

教育職員免許上取得希望者は、題目「統治機構」（担当：伊藤）と合わせて2単位を習得すること。

情報端末の活用

無し

成績評価基準/Evaluation criteria

- A+ : 人権の基本的な知識と考え方を十分に修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
A : 人権の基本的な知識と考え方を修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
B : 人権の基本的な知識と考え方を概ね修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
C : 人権の基本的な知識と考え方について最低限の修得をしており、さらにその仕組みについて説明できている。
D : 人権の基本的な知識と考え方が修得できておらず、さらにその仕組みについての説明ができていない。

成績の評価方法/Grading

期末試験の成績で評価します。

教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	教職のための憲法
著者名	志田陽子 編著
出版社	法律文化社
出版年	2017
ISBN	458903865X
教材費	2500

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	憲法 第7版
著者名	芦部信喜
出版社	岩波書店
出版年	
ISBN	4000613227
教材費	

参考書2

書名	憲法判例百選I 第7版 (別冊ジュリスト)
著者名	長谷部恭男他
出版社	有斐閣
出版年	2019
ISBN	4641115451
教材費	2300

参考書3

書名	憲法判例百選II 第7版 (別冊ジュリスト)
----	------------------------

著者名	長谷部恭男他
出版社	有斐閣
出版年	2019
ISBN	464111546X
教材費	

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	◎
課題解決能力	◎
コミュニケーション力	○
実践的英語力	△
社会人としての姿勢	◎
地域活性化志向	○

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB8452	ナンバリング	KB-GHS-111	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	月4	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	LS（法経除く）	対象年次	2年次～4年次		
開講年度	2020年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	日本国憲法				
担当教員（ローマ字表記）	伊藤 純子				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

統治機構

授業の概要/Course Overview

この講義では、身近な問題や時事問題、歴史などの話も適宜交えながら、日本国憲法に定める統治機構の意義と目的、また、第3クォーターで学んだ人権との関係について学んでいきます。

キーワード/Keyword(s)

国民主権、立憲主義、平和主義、立法権、国会、行政権、内閣、司法権、裁判所、違憲審査制、地方自治

到達目標/Learning Objectives

憲法の基本的な考え方や解釈を習得し、日本国憲法に定める統治機構のについての基礎的な知識と理解を身につけることを目標とします。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

第1回：国会の組織と活動
 第2回：行政権と内閣
 第3回：裁判所（1）司法権の意味と範囲
 第4回：裁判所（2）裁判所の組織と権能、司法権の独立
 第5回：違憲審査制
 第6回：財政・地方自治
 第7回：憲法改正と憲法擁護義務
 第8回「平和のうちに生存する権利」と安全保障
 期末試験

【授業外学修】

- （1）講義資料は教務情報ポータルシステムにアップするので、必ず授業前に読み、分からない用語などはあらかじめ調べておくこと。
- （2）各授業回で取り扱う内容について、事前にテキストを読んで予習するだけでなく、第2回以降については、参考書「憲法判例百選Ⅰ・Ⅱ」により関連判例について調べておくことが望ましい。

履修上の注意/Notes

教育職員免許状取得希望者は、題目「人権」（担当：伊藤）と合わせて2単位を修得すること。

情報端末の活用

成績評価基準/Evaluation criteria

- A + : 統治機構の基本的な知識と考え方を十分に修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
 A : 統治機構の基本的な知識と考え方を修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
 B : 統治機構の基本的な知識と考え方を概ね修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
 C : 統治機構の基本的な知識と考え方について最低限の修得をしており、さらにその仕組みについて説明できている。
 D : 統治機構の基本的な知識と考え方が修得できておらず、さらにその仕組みについての説明ができていない。

成績の評価方法/Grading

期末試験の成績で評価します。

教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	教職のための憲法
著者名	志田陽子 編著
出版社	法律文化社
出版年	2017
ISBN	458903865X
教材費	2500

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	憲法 第7版
著者名	芦部信喜
出版社	岩波書店
出版年	
ISBN	4000613227
教材費	

参考書2

書名	憲法判例百選 I 第7版 (別冊ジュリスト)
著者名	長谷部恭男他
出版社	有斐閣
出版年	2019
ISBN	4641115451
教材費	

参考書3

書名	憲法判例百選II 第7版 (別冊ジュリスト)
----	------------------------

著者名	長谷部恭男他
出版社	有斐閣
出版年	2019
ISBN	464111546X
教材費	

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	◎
課題解決能力	◎
コミュニケーション力	○
実践的英語力	△
社会人としての姿勢	◎
地域活性化志向	○

アクティブ・ラーニング型科目

--

PBL科目

--

地域志向科目

--

使用言語

日本語

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB8453	ナンバリング	KB-GHS-131	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	水1	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	P	対象年次	2年次～4年次		
開講年度	2020年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	日本国憲法				
担当教員（ローマ字表記）	中野 雅紀				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

現代人権論 I

授業の概要/Course Overview

日本国憲法の基礎知識と、日本国憲法が成立した歴史的背景および思想・理論を習得することを目的とする。同時に、板書をただ書き写すだけでなく、それを自分のオリジナルなノートとして作成できる、という極めて大学生として基礎的な技術を身に付けてもらう。

キーワード/Keyword(s)

日本国憲法の三大原則、国民主権、基本的人権の尊重、平和主義、憲法改正の限界、社会契約論、国家からの自由、国家による自由、国家への自由

到達目標/Learning Objectives

まず、すべての講義に出席して、その講義内容をノートとして纏められるようにすること(ICプレーヤー等による講義の録音を認める)。また、毎回、講義後に提出してもらおうリアクションペーパーがきちんと書けるようになること。最後に、地方1種試験レベルの試験をパスできる程度の知識を取得すること。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

第1講 ガイダンス

第2講 今年の重要な最高裁判所判例を取り上げ、裁判のプロセス、判決の種類、三審制度などの基本的知識を解説する。

第3講 日本国憲法の三大原則の序列を考えてみよう(パート1)

第4講 日本国憲法の三大原則の序列を考えてみよう(パート2)

第5講 国民主権と権力分立(パート1)

第6講 国民主権と権力分立(パート2)

第7講 平和主義と具体的違憲審査制度(パート1)

第8講 平和主義と具体的違憲審査制度(パート2)、期末試験(論述)

【授業外学修】

予習はいらない。しかし、復習は毎日、最低でも5時間はしてもらいたい。と言うより、ノートを作製し、それに基づいて復習するのだから、最低限、それぐらいの時間は作業を含めて、当然かかるはずである。楽をして単位が来るものではない。また、限られた時間での講義であるから、丁寧な解説を試みるが、当然のことながら舌足らずの解説については講義後の調べ学習をするのは大学生としての義務であり、それなりの自己学習と自己マネジメントは不可欠である。最後に、わたしの見解に従う必要はまったくないが、反対あるいは批判するためには、それなりの根拠が必要である。すなわち、批判的な態度で講義を受けつつ、一生懸命に勉強していただきたい。新聞を読んだり、ニュースを視聴するのも勉強になる。書籍は中央図書館にあり、判例は最高裁判所のHPで観ることができるのだから、それらを駆使してもらいたい。

【アクティブ・ラーニング】

毎回の授業で、リアクションペーパーの提出を求める

履修上の注意/Notes

おそらくは抽選によって履修が認められるのだから、途中で止めることは非常識である。オフィス・アワーは月曜日2-3。試験前には、質問コーナーを設けるので積極的に活用すること。教育実習には、配慮するがそれが免罪符になるわけではない。

情報端末の活用

成績評価基準/Evaluation criteria

A+ : 90点以上100点	到達目標を十分に達成し、きわめて優れた学修成果を上げている。
A : 80点以上90点未満	到達目標を達成し、優れた学修成果を上げている。
B : 70点以上80点未満	到達目標と学修成果を概ね達成している。
C : 60点以上70点未満	合格と認められる最低限の到達目標に届いている。
D : 60点未満	到達目標に届いておらず、再履修が必要である。

成績の評価方法/Grading

まず、出欠とリアクションペーパーで、ノート提出の採点の許可・不許可を決める。したがって、形式審査として100%。

上記要件を満たしている場合、内容審査としての論述式期末試験を受験してもらう。そこでは、出題内容への適切な解答がなされていることが大切であるが、併せて解答用紙の表面を全部埋めているか、起承転結のしっかりした論文構成がなされているかが評価される。これが、100%である。

教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	憲法判例百選I 第7版 (別冊ジュリスト)
著者名	長谷部 恭男 (編集), 石川 健治 (編集), 穴戸 常寿 (編集)
出版社	有斐閣
出版年	2019
ISBN	9784641115453
教材費	2300

教科書2

書名	憲法判例百選II 第7版 (別冊ジュリスト)
著者名	長谷部 恭男 (編集), 石川 健治 (編集), 穴戸 常寿 (編集)
出版社	有斐閣
出版年	2019
ISBN	9784641115460
教材費	2300

備考 時宜に応じて、レジユメを配布する。受講者数しか印刷しないので、配布された資料は一人一部を守ってください。

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	18歳から考える人権
著者名	穴戸常寿 編
出版社	法律文化社
出版年	2015
ISBN	9784589037121
教材費	2300

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	<input type="radio"/>
専門分野の学力	<input type="radio"/>
課題解決能力	
コミュニケーション力	
実践的英語力	
社会人としての姿勢	<input type="radio"/>
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB8454	ナンバリング	KB-GHS-131	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	水1	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	P	対象年次	2年次～4年次		
開講年度	2020年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	日本国憲法				
担当教員（ローマ字表記）	中野 雅紀				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

現代人権論Ⅱ

授業の概要/Course Overview

日本国憲法の基礎知識と、日本国憲法が成立した歴史的背景および思想・理論を習得することを目的とする。同時に、板書をただ書き写すだけでなく、それを自分のオリジナルなノートとして作成できる、という極めて大学生として基礎的な技術を身に付けてもらう。

キーワード/Keyword(s)

日本国憲法の三大原則、国民主権、基本的人権の尊重、平和主義、憲法改正の限界、社会契約論、国家からの自由、国家による自由、国家への自由

到達目標/Learning Objectives

まず、すべての講義に出席して、その講義内容をノートとして纏められるようにすること(ICプレーヤー等による講義の録音を認める)。また、毎回、講義後に提出してもらおうリアクションペーパーがきちんと書けるようになること。最後に、地方1種試験レベルの試験をパスできる程度の知識を取得すること。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- 第1講 基本的人権の基礎付けと分類(パート1)
- 第2講 基本的人権の基礎付けと分類(パート2)
- 第3講 公法と私法の分離と人権の享有主体性(パート1)
- 第4講 公法と私法の分離と人権の享有主体性(パート2)
- 第5講 平等原則と新しい人権(パート1)
- 第6講 平等原則と新しい人権(パート2)
- 第7講 精神的自由(表現の自由)の優越的地位と、その他の人権の司法審査基準について
- 第8講 まとめと期末試験(論述)、授業アンケート

【授業外学修】

予習はいらない。しかし、復習は毎日、最低でも5時間はしてもらいたい。と言うより、ノートを作製し、それに基づいて復習するのだから、最低限、それぐらいの時間は作業を含めて、当然かかるはずである。楽をして単位が来るものではない。また、限られた時間での講義であるから、丁寧な解説を試みるが、当然のことながら舌足らずの解説については講義後の調べ学習をするのは大学生としての義務であり、それなりの自己学習と自己マネジメントは不可欠である。最後に、わたしの見解に従う必要はまったくないが、反対あるいは批判するためには、それなりの根拠が必要である。すなわち、批判的な態度で講義を受けつつ、一生懸命に勉強していただきたい。新聞を読んだり、ニュースを視聴するのも勉強になる。書籍は中央図書館にあり、判例は最高裁判所のHPで観ることができるのだから、それらを駆使してもらいたい。

【アクティブ・ラーニング】

毎回の授業でリアクションペーパーの提出を求める

履修上の注意/Notes

おそらくは抽選によって履修が認められるのだから、途中で止めることは非常識である。オフィス・アワーは月曜日2-3。試験前には、質問コーナーを設けるので積極的に活用すること。教育実習には、配慮するがそれが免罪符になるわけではない。

情報端末の活用

成績評価基準/Evaluation criteria

A+ : 90点以上100点	到達目標を十分に達成し、きわめて優れた学修成果を上げている。
A : 80点以上90点未満	到達目標を達成し、優れた学修成果を上げている。
B : 70点以上80点未満	到達目標と学修成果を概ね達成している。
C : 60点以上70点未満	合格と認められる最低限の到達目標に届いている。
D : 60点未満	到達目標に届いておらず、再履修が必要である。

成績の評価方法/Grading

まず、出欠とリアクションペーパーで、ノート提出の採点の許可・不許可を決める。したがって、形式審査として100%。

上記要件を満たしている場合、内容審査としての論述式期末試験を受験してもらう。そこでは、出題内容への適切な解答がなされていることが大切であるが、併せて解答用紙の表面を全部埋めているか、起承転結のしっかりした論文構成がなされているかが評価される。これが、100%である。

教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	憲法判例百選I 第7版 (別冊ジュリスト)
著者名	長谷部 恭男 (編集), 石川 健治 (編集), 宍戸 常寿 (編集)
出版社	有斐閣
出版年	2019
ISBN	9784641115453
教材費	2300

教科書2

書名	憲法判例百選II 第7版 (別冊ジュリスト)
著者名	長谷部 恭男 (編集), 石川 健治 (編集), 宍戸 常寿 (編集)
出版社	有斐閣
出版年	2019
ISBN	9784641115460
教材費	2300

備考 時宜に応じて、レジユメを配布する。受講者数しか印刷しないので、配布された資料は一人一部を守ってください。

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	18歳から考える人権
著者名	穴戸常寿 編
出版社	法律文化社
出版年	2015
ISBN	9784589037121
教材費	2300

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	<input checked="" type="radio"/>
専門分野の学力	<input checked="" type="radio"/>
課題解決能力	<input type="radio"/>
コミュニケーション力	<input type="radio"/>
実践的英語力	<input type="radio"/>
社会人としての姿勢	<input checked="" type="radio"/>
地域活性化志向	<input type="radio"/>

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB8455	ナンバリング	KB-GHS-111	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	月4	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	A	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2020年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	日本国憲法				
担当教員（ローマ字表記）	古屋 等				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

憲法と統治機構

授業の概要/Course Overview

憲法とは何か、また国家権力はどのように行使されなければならないかを、憲法の基本原理をもとに理解することにより、統治機構のあり方やその機能について考えていきます。憲法の立憲主義や法の支配、国民主権や民主主義といった諸原理が、基本的人権の保障にとっていかなる役割や機能を果たすのかを関連づけて分かるようにします。

キーワード/Keyword(s)

近代立憲主義憲法、日本国憲法の基本原理(国民主権・民主主義・権力分立・法の支配)、憲法9条と平和主義・国際協調主義

到達目標/Learning Objectives

近代立憲主義憲法の意義、国民主権と国家権力の相互関係、国民の人権保障を目的とした憲法定と国家成立、憲法による人権保障のシステム(権力分立・民主主義・法の支配)について理解し、日常生活において生じるさまざまな法的問題を、基本的人権の観点から捉えて分析し、適切に評価し判断することができる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

【授業内容】

- 第1回：シラバスを用いたガイダンスと導入【講義レジュメNo.1】
- 第2回：憲法の意義と立憲主義【講義レジュメNo.2】
- 第3回：日本国憲法の基本原理①(国民主権)【講義レジュメNo.2】
- 第4回：日本国憲法の基本原理②(民主主義・権力分立)【講義レジュメNo.2】
- 第5回：日本国憲法の基本原理③(法の支配・平和主義)【講義レジュメNo.3】
- 第6回：憲法9条と平和主義、小テスト【講義レジュメNo.1～3】
- 第7回：憲法9条と国際協調主義【講義レジュメNo.3】
- 第8回：まとめ(45分)、試験(45分)

【授業外学修】

- (1)第1回から第8回まで、穴埋め式のレジュメを使用して、重要な用語を空欄に記入しながら、授業のポイントについて理解してもらいます。レジュメは事前に配布しますので、空欄に当てはまる用語について、テキストの該当ページをよく読んで、自分で検討を行ったうえで、授業を聴いて正しい用語を入力するようにしてください。
- (2)各レジュメの終了後、授業で使用したパワーポイントをPDF資料にして教務情報ポータルシステムに掲示しておきますので、小テストや期末試験に向けた復習のために使用してください。
- (3)期末試験は、各レジュメの空欄に記入してもらって用語のうち、マーカーで記してもらったものを中心に出题していきます。試験にあたり、レジュメや授業で使用したパワーポイントのPDF資料を再確認してもらうとともに、小テストで間違った部分は、漢字を含めて理解し直しておいてください。

履修上の注意/Notes

1.授業の進度にあわせて、レジュメや教科書の該当箇所をよく読み、レジュメの空欄を穴埋めするなどして、事前に授業のポイントについて理解しておいてください。2.授業の妨げになりますので、途中入室(遅刻)はしないでください。3.オフィス・アワー：火曜日昼休み。4.授業中の小テストも成績評価の対象になりますので、欠席しないようにしてください。5.その他、やむを得ない理由で欠席する場合には、メール等で連絡をお願いします。

情報端末の活用

・授業で使用するレジュメや授業で使ったパワーポイントは、事後に教務情報システムにも配信しておきますので、必要に応じて、パソコンで閲覧して確認してください。

成績評価基準/Evaluation criteria

A+： 90点以上100点	到達目標を十分に達成し、きわめて優れた学修成果を上げている。
A： 80点以上90点未満	到達目標を達成し、優れた学修成果を上げている。
B： 70点以上80点未満	到達目標と学修成果を概ね達成している。
C： 60点以上70点未満	合格と認められる最低限の到達目標に届いている。
D： 60点未満	到達目標に届いておらず、再履修が必要である。

成績の評価方法/Grading

1.授業中（第6回）に行う小テストを20%、期末テストを80%の割合で合算して評価します(すべて参照不可)。2.期末テストは第8回に実施します。3.出席は毎回とります。

教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	国家と社会の基本法（第4版）
著者名	上野幸彦, 古屋等 著
出版社	成文堂
出版年	2018
ISBN	9784792306335
教材費	2750

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	憲法（第7版）
著者名	芦部信喜 著, 高橋和之 補訂
出版社	岩波書店
出版年	2019
ISBN	9784000227995
教材費	3520

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	○
専門分野の学力	◎
課題解決能力	○
コミュニケーション力	△
実践的英語力	
社会人としての姿勢	◎
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

--

PBL科目

--

地域志向科目

--

使用言語

日本語のみ

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB8456	ナンバリング	KB-GHS-111	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	月4	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	A	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2020年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	日本国憲法				
担当教員（ローマ字表記）	古屋 等				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

憲法と人権保障

授業の概要/Course Overview

基本的人権とは何か、どのような人権が含まれるのか、人権の中核とされる自由権は、その種類に応じていかなる保障と制約を受けなければならないのかを、公共の福祉の原理をもとに、具体的な事例を交えて考察していきます。また、社会権の自由権との関係と限界、法の支配の原理の発現としての違憲審査制度について学びます。

キーワード/Keyword(s)

基本的人権、公共の福祉、精神的自由権・経済的自由権、社会権、司法審査、法の支配、違憲審査

到達目標/Learning Objectives

基本的人権は、個人の尊重と平等を理念とし、特に自由権は、社会的影響の有無や大きさにより、公共の福祉の原理により一定の制約を受けること。その程度は、精神的自由権と経済的自由権により異なり、自由権に対する具体的な制約は、国民代表機関である国会の法律により行われること。その合憲性の審査は、最終的に裁判所によって行われなければならないことを、法の支配の原則をもとに理解することができる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

【授業内容】

- 第1回：シラバスを用いたガイダンスと導入
 第2回：基本的人権の観念と種類【講義レジュメ No.4】
 第3回：基本的人権の保障と限界(公共の福祉)【講義レジュメ No.4】
 第4回：精神的自由権(内心の自由・表現の自由)【講義レジュメ No.5】
 第5回：経済的自由権(職業選択の自由・財産権)【講義レジュメ No.5】
 第6回：社会権の保障(生存権・教育の機会均等)、小テスト【講義レジュメ No.4～5】
 第7回：法の支配と違憲審査【講義レジュメ No.6】
 第8回：まとめ(45分)、試験(45分)

【授業外学修】

- (1)第1回から第8回まで、穴埋め式のレジュメを使用して、重要な用語を空欄に記入しながら、授業のポイントについて理解してもらいます。レジュメは事前に配布しますので、空欄に当てはまる用語について、テキストの該当ページをよく読んで、自分で検討を行ったうえで、授業を聴いて正しい用語を入力するようにしてください。
- (2)各レジュメの終了後、授業で使用したパワーポイントをPDF資料にして教務情報ポータルシステムに掲載しておきますので、小テストや期末試験に向けた復習のために使用してください。
- (3)期末試験は、各レジュメの空欄に記入してもらって用語のうち、マーカーで記してもらったものを中心に出题していきます。試験にあたり、レジュメや授業で使用したパワーポイントのPDF資料を再確認してもらうとともに、小テストで間違った部分は、漢字を含めて理解し直

しておいてください。

履修上の注意/Notes

1.授業の進度にあわせて、レジュメや教科書の該当箇所をよく読み、レジュメの空欄を穴埋めするなどして、事前に理解しておいてください。2.授業の妨げになりますので、途中入室(遅刻)はしないでください。3.オフィス・アワー：火曜日昼休み。4.授業中の小テストも成績評価の対象になりますので、欠席しないようにしてください。5.その他、やむを得ない理由で欠席する場合には、メール等で連絡をお願いします。

情報端末の活用

・授業で使用するレジュメや授業で使ったパワーポイントは、事後に教務情報システムにも配信しておきますので、必要に応じて、パソコンで閲覧して確認してください。

成績評価基準/Evaluation criteria

A+： 90点以上100点	到達目標を十分に達成し、きわめて優れた学修成果を上げている。
A： 80点以上90点未満	到達目標を達成し、優れた学修成果を上げている。
B： 70点以上80点未満	到達目標と学修成果を概ね達成している。
C： 60点以上70点未満	合格と認められる最低限の到達目標に届いている。
D： 60点未満	到達目標に届いておらず、再履修が必要である

成績の評価方法/Grading

1.授業中(第6回)に行う小テストを20%、期末テストを80%の割合で合算して評価します(すべて参照不可)。2.期末テストは第8回に実施します。3.出席は毎回とります。

教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	国家と社会の基本法
著者名	上野幸彦, 古屋等 著
出版社	成文堂
出版年	2018
ISBN	9784792306335
教材費	2750

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	憲法 (第7版)
著者名	芦部信喜 著, 高橋和之 補訂
出版社	岩波書店
出版年	2019
ISBN	9784000227995
教材費	3520

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	○
専門分野の学力	◎
課題解決能力	○
コミュニケーション力	△
実践的英語力	
社会人としての姿勢	◎
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

--

PBL科目

--

地域志向科目

--

使用言語

日本語のみ

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--